文部科学省委嘱

平成１９年度
高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業

平成２０年度
道徳教育実践研究事業

研究報告書

平成２１年３月
石川県立小松工業高等学校

はじめに

本校は平成１９年度から２年間、文部科学省より委嘱を受け、「職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育」を研究テーマに設定し、生徒が人間や社会に目を向け人間としての在り方や生き方を考える教育を推進するための実践研究に取り組んでまいりました。昨年度は、学校行事を主体とした幾つかの取組に加えて、「道徳性育成の視点」を盛り込んだ英語科の研究授業を公開しました。今年度は２年目を迎え、各教科・科目並びにロングホームルームでの取組に重きを置き、小松市立御幸中学校との連携を深めながら研究を進めてまいりました。

研究をスタートするにあたり、最初に直面した課題は「人間としての在り方生き方」つまり「道徳」をどのように教えるかということでした。高等学校には小中学校のような「道徳の時間」はありません。しかし、学習指導要領（平成１１年）には、「学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。」と示されています。

従来高等学校段階では道徳教育をあまり意識してきませんでしたが、それこそ教育活動の全体を通じて実践してきたことの中に道徳教育が存在していたと確信します。なぜなら、教育の目的は「人格の完成」にあるからです。人格の完成を「すぐれた道徳性を備えた人間となること」と捉えるならば、教育とは知識の切り売りではなく、究極的には道徳教育であると言えるのではないでしょうか。そのため、学校の教育活動全体を通じて、道徳教育を行うことが求められているものと思います。このように、教育基本法の理念に沿った教育を実施していれば、教育のどこかで道徳教育を意識するしないにかかわらず実施してきたはずであります。今回の実践は、今まで意識してこなかったことについて、今一度道徳性の育成という視点から、学校教育全体を見つめ直すきっかけとなったと感じています。

人間は、等しく「人間として生きる資質」をもって生まれ、環境との様々なかかわりをとおしてそれぞれの資質が開花し、固有の人格が形成されるものと考えます。その過程で「人間としての在り方生き方」を自問することにより人格は磨かれます。本来、人間は「よりよく生きたい」という願望をもっており、この実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立ちます。また、道徳教育は、そのような実践を環境とのかかわりを深めることをとおし行う人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養うものであり、教育が「人格の完成」を目指している以上、すべての教育活動が道徳教育と関係をもつのであります。この部分に道徳教育の意義があるのではないでしょうか。

全校あげての熱意とエネルギーには自信はありますが、何分にも先達のあまりない分野の研究ですので、体系づけや一般性を含めての道徳教育の方向性は試行錯誤の段階です。今回はそのレベルでの研究報告書とご理解いただきたいと存じます。文部科学省はじめ石川県教育委員会、実践研究事業研究協議会及び関係の方々から貴重なご指導ご助言をいただき大変感謝しております。工業の専門高校としての特色を生かしつつ、時代や社会のニーズにあった道徳教育をいかにして進めていくか、大きな責任を痛感しております。

報告書にはこのような取組の一端がまとめてありますので、ご覧いただき忌憚のないご意見等をお聞かせ願えれば幸いです。

平成２１年３月　　校長　村上　哲夫

目次

１　学校の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１－１　本校の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（１）　学校名、校長名・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（２）　所在地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（３）　学年・課程・学科別生徒数・・・・・・・・・・・ 2
（４）　出身中学校別生徒数・・・・・・・・・・・・・・ 2
（５）　職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
１－２　校訓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
１－３　教育目標・教育方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（１）　教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（２）　生徒に関する中・長期的目標・・・・・・・・・ 3
（３）　教科指導の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（４）　進路指導の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（５）　保健指導の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（６）　生徒指導の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（７）　学科目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
１－４　平成２０年度実施教育課程・・・・・・・・・・・・・・・ 5
１－５　平成１９年度卒業生進路状況・・・・・・・・・・・・・・ 8
２　研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
２－１　実践研究の委嘱期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
２－２　研究委嘱事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
２－３　本校の研究課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
（１）　研究課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
（２）　研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
（３）　研究のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
（４）　研究計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
２－４　研究の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（１）　研究組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（２）　研究委員会の構成・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
２－５　研究経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
（１）　平成１９年度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
（２）　平成２０年度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
３　主な取り組み内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
３－１　学校行事をとおした実践・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
（１）　ボランティア遠足・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
（２）　ボランティア清掃・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（３） PTA･生徒の本音で語る会・・・・・・・・・・・・・16
（４） 外部講師事業（いのちと心の教育）・・・・・・・17
３－２ 教科学習をとおした実践・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
（１） インターンシップ学習・・・・・・・・・・・・・・19
（２） デュアルシステム・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
（３） 外部講師事業（工業科）・・・・・・・・・・・・・ 22
（４） 学校開放講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
３－３ 小・中学校との連携事業・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
（１） 小学生への出前授業・・・・・・・・・・・・・・・・25
（２） 中学生への出前授業・・・・・・・・・・・・・・・・26
３－４ 道徳教育全体計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
３－５ 公開授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
（１） 「いしかわ教育ウィーク」における公開授業・・29
（２） 研究発表会における公開研究授業・・・・・・・ 38
３－６ 職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
（１） 先進校視察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
（２） 道徳だよりの発行・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
（３） 高等学校特別活動研究協議会伝達講習・・・・・ 51
（４） 技術者倫理講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
３－７ 道徳性に関する意識調査・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
（１） 調査のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
（２） アンケート結果の概要・・・・・・・・・・・・・ 53
４ 研究の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
４－１ 結果の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
（１） 育成したい資質や能力の明確化・・・・・・・・ 62
（２） 前記資質・能力を把握する手立ての確立・・・・ 62
（３） 指導方法等の開発と実践・・・・・・・・・・・・ 63
４－２ 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
（１） 中学校との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
（２） アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
５ まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

○ 資料

資料１ 平成２０年度道徳教育全体計画・・・・・・・・・・・・・ 66
資料２ 「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表・・・・ 67
資料３ ＬＨＲを活用した「道徳の時間」の指導事例・・・・・ 69
資料４ 公開研究授業発話記録・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
資料５ 講演会記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
資料６ 平成２０年度道徳教育年間指導計画・・・・・・・・・・ 126

１　学校の概要

１－１　本校の沿革

本校は、昭和 14 年に(株)小松製作所の創業者である竹内明太郎氏の寄附により創立された県立高校である。人口 11 万弱の小松市の郊外に位置し、緑豊かな水田に囲まれ、名峰「白山」を真正面に望む環境にある。現在は、工業系 6 学科からなる重装備の工業高校であり、生徒は、部活動・資格取得・ものづくりなど、それぞれの目標に向かって取り組んでいる。

なお、小松市は、建設機械の世界シェア第 2 位のコマツ（(株)小松製作所）の発祥地であり、小松市とその周辺は日本有数の機械工業の産業集積地域である。 機械工業以外にも、各種企業の事業所・工場等が小松市を含む南加賀地方に集積しており、小松市とその一帯は北陸随一の産業地帯としてのイメージが強い。

こういった地域に支えられ、現在、卒業時に約 7 割の生徒が地元企業に就職している。

年　月	記　　事
昭和 14 年 4 月	石川県立小松工業学校と称し、機械科と電気科を 設置し県立小松中学校を仮校舎として開設
昭和 23 年 4 月	小松商業学校と合併し、石川県立小松実業高等学校を設立 紡織科を新設
昭和 24 年 4 月	総合制石川県立小松高等学校を設置 普通課程・商業課程・工業課程・家庭課程・農業課程
昭和 27 年 4 月	石川県立小松実業高等学校と石川県立小松高等学校に分離
昭和 40 年 4 月	商業科廃止により、石川県立小松工業高等学校と改称 工業化学科新設
昭和 41 年 4 月	建築科新設
昭和 42 年 4 月	土木科新設
昭和 48 年 4 月	紡織科を繊維工学科と科名変更
昭和 61 年 3 月	情報教育実習室完成(ミニコン・パソコン 23 台)
平成 2 年 4 月	機械科の募集を停止し、機械システム科を新設
平成 6 年 4 月	電気科 1 クラスの募集を停止し、電子情報科を新設 工業化学科、繊維工学科の募集を停止し、マテリアル科を新設
平成 7 年 6 月	100 校プロジェクトによりインターネット接続完了（回線速度：28.8kbps）
平成 8 年 4 月	機械システム科１クラスの募集停止
平成 9 年 4 月	新 100 校プロジェクトとしてインターネット接続を継続
平成 9 年 10 月	インターネット接続回線を「高速ディジタル 64kbps」に変更
平成 10 年 4 月	「光ファイバー網による学校ネットワーク活用方法研究開発事業」に参加
平成 11 年 1 月	インターネット接続回線を「OCN スタンダード」に変更完了 (回線速度：1.5Mbps)
平成 11 年 10 月	創立 60 周年記念式典および近 10 年史発刊 校内 LAN 幹線・100Mbps(光ファイバー)を新設(同窓会 60 周年記念事業として寄贈される)
平成 12 年 8 月	第 82 回全国高等学校野球選手権大会（甲子園）出場
平成 13 年 1 月	「光ファイバー網による学校ネットワーク活用方法研究開発事業成果発表会」開催
平成 16 年 11 月	竹内明太郎を共に「学祖」とする高知県立高知工業高等学校と姉妹校提携
平成 20 年 4 月	機械テクニカル科を新設 建築科、土木科の募集を停止し、建築土木科を新設

（1） 学校名、校長名

学校名　石川県立小松工業高等学校（いしかわ　こまつこうぎょう）

校長名　村上　哲夫

（2） 所在地

〒 923-8567 石川県小松市打越町丙 67 番地

TEL：0761-22-5481　/　FAX：0761-22-8491

（3） 学年・課程・学科別生徒数

課程	学科	1年(男･女･ｸﾗｽ)			2年(男･女･ｸﾗｽ)			3年(男･女･ｸﾗｽ)			合計		
全日制	機械システム科	39	1	(1)	35	0	(1)	40	0	(1)	114	1	(3)
	機械テクニカル科	40	0	(1)							40	0	(1)
	電気科	40	0	(1)	39	0	(1)	40	0	(1)	119	0	(3)
	電子情報科	40	0	(1)	37	0	(1)	35	4	(1)	112	4	(3)
	建築土木科	29	12	(1)							29	12	(1)
	建築科				29	10	(1)	24	12	(1)	53	22	(2)
	土木科				40	0	(1)	38	0	(1)	78	0	(2)
	マテリアル科	25	16	(1)	23	15	(1)	22	16	(1)	70	47	(3)
合計		213	29	(6)	203	25	(6)	199	32	(6)	615	86	(18)

（平成２０年５月１日現在）

（4） 出身中学校別生徒数

地区	白山				能美				小松										加賀・江沼						その他	合計
中学校	松任	光野	笠間	美川	川北	根上	寺井	辰口	松東	国府	中海	板津	丸内	安宅	芦城	松陽	御幸	南部	山中	山代	東和	片山津	錦城	橋立		
1年		2	7	16		6	18	4	3	6	7	8	10	11	27	32	12	30	5	20	7	2	8		1	242
2年	2			5	3	11	5	14	5	5	7	5	9	12	22	35	12	25	7	8	8	5	17	4	2	228
3年				3	1	21	10	9	9	10	9	4	9	4	18	33	8	36	9	6	22	3	4	2	1	231
合計	2	2	7	24	4	38	33	27	17	21	23	17	28	27	67	100	32	91	21	34	37	10	29	6	4	701

（平成２０年５月１日現在）

（5） 職員数

職種	校長	教頭	教諭	養護教諭	実習教諭	英語指導助手	事務長	企画管理専門員	主任主事	司書	臨任講師	非常勤講師	技師（技能員）	購買	学校医	学校歯科医	学校薬剤師	合計
男	1	2	43		9	1	1	1			7		1		1	1	1	69
女			6	1				1	2	1	1			1				13
計	1	2	49	1	9	1	1	2	2	1	8		1	1	1	1	1	82

教諭数は内地留学１・育休２を含む。主任主事数は育休１を含む（平成２０年５月１日現在）

１－２　校訓

『自重自治　質実剛健』

１－３　教育目標・教育方針

（１）　教育目標

1) 工業の専門高校として、地域の産業の発展に貢献できる有為な産業人を育成する。
（工業高校卒業生として、地域の産業の発展に貢献しようとする生徒）
2) 誠実を尊び、規律を守り、豊かな心、たくましい体力と実践力を持った人材を育成する。
（遵法精神を持ち、誠実で、豊かな人間性や健康・体力を備えた生徒）
3) 自ら専門技術の練磨を図り、科学的な探究心を持ち、創意工夫する人材を育成する。
（向上心を持ち、自ら意欲的に課題の解決に努める生徒）

（２）　生徒に関する中・長期的目標

1) 学校での授業・実習を基本にしながら、家庭学習を習慣づけることにより、基礎学力の定着を図る。
2) 基本的な生活習慣を確立し､心身ともに充実した高校生活を送ることを指標とする。
3) 専門教科・領域への興味・関心を高めるとともに、インターンシップ等をとおして勤労観・職業観の育成を図る。
4) 学校行事、部活動、生徒会行事等の集団活動をとおして、互いに協力することの大切さや、自己の役割と責任について自覚し、人間力の育成に努める。

（３）　教科指導の重点

1) 生徒の実態に即した効果的な学習指導方法について､実践をとおして研究を進める。
2) 図書館の利用・家庭学習の徹底により、自主的・積極的な学習態度を養う。
3) 教育機器の活用により、効果的な学習指導を図る。
4) 各種資格・検定の受験指導により、学習の目標意識を高める。

（４）　進路指導の重点

以下の方針のもと、基本的な生活習慣の確立をめざし、生徒の実態と適性に応じた進路選択を支援することを目標として指導に当たる。

1) 絶えず自己を見つめ、多くの先輩の諸分野での活躍に感謝しながら、良き伝統と校風を守り、より生き生きした活力ある学校づくりへの参加を促進することにより心身ともに健全な人物の育成をめざす。
2) 産業界の飛躍的な進歩発達に対応できるよう基礎学力と自己教育力の向上を図る。
3) 生徒には低学年からの体系的な進路指導を、保護者には多くの情報を提供することにより適材適所の進路選択ができるように努める。
4) 就職を希望する生徒には、社会の経済情勢・産業界の動向に即した職場情報を提供し適切な進路の決定を促す。
5) 進学を希望する生徒には、毎日の学習の習慣づけと学力の向上を目指し志望校への合格はもちろんのこと、入学後の学力の安定を図る。

（５）　保健指導の重点

心身の健康の基礎的な事項について理解を深め、これに基づいて自主的に健康の保持増進に努める能力と態度を養うことを方針として、以下のことを重点として取り組む。

1) 学校生活おける健康や安全について必要な諸問題を考えて、その改善に努力する。
2) 事故防止について理解を深め、実践的な態度を養う。
3) 自分や他人のいのちについて考え思いやりの心、態度を養う。

（６） 生徒指導の重点

指導方針は以下の３点である。

1) 望ましい工業人の育成をめざす。
2) 生徒一人一人の実態の把握と理解を深め、その個性を尊重し、自主性の伸張を図る。
3) 安全教育を通じて人命の尊重を期し、学校生活・社会生活における秩序の理解と遵法精神の涵養に努める。

以下の２項目を重点目標に据え、指導に当たる。

1)「 命の大切さ」を基調として、基本的生活習慣の確立と躾の指導に努める。
2) 交通安全指導の徹底を図る。

（７） 学科目標

1) 機械システム科
　機械加工技術と機械制御技術を軸に、基礎・基本から先端技術までを修得し、これらの業務に従事する者としての資質を養う。
2) 機械テクニカル科
　実践的かつ高度な機械加工技術・技能を修得し、機械産業を支えるに足る技術者として必要な能力と態度を養う。
3) 電気科
　電気技術の基礎・基本からパワーエレクトロニクスの最先端技術までを修得し、これらの業務に従事する者としての資質を養う。
4) 電子情報科
　コンピュータとエレクトロニクスに関する技術を修得し、電子・情報・通信・制御に関する業務に従事する者としての資質を養う。
5) 建築土木科
　土木・建築の基礎・基本からそれぞれの分野の先端技術までを修得し、将来快適な生活環境空間を創造する技術者となるに必要な資質を養う。
6) 建築科
　空間デザインに関する基礎・基本から総合的企画力に至るまでを修得し、建築物の設計・施工・監理・指導などの業務に従事する者としての資質を養う。
7) 土木科
　自然環境の保全、生活空間および生産基盤の設計・施工・管理に関する知識と技術を修得し、環境創造にかかわる業務に従事する者としての資質を養う。
8) マテリアル科
　産業の基盤を支えるプラスチック・繊維・セラミックス・ニューマテリアル等の素材に関する知識と技術を修得し、これらの業務に従事する者としての資質を養う。

１－４　平成２０年度実施教育課程

全学科共通（普通科目・総計）　　（＊選択科目）

教　科	科目／学年	1年	2年	3年	計
国　　語	国語表現Ⅰ		＊2	＊2	0・2
	国語総合	3	2		5
	現代文			2	2
地理　歴史	世界史A		2		2
	日本史A			2	2
	地理A			2	2
公民	現代社会	2			2
数　　学	数学基礎			☆2	0・2
	数学Ⅰ	3			3
	数学Ⅱ		2・＊2		2・4
	数学Ⅲ			☆2	0・2
	数学B			＊2	0・2
理　　科	理科総合A	2			2
	物理Ⅰ		3		3
	物理Ⅱ			＊2	0・2
	化学Ⅰ		3		3
保健体育	体育	3	2	3	8
	保健	1	1		2
芸　術	美術Ⅰ	2			2
外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ			2	2
	英語Ⅰ	2			2
	英語Ⅱ		2・＊2	＊2	2・4・6
家　庭	家庭基礎		2		2
情　報	情報A・B	「情報技術基礎」で２単位分を代替			
合　計	普通科目 M・E・D A・C・S	１８	１６・２０	１１・１５	45・49・53
	工業科目 M・E・D A・C・S	１１	９・１３	１４・１８	34・38・42
ホームルーム		1	1	1	3
総合的な学習の時間		「課題研究」で３単位分を代替			
総　　計		３０	３０	３０	９０

表中M・K・E・D・B・A・C・Sはそれぞれ次の学科を表す　M:機械システム・K:機械テクニカル・E:電気・D:電子情報
B:建築士木・A:建築・C:土木・S:マリン
2年理科でM・E・D・Aは物理Ⅰ、C・Sは化学Ⅰを履修・3年理科でM・E・D・Aは物理Ⅱ、C・Sは化学Ⅱを履修
3年地理歴史でM・E・D・Aは日本史A、C・Sは地理Aを履修

学科	機械システム科				機械テクニカル科			
教科	科目／学年	1	2	3	科目／学年	1	2	3
工業	工業技術基礎	2			工業技術基礎	3		
	課題研究			3	製図	2		
	実習		5・*2	5・*2	情報技術基礎	2		
	製図	2	2	2	材料技術基礎	2		
	情報技術基礎	3			電気基礎	2		
	生産システム技術	2	*2	*2				
	機械工作		*2	*2				
	機械設計	2	2	2・*2				
	原動機		*2					
	工業材料			2				
	○情報処理技術		*4	*4				
	○ボイラー設備管理		*2	*2				
	○危険物管理技術		*2	*2				
	○電気工事		*2	*2				
総合	○就業体験							
	小計	11	9・13	14・18	小計	11		

学科	電　　気　　科				電　子　情　報　科			
教科	科目／学年	1	2	3	科目／学年	1	2	3
工業	工業技術基礎	2			工業技術基礎	2		
	課　題　研　究			3	課　題　研　究			3
	実　　習	2	4・*2	3・*2	実　　習		5・*2	5・*2
	製　　図			2	情報技術基礎	3		
	情報技術基礎	2			電　気　基　礎	4	2・*2	
	電　気　基　礎	5	2・*2		電　気　機　器		*2	
	電　気　機　器		3・*2		電　力　技　術			*2
	電　力　技　術			3・*2	電　子　回　路		2	2
	電　子　技　術			3	電子計測制御			*2
	電子計測制御			*2	通　信　技　術		*2	
	通　信　技　術		*2		ﾊｰﾄﾞｳｪｱ技術	2		2
	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ 応用			*4	ｿﾌﾄｳｪｱ技術			2
					ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ応用			*4
	○ 電 気 法 規			*2	○ 電 気 法 規			*2
	○ﾈｯﾄﾜｰｸ技術		*4		○ﾈｯﾄﾜｰｸ技術		*4	
業	○ 電 子 工 作		*4		○ 電 子 工 作		*4	
	○ものづくり技術			*4	○ものづくり技術			*4
	○情報処理技術		*4	*4	○情報処理技術		*4	*4
	○ﾎﾞｲﾗｰ設備管理		*2	*2	○ﾎﾞｲﾗｰ設備管理		*2	*2
	○危険物管理技術		*2	*2	○危険物管理技術		*2	*2
	○電 気 工 事		*2	*2	○電 気 工 事		*2	*2
総合	○就 業 体 験				○就 業 体 験			
	小　　計	11	9･13	14･18	小　　計	11	9･13	14･18

学科	建　築　土　木　科				建　　築　　科			
教科	科目／学年	1	2	3	科目／学年	1	2	3
工業	工業技術基礎	3			課　題　研　究			3
	実　　習	2			実　　習		3･*4	5・*2
	製　　図	2			製　　図		2	2
	情報技術基礎	2			建　築　構　造		2	
	建築構造設計	2			建　築　施　工			2・*2
					建築構造設計		2	
					建　築　計　画			*2
					建　築　法　規			2
業								
					○情報処理技術		*4	*4
					○ﾎﾞｲﾗｰ設備管理		*2	*2
					○危険物管理技術		*2	*2
					○電 気 工 事		*2	*2
総合					○就 業 体 験			
	小　　計	11			小　　計		9･13	14･18

学科	土　木　科				マ テ リ ア ル 科			
教科	科目／学年	1	2	3	科目／学年	1	2	3
工業	課題研究			3	工業技術基礎	4		
	実習		2・*2	4・*2・*4	課題研究			3
	製図		2	2	実習		6・*2	6・*2
	測量		3		製図	2		
	土木施工		2	2	情報技術基礎	2		
	土木基礎力学			3	材料技術基礎		3	
	土木構造設計		*2		生産ｼｽﾃﾑ技術		*2	*2
	社会基盤工学		*2		化学工学		*2	
	地球環境化学		*2		地球環境化学	3		*2
					セラミック技術			2
					繊維・染色技術		*2	*2
					染織デザイン		*2	*2
					○高分子材料			3
	○情報処理技術		*4	*4	○情報処理技術		*4	*4
	○ﾎﾞｲﾗｰ設備管理		*2	*2	○ﾎﾞｲﾗｰ設備管理		*2	*2
	○危険物管理技術		*2	*2	○危険物管理技術		*2	*2
	○電気工事		*2	*2	○電気工事		*2	*2
総合	○就業体験				○就業体験			
	小計		9・13	14・18	小計	11	9・13	14・18

2年生選択ｺｰｽ	普通科目	工業科目	
機械システム科	1.数学Ⅱ(2) 英語Ⅱ(2) 2 国語表現Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 3 国語表現Ⅰ(2) 英語Ⅱ(2) (全学科共通)	1.情報処理技術(4) 2.実習(2) ・ﾎﾞｲﾗｰ設備管理(2) 3.実習(2) ・危険物管理技術(2) 4.実習(2) ・電気工事(2) (全学科共通)	1.機械工作(2)・原動機(2) 2.実習(2)・生産ｼｽﾃﾑ技術(2)
電気科 電子情報科			1.電気基礎(2)・電気機器(2) 2.実習(2)・通信技術(2) 3.ﾈｯﾄﾜｰｸ技術(4)・電子工作(4) (電気科・電子情報科共通)
建築科			1.実習(4) 2.実習(4)
土木科			1.土木構造設計(2) 2.社会基盤工学(2) 共通　地球環境化学(2)
マテリアル科			1.生産ｼｽﾃﾑ技術(2)・化学工学(2) 2.繊維・染色技術(2) 染織ﾃﾞｻﾞｲﾝ(2)

3年生選択ｺｰｽ	普通科目	工業科目	
機械システム科	1.数学B(2) 英語Ⅱ(2) 2.数学B(2) 物理Ⅱ(2) 3.数学B(2) 国語表現Ⅰ(2) 4.英語Ⅱ(2) 物理Ⅱ(2) 5.国語表現Ⅰ(2) 英語Ⅱ(2) (全学科共通)	1.情報処理技術(4) 2.実習(2) ・ﾎﾞｲﾗｰ設備管理(2) 3.実習(2) ・危険物管理技術(2) 4.実習(2) ・電気工事(2) (全学科共通)	1.機械工作(2)・実習計(2) 2.生産ｼｽﾃﾑ技術(2)・実習(2) 3.機械設計(2)・実習(2)
電気科 電子情報科			1.電気法規(2)・電力技術(2) 2.実習(2)・電子計測制御(2) 3.ものづくり技術(4) 4.ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ応用(4) (電気科・電子情報科共通)
建築科			1.実習(2)・建築施工(2) 2.実習(2)・建築計画(2)
土木科			1.実習(4)（測量） 2.実習(4)（情報）
マテリアル科			1.生産ｼｽﾃﾑ技術(2)・化学工学(2) 2.繊維・染色技術(2) 染織ﾃﾞｻﾞｲﾝ(2)

・工業科目のうち全学科共通の科目は、資格取得を目指すもので、1. 4. の科目を選択する場合は2・3年連続履修であり、2. 3. の科目を選択する場合はそれぞれ1年間の履修である。

１－５　平成１９年度卒業生進路状況

地域別・学科別進路決定状況

			機械ｼｽﾃﾑ	電気	電子情報	建築	土木	ﾏﾃﾘｱﾙ	合計
就職	県外	関　東	0	0	1	0	0	0	1
		関　西	0	2	0	0	0	0	2
		中　部	2	0	0	0	0	0	4
		計	2	2	0	0	0	0	7
	県内	加　賀	3	2	6	3	1	1	18
		小　松	22	14	8	16	16	16	84
		能　美	2	4	5	3	6	6	27
		白　山	1	3	1	2	3	3	20
		金　沢	2	3	1	2	3	3	11
		計	30	26	21	26	29	29	160
	就職者数		32	28	22	26	29	29	167
	就職未定者数		0	0	0	0	0	0	1
進学	大　学		5	7	10	8	0	0	34
	短　大		1	1	1	1	9	0	4
	専門・その他		2	3	6	4	9	9	28
	進学者数		8	11	17	13	9	9	66
	進学未定者数		0	0	0	0	0	0	0
総合計			40	39	39	39	38	38	234

（平成２０年３月末日現在）

就職の方法

	機械ｼｽﾃﾑ	電気	電子情報	建築	土木	ﾏﾃﾘｱﾙ	合計
学校推薦	31	27	22	22	29	28	159
縁故就職	0	0	0	4	0	0	4
家業従事	0	0	0	0	0	0	0
公務員	1	1	0	0	0	2	4
その他	0	0	0	0	0	0	0
合　計	32	28	22	26	29	30	167

（平成２０年３月末日現在）

２　研究の概要

２－１　実践研究の委嘱期間

平成１９・２０年度の２年間

２－２　研究委嘱事項

青年期の特質を踏まえ、生徒が人間や社会に目を向け、人間としての在り方や生き方を考える教育を推進するための実践研究を行う。

２－３　本校の研究課題

（１）　研究課題

工業高校としての専門教育・職業教育をとおして、人間としての在り方生き方を考える能力を育む教育課程および指導方法の研究（平成１９年度）

人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育（平成２０年度）

（２）　研究主題

職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育

（３）　研究のねらい

工業高校の生徒にとって、「人間としての在り方」とは社会や地域の発展に貢献できる産業人としての自覚と目的意識を持つこと、「生き方」とは将来の生き方や職業を考え、計画しそれを実行できる能力を養うことである。

生徒の進路希望を確認し、地域にはどのような企業があるのか、専門の教科等の学習をとおし自分がどのような仕事に向いているのか、働くとはどのようなことなのか、仕事とは何か、製品ができる過程はどうなっているのか、また、就職するにあたりどのような資格・技能が必要なのか等を考えさせ、自己の進路の目標に向けて着実に努力を重ねてゆく生徒を育てていきたい。

また、高等学校における「人間としての在り方生き方」の指導をより実のあるものとするには、中学校からの道徳指導の接続にも配慮すべきものと考える。

従って、研究主題を「職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育」とし、具体的には以下のことに取り組む。

1) 育成したい資質や能力の明確化
- 産業人としての自己の役割を自覚する態度
- 将来の生き方や進路を考え、計画を立て、実行する能力
- 適切なコミュニケーションを図りながら、豊かな人間関係を築く能力

2) 前記資質・能力を把握する手立ての確立
- 地域研究重点校の中学校の研究ポイントである「人と関わる力の育成」との連携を踏まえた実践
- アンケートの実施
- 様々な活動等の観察・面接・作文・レポートおよび外部からの意見・感想

3) 指導方法等の開発と実践
- インターンシップやデュアルシステムの実施
- 外部講師事業
- 小・中学校との連携（ものづくり）
- 学校行事をとおした実践

なお、職業教育とは、将来の職業を自らの意志と責任で選択できるよう、働くことの意

義を理解させたうえで、専門的な知識・技能を習得させていく教育と捉えている。私たちの工業高校で行われる教育活動のすべてを職業教育と捉え、この職業教育の中に「人間としての在り方生き方」の要素を意識することによって、教育活動の全体として道徳性の育成につながるものと考える。

（４） 研究計画

（第１年度）

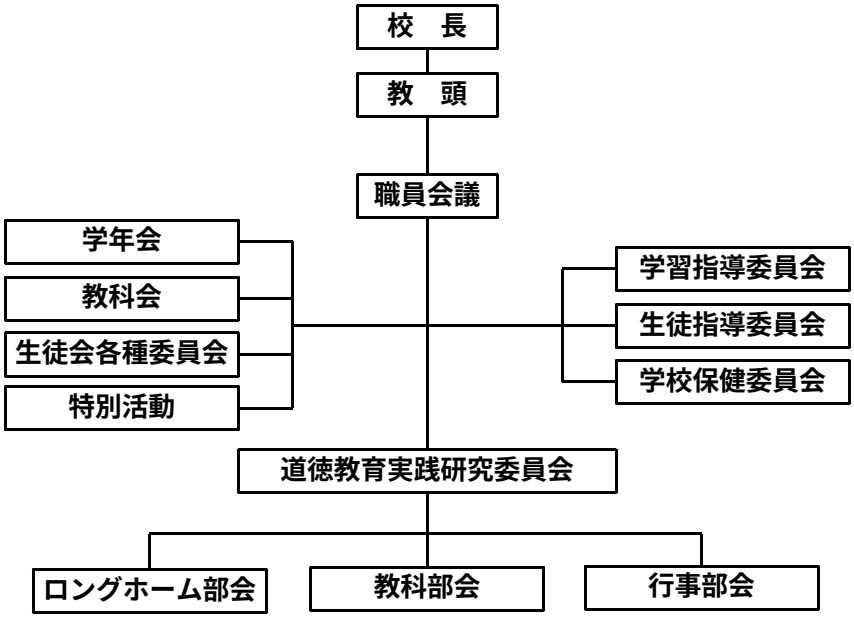
・地元企業と連携をとり、２年生全員対象のインターンシップ事業を実施する。
・様々な人物による外部講師事業を実施し、職業観の育成を図る。
・小・中学校と連携を図り、生徒がものづくりの指導や授業を行い、コミュニケーション能力や思いやりの心を身に付ける。
・学校行事等（ボランティア遠足、工場見学、部活動による清掃・地域ボランティア）をとおして、社会規範やマナーを学ぶ。

（第２年度）

・第１年度の反省を踏まえて、課題を設定し、事業のレベルアップを図る。
・日本版デュアルシステム導入の検討などインターンシップ事業のさらなる発展を検討する。(カリキュラム開発等)

２－４　研究の組織

（１） 研究組織の概要



（２） 研究委員会の構成

平成１９年度「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究委員会

職名	氏　名	校務分掌（教科）
校長	村上　哲夫	
教頭	坂田　哲之	
事務長	桶谷　嘉昭	
教諭	○赤土　悦崇	総務主任（マテリアル科）
教諭	森　　朋子	総務（国語科）
教諭	林　純一郎	教務主任（機械システム科）
教諭	宮脇　徹心	生徒会指導主任（国語科）
教諭	合場　孝之	進路指導
教諭	佐山　泰久	カウンセラー（英語科）
教諭	木林　靖夫	１年担任（機械システム科主任）
教諭	平木　　勉	１年担任（電子情報科主任）
養護教諭	柳田　恭枝	保健

平成２０年度道徳教育実践研究委員会

職名	氏　名	校務分掌（教科）
校長	村上　哲夫	
教頭	西　　和純	
教頭	榊原　　亨	
事務長	多保田正徳	
教諭	○平木　　勉	総務主任（電子情報科）
教諭	加藤　太介	総務（土木科）
教諭	中森　茂明	総務（地歴公民科）
教諭	東﨑　　豊	総務（マテリアル科）
教諭	林　純一郎	教務主任（機械テクニカル科）
教諭	新本　裕美	教務（家庭科）
教諭	山本　哲也	進路指導主事（マテリアル科）
教諭	森　　朋子	カウンセラー（国語科）
教諭	合場　孝之	２年担任（数学科）
教諭	江守　秀樹	１年担任（理科）
教諭	蓮田　金重	生徒会指導主任（保健体育科）
教諭	旭　　有香	生徒指導（英語科）
臨任講師	長谷川輝和	生徒会指導（芸術科）
教諭	中西　茂樹	３年担任（機械システム科主任）
教諭	上野　安正	３年担任（電気科主任）
教諭	稲葉　　豪	３年担任（電子情報科主任）
教諭	古澤　清尚	情報教育（建築土木科主任）
教諭	松田甚一郎	教務（マテリアル科主任）
養護教諭	柳田　恭枝	保健

２－５　研究経過

（1）　平成１９年度

平成１９年　２月　「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業研究重点指定校別計画書を県教委学校指導課へ提出。
４月　ボランティア遠足（全校生徒）
５月　平成１９年度研究推進校等連絡協議会へ担当教諭１名参加。
５月　平成１９年度「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業実施に伴う経費について予算示達額等の通知を受ける。
６月　外部講師事業（いのちと心の教育、２年）
６月　道徳教育指導者養成研修（独立行政法人教員研修センター）を担当教諭１名受講。
７月　外部講師事業（工業科、３年・２年）
７月　外部講師事業（いのちと心の教育、１年・２年）
７月　ボランティア清掃（部活動）
８月　インターンシップ事業（第Ⅰ期）
８月　第１回石川県高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業研究協議会へ担当教諭１名参加。
１０月　インターンシップ事業（第Ⅱ期）
１０月　第１回平成１９年度「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究委員会。事業概要を確認し、今後の研究活動について検討。
１０月　インターンシップ事業（第Ⅲ期）
１１月　ＰＴＡ・生徒の本音で語る会
１１月　小松市立御幸中学校における道徳の研究授業を見学
１１月　小松市立第一小学校に対して出前授業を実施
１２月　先進校視察（広島県 高校２校）〔教頭及び担当教諭２名〕
１２月　県教委学校指導課へ経費の中間報告。
１２月　インターンシップ発表会
１２月　道徳性育成の視点を盛り込んだ公開研究授業（英語科）
１２月　ボランティア清掃（部活動）
平成２０年　２月　高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業の中間報告書提出。
２月　先進校視察（東京都 高校１校、茨城県 高校１校）〔担当教諭２名〕
２月　第２回石川県高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業研究協議会へ担当教諭１名参加。
２月　平成２０年度道徳教育実践研究事業 推進校別計画書提出。
３月　平成１９年度高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業 小松地区連絡協議会を本校にて開催
３月　高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業の経費処理状況提出。
３月　第２回平成１９年度「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業委員会。次年度研究計画の確認。

（2）　平成２０年度

平成２０年　４月　第２回職員会議にて、今年度道徳教育全体計画を提示
４月　ボランティア遠足（全校生徒）
４月　第１回平成２０年度道徳教育実践研究委員会。委員委嘱及び今年度事業計画の確認

４月　道徳性に関するアンケート実施（第１回）
５月　第３回職員会議にて、今年度道徳教育実践研究事業計画を提示
５月　小松市立御幸中学校と平成２０年度事業における連携内容（研究の形態と方向性）について協議〔御幸中学校教諭３名、本校教頭・担当教諭１名〕
５月　第３回職員会議にて、今年度事業実施計画を提示
６月　平成２０年度地域と連携した道徳教育推進事業（小松教育事務所管内）に係る道徳教育講習会（公開授業）参加〔教頭及び教諭４名〕。道徳の授業を参観、文科省永田調査官の講演「これからの道徳教育のあり方」
６月　第２回平成２０年度道徳教育実践研究委員会。道徳教育講習会参加報告及び秋の公開授業に向けた計画
６月　いしかわ県民大学校学校開放講座「パソコン初級講座」開催
６月　外部講師事業（工業科、２年）
６月　第５回職員会議にて、秋の研究発表会（案）を提示
７月　外部講師事業（工業科、３年）
７月　外部講師事業（いのちと心の教育、２年・３年・１年）
７月　ボランティア清掃（部活動）
８月　インターンシップ事業（第Ⅰ期）
８月　教育センター研修講座 道徳教育「道徳の時間をかなめとしたこれからの道徳教育」受講〔担当教諭１名〕
９月　第３回平成２０年度道徳教育実践研究委員会。「いしかわ教育ウィーク」における道徳の授業の実施について
１０月　平成２０年度道徳実践研究事業の実施に伴う経費中間処理状況を県教委学校指導課へ提出。
１０月　インターンシップ事業（第Ⅱ期）
１０月　小松市立御幸中学校にて出前授業実施
１０月　上越教育大学を訪問し、生徒指導総合講座 林 泰成 教授より、モラルジレンマの手法を取り入れた道徳指導について指導を受ける。〔担当教諭１名〕
１０月　上越教育大学附属中学校 2008 年研究協議会。モラル・スキル・トレーニングの手法を取り入れた公開授業を参観〔担当教諭１名〕
１０月　平成２０年度高等学校特別活動研究協議会にて道徳教育への本校取り組みを紹介
１０月　インターンシップ事業（第Ⅲ期）
１０月　平成２０年度高等学校特別活動研究協議会の内容を職員会議で報告
１１月　小松市立第一小学校に対して出前授業を実施
１１月　「いしかわ教育ウィーク」。公開授業として、道徳の授業および道徳性育成の視点を盛り込んだ授業の実施
１１月　ＰＴＡ・生徒の本音で語る会
１１月　公開研究授業に向けて、小松市立御幸中学校へ出向き、指導案について指導・助言を受ける。
１１月　研究発表会（公開研究授業・講演会）
１１月　道徳性に関するアンケート実施（第２回）
１２月　インターンシップ発表会
１２月　ボランティア清掃（部活動）

３　主な取り組み内容

以下に、平成２０年度道徳教育実践研究事業に関する主な取り組みを紹介する。

３－１　学校行事をとおした実践

（１）　ボランティア遠足

1) 日程

平成２０年４月２５日（金）

2) 概要

本校では、全校生徒がボランティア活動に理解を示し、ゴミ問題について真剣に考えるようになることを期待し、毎年春の遠足時に途中経路や行き先に於いて清掃ボランティア活動を実施している。この取り組みは、小松工業高校のいしかわ学校版環境ＩＳＯに対する取り組みの一環でもある。この取り組みを通じて、環境や美化に対する生徒の意識が年々向上してきている。学年ごとの行き先及び清掃活動場所は下記のとおりである。

１年・・・行き先：木場潟公園、　活動場所：学校より木場潟公園に至る往路
２年・・・行き先：憩いの森、　活動場所：憩いの森周辺
３年・・・行き先：安宅海岸、　活動場所：安宅海岸海水浴場付近一帯

当日は、集まったゴミの運搬作業等のため、本校ＰＴＡ役員等保護者の参加協力も得ている。なお、例年、この催しに連動し「春の遠足」を題材とした俳句短歌大会を実施しており、生徒の力作や秀作が多く寄せられている。

〇清掃活動の規模

清掃場所：　海岸・湖岸・道路・公園
延べ距離：　５０㎞

〇回収物（ゴミ）の種別と量

可燃物：	①布・紙類	約５５袋（以下一袋４５リットル）
不燃物：	①空き缶類	約１５袋
プラスチック：	①ペットボトル	約３５袋
	②ロープ・網類	約５袋
自然物：	①流木・草	約３０キロ

3) 生徒作品による評価

俳句短歌大会での優秀作品を以下に示す。

〇春風に 誘われ若葉が　顔を出す
〇桜の木　きれいに見るため　ゴミ拾い
〇春遠足　弁当うまし　母の味
〇さみしいな　桜見思う　刹那時
〇ゴミ拾う　僕達見ている　つくしたち
〇木場潟の　水面に　映る　燕かな
〇あぜ道に　つくしの行列　わきあいあい
〇来年の春には　何を思ってる
〇ゴミの山　春の草木が　泣いている
〇ひらひらと　桜の花が　道作る雨あがり
〇鬼ごっこ　たんぽぽかばい　鬼になる
〇若葉敷き　笑顔を乗せて　輪を作る
〇カブト虫　砂に埋もれて　睡眠中
〇遠足で　みんなでわいわい　青春だ
〇砂浜は　貝殻１割　ゴミ５割
〇自転車で　走る僕らが　春の風

〇春の海　足だけつけて　カニ歩き
〇砂浜が　「ゴミ拾ってよ」と叫んでる
〇夏来れば　優しくなるよ　波の声

春は明るく生気に満ちている。遠足にて春を体いっぱいに感じ取っている様子が窺える。いずれの句にも、生徒の見たもの、感じたものが素直に表されており、自然と人間の交感や自然への畏敬の念が伝わってくる。

当初予定したゴミ問題や地球環境についての意識づけ以外にも、自然や崇高なものとのかかわりに関する道徳の内容項目についても指導ができていることがわかる。

（２） ボランティア清掃

1）日程

(a) 平成２０年７月１７日（木）

(b) 平成２０年１２月１９日（金）

2）概要

本校では、年２回部活動の活動の一環として、学校周辺および学校～小松駅までの通学路を３コースに分けて、清掃活動を実施している。この活動は、生徒の美化意識を向上させると共に、地域への貢献ならびにボランティア活動への関心を高めることを目的に行われている。

〇参加生徒

(a) 平成２０年７月１７日（木）

ソフトテニス部・バスケットボール部・柔道部　　計６０名

(b) 平成２０年１２月１９日（金）

卓球部・バドミントン部・ラグビー部　　計７０名

〇回収物（ゴミ）の種別と量

可燃物：	①布・紙類	約１０キロ
不燃物：	①空き缶類	約３キロ
	②傘金属	約７キロ
プラスチック：	①ペットボトル	約１０キロ

3）生徒の感想

・ビニール傘やペットボトルが多く捨てられていた。
・集めると意外に多くのゴミが捨てられていた。
・ゴミがなくなり街や道がきれいになった。
・ポイ捨てを絶対しない。
・ゴミがなくなってきれいになると気持ちいい。

この体験によって得られた気持ち、生徒の自主的・自発的な態度に結びつけていくことが今後の課題である。

（３） ＰＴＡ･生徒の本音で語る会

1）日程

平成２０年１１月６日（木）

2）概要

本校では、いしかわ教育ウィークにて行う学校公開事業の一つとして、例年この事業を実施している。今年度のテーマは、本実践研究事業と連携し、「人間としての在り方生き方について考える」と設定した。

本校では、卒業時において７割の生徒が就職するといった状況を踏まえ、現在の生活や将来の生き方、職業について考えを深め、産業人としての自覚や目的意識が持てるよう、ＰＴＡ役員の協力をいただき、生徒・保護者・教師がそれぞれの立場からお互いの本音を語り合えるような機会となることを期待しこの取り組みを設定している。例年、下級生の悩みや疑問に上級生がこたえたり、上級生の意見を聞いて下級生が自身の高校生活の参考にしたりといった場面が見られる。

当日は、生徒はクラス代表１９名と生徒会１６名、保護者はＰＴＡ役員６名、学校側からは学校長、教頭、各校務分掌の主任等７名の参加のもと、３班に分かれ下記の内容について、ＰＴＡ役員の方に司会を担当していただき、参加者それぞれが意見を出し合った。

3）内容

(a) 高校で学ばせたいこと・学びたいこと

(b) 将来の進路について親の気持ち・子の気持ち

(c) 「働く」とはどういうことか

・「働く」ことの喜びや大変さ

・職業人としての資質や能力

(d) 最近のニュース、事件で思う親と子の関係

・中高生や若者による犯罪

・携帯電話やインターネットでのトラブル

・親の意識、子の意識

4）具体的な意見

【A グループ】

(a) 高校で学ばせたいこと・学びたいこと

・授業への取り組みが大切。

・将来就きたい職業が決まっているとき、資格に挑戦するなどの努力ができる。

・人間関係の構築が重要。（保護者）

(b) 将来の進路について親の気持ち・子の気持ち

・工業の生徒は将来についてよく考えていることがわかり、素晴らしい。（保護者）

・自分に合った仕事に就くのが理想だが、やってみないとわからないので、失敗などがあるだろう。

(c) 「働く」とはどういうことか

・いやな人と話すこともある。人間関係の構築が大切。「石の上にも三年」の気持ちを持つこと。（保護者）

(d) 最近のニュース、事件で思う親と子の関係

・家庭での会話をしっかりすることが大切。

【B グループ】

(a) 高校で学ばせたいこと・学びたいこと

・学ぶべきこととして、挨拶すること、時間を守ることなど人間として大切なことがある。

・目的を持って学ぶことが必要。（保護者・教諭）

(b) 将来の進路について親の気持ち・子の気持ち

・就職を考えている者がほとんどだが、やりたいことを見つけないと続かないのではないか。

・続けていくことが難しいことだ。（保護者・教諭）

(c) 「働く」とはどういうことか

・家族や社会のためとともに自分の将来の生きがいとすることが大切である。（保護者）

・辞めるということはできるが、就職することは大変である。（保護者）

【C グループ】

(b) 将来の進路について親の気持ち・子の気持ち

・目指す進路先はあっても理想と現実という問題がある。

(c) 「働く」とはどういうことか

・働くことには、お金だけの問題ではなく、生きがいややりがいが必要である。（保護者・教諭）

その他、一人ひとり考え方が違う、たくさんの発言があった。

5) 評価と考察

今回のテーマは「人間としての在り方生き方を考える」であった。高校生の時期は、人生にかかわるいろいろな問題についての関心が高まり、自分の生き方を自ら模索し始める時期である。また、自分の将来に対する関心を高め、大人になることへの意欲をもつ時期でもある。この時期に、生徒自身が、「人間としての在り方や生き方」についての自覚を深め、人間としてどうあるべきか、何を目標として生きていくか、といったことについて考える機会を持つことは必要なことである。しかし、家庭ではなかなか改まって親から子どもに語るような機会を持てていないのが実情である。今回のテーマに限らず、学校が仲立ちとなって、このような機会を設定することは極めて有意義なことと考える。また、保護者にとっても、我が子以外の考えも聞ける貴重な機会と捉えることができる。

生徒の発言は、３年生からのものが量的にも質的にも充実しているように感じた。これは、高校生としての学校生活の経験の豊富さや就職試験等を経て自分の進路を決定した体験が影響しているものと推察される。本校では、卒業時において７割の生徒が就職している。職業選択のための意志決定が、自分の在り方生き方を考える契機となっているものと考えられる。さらに、下級生が３年生の体験に基づいた意見を聞くことは、自分自身の将来の意志決定に対してかなりの重きがあるものと予想できる。

ただし、この会の内容は参加者以外には公表されることがなく、今後の参加者における言動や態度の変化を待つしかない。本音で語るといった会の趣旨を確保しつつ、良い情報をより多くの人で共有するといった方策が今後求められる。

（４） 外部講師事業（いのちと心の教育）

1) 日程

(a) 平成２０年７月１５日（火）１年生

(b) 平成２０年７月１０日（木）２年生

(c) 平成２０年７月１４日（月）３年生

2) 概要

本校では、「自己の生命や心の大切さを知り、他人に対する思いやりや優しさを身につける。」「思春期・青年期における心身の特徴を理解し、適切な意思決定や行動の選択ができるようにする。」といった趣旨のもと、各学年に「いのちとこころの教育」を実施している。いわゆる性教育の意義を根底においたものであるが、性教育は非常に広範囲な内容をもっているため、内容の偏りや先入観を防ぎ、人格の完成と豊かな人間形成を目的として総合的に捉えられるように「いのちとこころの教育」という名称にしている。

各学年の成長・発達段階は異なり、また、個人の価値観・行動も異なることも配慮し、学年ごとに目標の設定や内容の精選を行い、「子どもたちの性行為は適切でない」「人間関係についての理解やコミュニケーション能力が前提である」といった共通理解のもと、外部講師と打ち合わせし、専門的な内容や事例を含んだ講演会を実施している。

3) 題目と講師

(a) １年生：「若者の性の健康を守るために」
講師　田谷泌尿器科医院　田谷　正　氏

(b) ２年生：「生と性の学習会」
講師　星の子助産院　坂谷　理恵子　氏

(c) ３年生：「こころ・からだ・性」～「性」と「生」の自立をめざして
講師　セクシュアリーカウンセラー　あねざき　しょうこ　氏

4) 生徒の感想

(a) １年生

・簡単にいろんな相手とセックスをしてはいけないと思った。相手の気持ちをしっかり考えたい。
・今後気をつけなければならないなと思ったし、今までのことを思い出していたらあせりました。今日はいい勉強になったと思います。
・性感染症についてとても詳しく説明されていて、自分のためになった。

(b) ２年生

・今日の話はすごく自分のためになってよかったです。愛するということは、言葉や性行為などではなく、「相手の人を大切にすること」とわかりました。だから、私も好きな人を大切にしたいと思います。とても理解できる、私たちにもわかりやすい話でよかったです。ありがとうございました。
・とてもためになったし、最後に赤ちゃんを持った時は、こんなに重いんだと実感して、新しい命が生まれることは、とてもすごいことだと思いました。
・生と性の話を聞いて、生きていくためにこの２つはとても大切なことだということがわかりました。そして、マナーやエチケットなどをしっかり守り、命をとても大切にして生きていきたいと思いました。
・生と性についてほんの少しわかってきた。この話を将来に生かしていきたい。社会人になって準備をしっかりして、大切な人をもって、家族のために生きていきたいです。

(c) ３年生

・今の自分にも将来の自分にとってもためになる話でした。恋人同士でどんなことも話し合えて、お互いストレスをためずにいれることがベストだと思いました。
・男女が交際するということのあり方を理解できたと思います。相手を尊重することと自己表現することが大切なことなんだと思います。ＤＶについては暴力や暴言だけがそうだと思っていたけど、ＤＶにも心・からだ・お金・性・言葉などの暴力があることも知りました。今日の講演を参考にしていきたいです。
・もうすぐ就職・進学するといっても、自分はこういうことはうといのでよくわかりませんでした。しかし、人生の中でこういうことは避けて通れない道なのだということはわかりました。自分は異性と付き合うかわかりませんが、もし付き合うことになれば、相手にいやな思いをさせず、出会って良かったなと思わせるようにしたいです。

5) 評価と考察

今回の「いのちとこころの教育」をとおして、生命や心に関する基礎・基本的な内容の理解や今後の在り方生き方について考える良い機会になった。いのちについて考え、いのちの大切さを実感することが、より良い人間関係や男女関係の形成、自分や相手を大

切にする心、さらには今後の生き方に深く関係していると思われる。

意識や価値観の個人差がある中で集団指導を実施していく場合、子どもたちのニーズや発達段階に沿ったもので、かつ、誰もが納得でき、理解を得られる内容である必要がある。本校では目標や内容を明確にした計画をもとに、講師を打ち合わせすることで、こちら側も意図をきちんと含まれた内容となり、生徒の理解も深まったと考えられる。聞いたことがあるような内容でも、発達段階が異なったり、場所や時間、講師が異なったりすることで、新鮮な思いで聴いていることがわかる。

生徒の感想からは、各学年の目標としていた内容を吸収してくれた生徒が多かったと感じている。

学校では教育活動全体をとおして、人格の完成や豊かな人間形成に取り組む必要があり、そのためには学校全体の協力体制を強固なものにしていく必要がある。今後はさらに地域や保護者の意見を取り入れ、学校全体の指導体制を確立し、子どもたち豊かな心と望ましい価値観や行動選択を育んでいきたい。

３－２　教科学習をとおした実践

（1）　インターンシップ学習

1）日程

第Ⅰ期　平成２０年８月６日（水）～８月８日（金）

第Ⅱ期　平成２０年１０月８日（水）～１０月１０日（金）

第Ⅲ期　平成２０年１０月２８日（火）～１０月３０日（木）

2）概要

本校では、工業教育の一環として、学習の場を企業に依頼し、企業現場における活動を体験的に学習するため、平成１３年度から２年次生徒を対象にインターンシップ学習を実施している。企業体験をとおして実践的な知識や技術を体験すると共に、職業人としての心構え、厳しさ、人間関係の大切さを学び、社会性を身に付ける重要な機会と捉えている。

さらに、インターンシップ学習を体験することにより、企業についての理解の深まり、進路選択の能力や就業意識や勤労意欲の高まり、実践的な技術者に必要な自ら学び自ら考える力等の育成が期待できる。

平成２０年度は、南加賀地区の延べ９６の企業・事業所の協力をいただき、２年生２２５名が参加した（参加率９９．１％）。

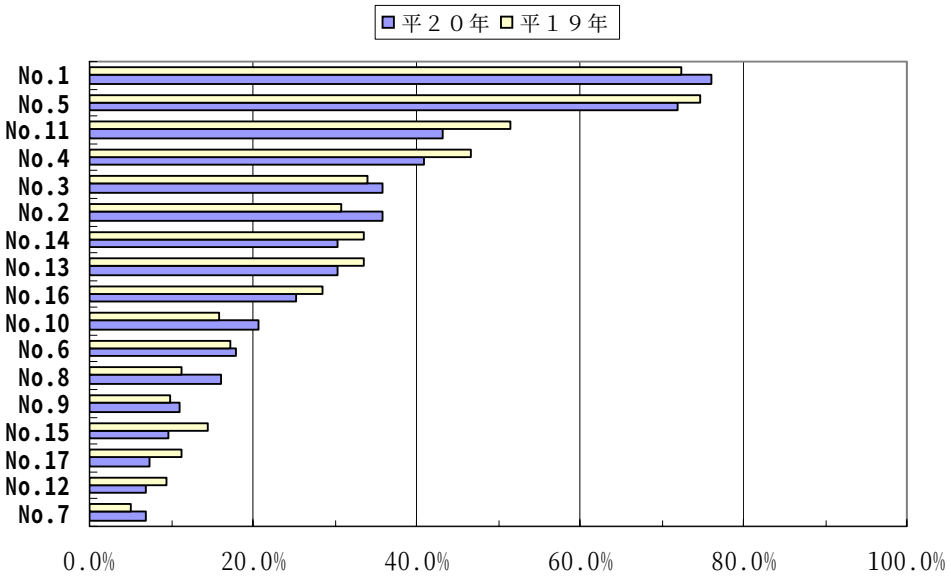
3）生徒自身による評価（アンケート）

参加した生徒にアンケートを行った結果を以下に示す。

インターンシップ学習アンケート

インターンシップを通して理解できたこと、感じたこと、印象に残ったこと、これからの進路（就職）を考える上で大切だと感じたことを下記より５つ選んで番号を記入してください。

1	時間を守ること
2	集団の中の一員として協力すること
3	言われたから動くのではなく、自ら考え行動すること
4	与えられた情報を正確に聞き、作業を確実に行うこと
5	挨拶をしっかりすること
6	実社会で働くことの厳しさを理解すること
7	「働く」ということは、「社会」の仕組みを知ることであること
8	報酬を得るためだけに働くのではなく「働くこと」を「生きがい」につなげることの大切さ
9	互いに励まし合い高め合う仲間を持つこと
10	意欲と向上心を持って仕事に臨むこと
11	きまりを守り、安全に作業すること
12	実社会で働いている親への感謝
13	自分の役割と責任を自覚すること
14	時と場に応じた、言葉遣いや行動ができること
15	感謝と思いやりの心を持つこと
16	他の人から学ぶという姿勢の大切なこと
17	望ましい生活習慣を身につけ、規則正しく節度を守って生活すること



インターンシップ学習アンケートの結果

昨年と同様、７割を超える生徒が、インターンシップを通じて理解できた・感じた・印象に残った・大切だと思ったこととして、「時間を守ること」や「挨拶をしっかりすること」を挙げている。また、４割を超える生徒が、「きまりを守り安全に作業すること」「与えられた情報を正確に聞き、作業を確実に行うこと」を挙げている。しかし、この２項目については、昨年度に比べて７ポイント程度回答数が減少している。

アンケートでは最大５つまで回答するようになっていたため、他の項目における回答数の増加が、「きまりを守り安全に作業すること」「与えられた情報を正確に聞き、作業を確実に行うこと」の減少につながったものと推察できる。ちなみに今回、回答数に 2 ポイント以上の増加があった項目は、「時間を守ること」(3.6 ポイント増)、「言われたから動くのではなく、自ら考え行動すること」(2.0 ポイント増)、「集団の中の一員として協力すること」(5.1 ポイント増)、「意欲と向上心を持って仕事に臨むこと」(4.9 ポイント増)、「報酬を得るためだけに働くのではなく『働くこと』を『生きがい』につなげることの大切さ」(4.8 ポイント増)や「実社会で働いている親への感謝」(2.6 ポイント増)であった。

本年度の実践において新たに取り組んだ「ロングホームにおける道徳の授業」や「道徳性育成の視点を盛り込んだ授業」によって、道徳の内容項目の一部が生徒に意識づけられた影響が考えられる。

4) 企業による評価（アンケート）

インターンシップに協力をいただいた企業に対して実施したアンケート結果を以下に示す。

(a) 学習状況について

	平成１９年度					平成２０年度					
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	(%) A：非常に良い B：良い C：普通 D：やや悪い E：悪い
出勤状況	58	33	9	0	0	50	35	14	1	0	
あいさつ	37	40	21	2	0	28	47	23	2	0	
服装	32	47	21	0	0	31	41	26	2	0	
マナー	29	45	26	0	0	19	52	27	1	1	
作業状況	25	57	16	2	0	18	58	23	1	0	

(b) 学習態度について

	平成１９年度					平成２０年度					
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	（%） A：非常に良い B：良い C：普通 D：やや悪い E：悪い
積極性	15	46	35	3	0	19	37	32	10	2	
明朗さ	15	52	30	2	0	18	48	31	3	0	
礼儀正しさ	31	47	22	0	0	22	52	23	3	0	
協調性	19	50	29	2	0	13	51	30	6	0	
仕事の適性	17	48	32	3	0	18	50	29	3	0	

事業終了後の企業アンケートの結果から、昨年同様、学習状況・態度の各項目とも「非常に良い」「良い」を含めると約７割の好評価を得ている。しかし、前年は学習状況・態度の各項目とも「悪い」の評価は 0 であったにも限らず、今年度は「マナー」「積極性」で「悪い」、「やや悪い」という評価を受けた項目が増加傾向にある。

近年全体的な指導では、なかなか個の生徒に対応しにくい状況になりつつあることがこの結果から窺える。各生徒の状況をいろんな場面で把握し、きめ細かな個別の事前指導が求められているものと推察される。

（２） デュアルシステム

1) 日程

平成２０年５月１６日～７月１８日までの金曜日（全１０回）

2) 概要

平成１９年度に、全国 23 地域の一つとして、石川県では、本校、県立工業高等学校および大聖寺実業高等学校の３校が、「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」（文科省、経産省事業）の指定を受け、平成２１年度までの３カ年を掛けて専門高校と産業界が連携（協働）したものづくり人材の育成に取り組んでいる。この取り組みの一環として、本校機械システム科では、デュアルシステム（長期の現場実習）をカリキュラムに組み入れ、実践を行っている。

デュアルシステムとは、若年者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、企業での実習と学校での講義等の教育を組み合わせて実施することにより若者を一人前の職業人に育てる仕組みのことをいう。実際に職場での労働を体験することをとおして、実践的な職業知識や技術を身に付けることはもちろん、勤労意識や職業観を養うことが期待できる。

平成２０年度においては、本校機械システム科３年生１０名が毎週金曜日（計１０回）に学校の授業に代えて、２名ずつ受け入れ協力企業（５社）へ赴き各企業が設定した実習に取り組んだ。

3) 生徒自身による評価（感想）

デュアルシステム発表会で述べられた生徒の感想を以下に記す。

・学校にない機械を操作できて良かった。
・学校で味わうことができない充実した仕事が体験できて、受け入れ企業に感謝している。
・挨拶を含めた、周囲の人とのコミュニケーションの大切さが分かった。
・時間の有効活用の大切さが分かった。
・作業環境改善の取組に参加して、社員の取り組む姿勢に感動した。
・清掃（機械やその周囲）の大切さが分かった。
・進学希望だが、この事業に参加して働くことの意義が再認識できて大変良かった。

いずれは働くことになるので大いに参加することを進めたい。

企業現場で仕事を実際に体験することで、社会の厳しさや、働くことの意義を学ぶことができていることが明確に窺える。さらに、デュアルシステムはインターンシップとは違い、ただ仕事を経験すればいいのではなく、技術面での専門性を高めるという側面も持っている。今年度ははっきりと表れてはいないが、より高度な技術を習得することが本人の自信になり、体験した職業に就こうという意欲につながることを期待したい。データ数が少ないため推測の域を出ないが､生徒にとって長期の現場経験という下地があって初めて、確固たる勤労意識や職業観を身につけることにつながるのではないかと考える。

4）教師による評価（感想）

デュアルシステムにかかわった本校機械システム科の教師は、以下のように感想を述べている。

「企業現場における実践を踏まえることで、生徒一人一人の潜在力が引き出され、モノをつくることに対する面白さを感じ取ることができたのではないか。また、それ以上に、企業現場での体験をとおして自身の存在価値を自他共に認めることにより、生きることに意味と喜びを見出し、自分に自信を持てるようになったことが大きい。これからどうあるべきか、どのように生きるかということの前に、自分は今どこに立っているかということを知ることこそ大事である。長期の現場実習を通じて、初めて自分の立ち位置が見えてくる。この立脚点が見えてくることにより、高校生であっても高い社会性や確固たる職業意識を身につけることができるのではないか。」

また、都立六郷工科高校で実施した調査には、創意工夫、課題に対する行動・判断・責任、生活習慣、整理整頓、作業への集中といった自律性に関する設問や、挨拶など人との関わり、報告・発表という表現能力、学校と企業との学びの関わり、社会のルールやマナーなど社会性を問う設問が用意されている。都立六郷工科高校では、調査の結果、長期就業訓練を経た生徒は、社会で自信となる生きる力、耐える能力、他人と協力・協同する能力、現実を踏まえ前向きに将来を考える能力、社会のルールやマナーを理解する能力、自ら学ぼうとする積極的な能力などにおいて、著しい伸長が見られたとの報告がある（月刊「産業と教育　2 月号」(2008)）。今後、こういった調査を参考として、本校のデュアルシステムを道徳教育の立場から検証してみることが求められる。

（３） 外部講師事業（工業科）

1）日程

(a) 平成２０年６月２５日（水）電子情報科２年生

(b) 平成２０年７月１０日（木）電子情報科３年生

2）概要

生徒に工業に関する技術や広く産業・経済の発展について理解させ、自己の将来の生き方や進路を考える一助になるようにとの趣旨から、社会で活躍している方を工業科の授業に招へいし講義をしていただいた。本事業を実施することによって、以下の効果を期待できる。

・産業界の第一線で働いている人々を講師として招き、授業に参加してもらうことにより、現実感を伴って、社会の仕組みを理解することができる。

・企業活動や産業動向を理解することで、経済活動や情報化の動向、最先端の技術に関心をもち、生徒自身が、自己の生き方あるいは将来について考えるきっかけとなる。

平成２０年度に実施した道徳教育に関係した外部講師事業は以下のとおりである。

(a) 電子情報科２年生

演題：「働くってどういうこと」

講師：ライオンパワー株式会社　係長 野口 繁 氏

講義内容：①会社と学校の違い（働くということ）
②コミュニケーションの大切さ

(b) 電子情報科３年生

演題：「自らの進路決定に向けて」

講師：小松電子株式会社　総務部 総務 主任 山西 孝平 氏

講義内容：①会社概要紹介
②進路決定時のアドバイス
③採用担当者からみた学生
④企業と学校の違い

3) 生徒自身による評価（感想）

講義後生徒の書いた感想文から、本事業の「人間としての在り方生き方」を考えるということに対する効果を拾い出すと、以下のとおりである。

(a) 電子情報科２年生

・企業では答えが先にあり、後で問題を解くので、学校とまったく違う。
・学校は個人の能力を測るところであり、企業は皆で力を合わせて 100 %の商品を作るところ。
・チームワークやコミュニケーションの大切さ。
・わからないことがあったらすぐに聞くことが大事。
・仕事において効率をよくすることが大切。
・会社ではできない仕事はない。
・企業は 100 点満点のものをお客様に提供しなければならない。
・学校は平等に扱ってくれるが、企業では能力の高い人ほど仕事が回ってくる。
・仕事や働くことへの心構えができた。
・仕事は基本的にはできるものがほとんどであるということを聞いて安心した。
・企業の方は、しゃべり方がとてもていねいである。

基本的には講義形式の授業であったため、生徒は「わかったこと」を多く記している。さらに、「仕事やインターンシップ学習への心構えが身に付いた」「安心した」との記述が見られる。これは、人生の先輩から知識を得ることによって「心の準備」ができ、それを参考に自身の「在り方生き方」を思い描き、将来に対する「見通し」を持てたことが安心感に繋がったものと推察できる。

(b) 電子情報科３年生

・日ごろ先生から指摘を受けていることが面接で重視されるということを改めて知った。
・求人票の見方がわかった。
・話を聞いて、就職先（地域）に対する考え方が少し変わった。
・就職に対する考えが変わった。
・進路は最終的には自分で決めなければいけない。
・就職先を慎重に選ばなければいけないと思った。
・企業についてしっかり考えるようにしたい。
・波長の合わない人がいても、しっかりコミュニケーションを取れるようにしたい。
・自分の欠点である話し方を直そうと思う。
・面接では誠意を示すことが大切。

この事業の実施時期は一学期末であり、前日に面接練習を終えたばかりというタイミングであったため、強いインパクトがあり生徒は内容を真剣に受け止めてくれたことがわかる。企業の採用担当者から直接話を聞くことにより、就職に対する自身の「在り方生き方」の指針を持てたことが窺える。

また、「・・・を直そうと思う」のように、講義から新たな社会を知ることによって、卒業後の生き方が幾らか明確なものとなり、さらに自らの在り方に対する指針が持てたこ

とによって、自分自身を見直すきっかけにつながったものと推察される。

（４） 学校開放講座

1）日程

平成２０年６月１４日～６月２８日までの土曜日（全３回）

2）概要

いしかわ県民大学校学校開放講座の一環として、本校において「パソコン初級講座」（グーグル活用とブログ作成）を実施した。講座の補助員として、電子情報科２年生の中から、選択科目「ネットワーク技術」を履修している生徒６名が協力してくれた。講座受講生１９名の平均年齢は６０歳以上と思われたが、講座への取り組みは皆熱心であった。

今回、生徒に補助員を依頼した理由は、本校重点目標の１つである「保護者や地域と連携して生徒を育てる」の具現化にある。具体的には、生徒が講座の補助員役を務めることによって、人と関わる力(コミュニケーション能力)の育成や、実践的な知識の習得や活用といった教育効果が期待できると共に地域貢献活動への取り組みとしても期待できる。

3）生徒自身による評価（感想）

・学校では自分たちは習うほうですが、教えるのが思ったよりとても大変でした。
・教えるのが大変だとわかった。
（実体験を通じて、違った立場から、物事を見ることを経験）
・自分の親より年上の人に教えるとき、自分の言いたいことがなかなか伝わらないことがよくあった。
（コミュニケーションのむずかしさ）
・今までいろいろ勉強してきたつもりだったけど、教えてみるとわからないことがあり、もっと勉強しなければいけないと感じた。（客観的に自分自身を見る）
・最初教えられるかとても不安でしたが、なんとか最後まで終えることができ、とてもうれしい。（達成感）

講座の補助員として、生徒にとって自分たちよりもはるかに年齢が上の受講生と接するという状況において、普段の生徒どうしあるいは家族との接し方とは異なり、他人に対する気配りの気持ちが出現していることがわかる。この気配りが知識としてではなく、状況において、他に対する配慮や親切といった内的な態度として表れていることに意味があるように感じる。

また、「教えてみるとわからないことがあり、もっと勉強しなければいけないと感じた。」いう具合に、一段上の自分が、自分自身を冷静に客観的に見て判断する態度、つまり「高次の自己」の出現が認められた。

4）受講者からの評価

・サポートに生徒さんたちがついて下さったのが、親しみが持ててよかった。
・何も知らない人に、物を教えることのむずかしさ、習うほうもむずかしさは大変なものです。
・難しいこともありましたが、生徒さん達が親切に教えてくださいました。
・生徒さんたちに質問してもたまにわからないときがあり、もう少し知っていてくれたらなぁと思ったりしました。
・つまずいたとき、近くの生徒さんが直接教えて下さるので助かりました。
・スタッフが親切だった。
・今まで受けたパソコン教室の中で一番丁寧に教えていただけて感謝しています。
・同じことを聞いても、スタッフのかたに親切に教えていただきうれしかったです。

生徒たちの気配りが、受講生にとっても、「親しみ」「親切」「丁寧」といった具合に受け入れられ、うまく相手に伝わっていることが窺える。

３－３　小・中学校との連携事業

（１）　小学生への出前授業

1）日程

平成２０年１０月２９日（水）
平成２０年１０月３０日（木）
平成２０年１１月　６日（木）

2）概要

本校マテリアル科は、学習目標の一つである「環境に配慮したものづくり」を授業の中で実践している。平成１７年度から、この成果を活用し、近隣の小松市立第一小学校と様々なテーマで交流を行ってきた。平成２０年度も継続して、地域の小学生に地球環境問題に興味関心を持ってもらうため、地域活動チャレンジ事業の一環として出前授業に取り組んだ。

出前授業では、本校マテリアル科の３年生７名が講師となり、来校した第一小学校５年生が自宅から集めてきた廃食油を利用して、リサイクル石けんの製造を指導する授業を行った。さらに、ＢＤＦ（バイオディーゼル燃料）の製造装置の見学と製造工程について説明し、製造したＢＤＦを利用しブルドーザが動作するところを実際に見てもらった。

3）生徒自身による評価（感想）

・子供たちが喜んでくれてよかった。１回目は要領がつかめず、うまく進めることができなかったけど、２回目や３回目になると１回目の反省を活かしてうまく進めることができました。
・１回目の２９日は報道関係者も多数訪れ、とても緊張しました。２回目、３回目は要領がわかってきて、やり方を少しずつ工夫しながらうまく進行することができました。この交流は自分達にとってとてもいい体験になりました。
・小学生と一緒にＰＥＴボトルを振るのが楽しかった。交流授業をして本当に良かったと思いました。
・上手くいくか心配でしたが、ほとんど失敗することなくスムーズに運ぶことができた。子供たちと一緒に石けんを作ることができて良い経験になった。
・いろいろと不安になることもありましたが、なんとか形になって良かったです。子供たちがとっても可愛かった。
・当日までは、上手く喋ることができるか、上手く教えることができるかどうかとても心配でした。本番当日、緊張しながらやっていると、小学生の方からいろいろと話しかけられ、また、純粋に喜んでくれてやっと安心することができました。その後の日程も無事に終わることができました。そして、しばらくして小学生からお礼の手紙が来たときは、とてもうれしかったです。
・小学生に教えるのが大変だった。その後、小学校から手紙が届いて、みんな大切に使っていると書いてあったので非常にうれしい思いをしました。

4）受講者からの評価

・はい油石けんやＢＤＦのことをおしえていただきありがとうございました。きちょうな体けんになりました。
・工業高校の皆さんありがとうございました。はい油石けんの作り方の説明、とても分かりやすかったです。とても楽しかったです。
・ぼくは最初「ふつうの学校やし、つまらんな」と思ったけどすごく楽しくてよかったです。
・きのうは、はい油石けんのつくり方をおしえてくださりありがとうございました。つくった石けんは必ずつかいます。
・高校のみなさんへ。きのう石けんをいっしょにつくってくれた、おねえさんありがとうございました。そして、またいきたいと思っているし、そこに入りたいと

思います。

5）考察

児童にものごとを教えるという機会は、本校生徒にとって滅多に無いことであり、貴重な経験となった。どうすればわかりやすい説明ができるのか、どうしたら喜んでもらえるのか、生徒なりに一生懸命考えて取り組み、好評を得ることができた。自分達の活動が人に感動を与え、人のために役立つということを体験できたことは、生徒にとって大きな自信となった。

（２） 中学生への出前授業

1）日程

平成２０年１０月７日（火）

2）概要

本校電子情報科の３年生８名が、小松市立御幸中学校へ出向き、１年生３クラスの生徒を対象に、知的財産権に関する授業「みんなでアイデアを生み出そう」を実施した。本事業を実施することにより、高校生にとって「教える」ことからの「学び」を、また両校生徒の「在り方生き方」に関する意識の高まり（人と関わる力の育成）を期待した。

出前授業の内容は、創造的な思考ができるよう「発想法」の試行と習得を目的としたものである。具体的には、バルーン風船をより遠くへ飛ばすことを課題として、よりよいアイデアを創出するため、ブレーンストーミングやＫＪ法等の発想法を活用してみるといったものである。

3）授業指導計画

本出前授業の授業指導計画を P27 に示す。

4）生徒自身による評価（感想）

【有意義であったこと】

・中学生にわかりやすく伝えることができた。
・普段は感じない先生の有り難みを感じた。（複数）
・先生に対する感謝の気持ちを持った。
・先生がいかに大変かわかった。（複数）
・先生の気持ちがわかった。

【中学生に対して】

・一人一人聞いてくれて、うれしかった。
・うまく教えることができなかった。
・もっと静かに聞いて欲しかった。
・一度騒がしくなるとなかなか静かにならないので大変だった。
・活発な班もあったが、もっと積極的に取り組んで欲しい。
・もっと真剣に聞いて欲しかった。
・今日教えたことをぜひ活用してもらいたい。

「教える」といった、通常とは逆の立場を経験することにより、自分とは逆の立場の人に対する思いを巡らすことができていることがわかる。また、その立場の人が感じているであろう大変さに気づくことにより、感謝の気持ちが生まれていることが窺える。

しかし、この体験によって、この生徒たちのこれ以降の授業態度がよくなったかというと、残念ながら結果はそうではなかった。「わかる」ということと「わかったことを行動に移す」「実践する」ということの間には、かなりの隔たりあるいは大きな段差があることが予想される。

また、人と関わる力（コミュニケーション能力）の育成を期待したが、生徒感想文にコミュニケーションに関係するキーワードの出現は認められなかった。

御 幸 中 学 校 出 前 授 業 指 導 計 画

教室名　御幸中学校１年次クラス　指導者職・氏名　小松工業工高Ｄ科３年生

指　導　日　時　　平成　２０　年　１０　月　　７　日（　火　）　御幸中学校 第６限目

対　象　生　徒　　御幸中学校　１年（次）生　　人　（３クラスで同時に実施）

科　　目　　名　　総合的な学習の時間　　使 用 教 科 書

1　単　元　名　　知的財産（みんなでアイデアを生み出そう）

2　本時の目標（総時数　１　時間中第　１　時）

創意工夫に対する関心と意欲を喚起し、理論的な思考と創造性を育む

3　道徳性育成の視点

理想の実現を目指し、自ら積極的に課題に取り組む姿勢を育む（課題意識・向上心・積極性）【1－(4)】

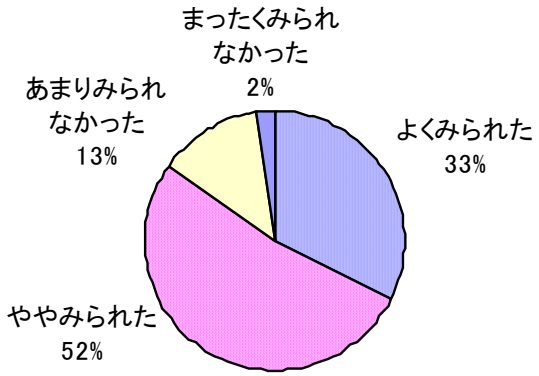
4　本時の展開

時間	学 習 内 容	学　習　活　動	指導・支援 （学習形態）	評価規準 (観点･評価方法)
5 導入	1 講師を知る 2 学習内容の確認	・指導者の自己紹介を聞く ・本時の目標を知る	・全員が指導者の方を見ているか確認する ・実物「風船」を用いて、課題内容を具体的に把握させる	課題内容をしっかり捉えようとしているか【関心・意欲】（行動観察）
35 展開	3 演習 (1)風船を遠くへ飛ばすためのアイデアを考える	・各自アイデアをカードに記入する ・アイデアを書いたカードをもとに各自アイデアを発表する ・出てきたアイデアをもとにさらにアイデアを出しカードに記入する	（グループに分かれて） ・グループごと司会者を選出する ・ブレーンストーミングの４つの基本ルールを紹介し、守るよう注意する	積極的に参加し、より多くのアイデアを出すことができたか（向上心・積極性）（行動観察）
	(2)出てきたアイデアをまとめる	・カードを模造紙の上に整理する	・表札づくりと図解化について補足する	話題がずれていないか（課題意識）（行動観察）
	(3)まとまったアイデアにもとづいて風船に工夫を加える	・実際に風船に工夫を加え、飛ばしてみて結果を確認する	・工夫が過度にならないよう注意する	アイデアをうまく実現できているか【技能・表現】
5 終末	4 本時のまとめ	・アイデアを発表する	・各グループにアイデアを発表させる ・創意工夫することの大切さを再確認する	創意工夫に対する関心が高まったか（向上心）（振り返り）

5）中学生による評価（感想）

本授業における道徳性育成の視点を、「理想の実現を目指し、自ら積極的に課題に取り組む姿勢を育む」と設定した。授業後の中学生を対象としたアンケート結果は以下のとおりであった。

Q 今回の授業では自ら進んで根気よく学習しようとする姿勢がみられましたか？



（n=91）

この授業を受けた 85 %の中学生が、「よくみられた」「ややみられた」と答えており、目標が達成されていることが窺える。

３－４　道徳教育全体計画の作成

「人間としての在り方生き方に関する教育」（道徳教育）は学校の教育活動の全体を通じて行うものであるから、それぞれの教科、特別活動等で進める際に相互に密接な関連が図られなければならない。その際に必要となるものが全体計画である。

全体計画には、まず学校の教育目標を掲げ、それをもとに道徳教育目標を設定し、各教科・科目、特別活動等における指導との関連や地域との連携の方法を盛り込んだ。特に、各目標がどのようにして達成されるかを明示するよう心がけた。

なお、道徳教育目標を設定する際、以下の３つの本校で育成したい資質や能力をもとに、生徒の実態、保護者の要望、地域の特性などを考慮し決定した。

・産業人としての自己の役割を自覚する態度
・将来の生き方や進路を考え、計画を立て、実行する能力
・適切なコミュニケーションを図りながら、豊かな人間関係を築く能力

平成２０年度の道徳教育全体計画を資料１（P66）に記載する。

３－５　公開授業

現行の高等学校学習指導要領総則には、高等学校の道徳教育は「人間としての在り方生き方に関する教育」を学校教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならないと記されている。

１９年度は教科・科目の指導を通じて道徳性を高めることを目的として、「道徳性育成の視点」を盛り込んだ英語科の公開研究授業を実施した。平成２０年度は各教科・科目の指導および各種行事を通じて道徳性を高めることに加え、ロングホームルームを活用した道徳指導について実践を行うこととした。具体的には、秋の「いしかわ教育ウィーク」に合わせ、全教員による「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の公開授業の実施と全ホーム担任によるロングホームルーム（道徳の時間）の公開授業を計画し実践した。

さらに、１１月末に開催した本事業にかかる研究発表会において、「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の公開研究授業とロングホームルームを活用した「道徳の時間」

の公開研究授業を実施した。

（1） 「いしかわ教育ウィーク」における公開授業

1) 「道徳性育成の視点」を盛り込んだ教科・科目の授業

「道徳性育成の視点」とは、各教科・科目の目標や内容と道徳との関連を表すものである。これは、各教科・科目の目標や内容及び教材には、道徳教育にかかわるものが含まれており、学習活動を工夫したり、真剣に学習に取り組むよう学習態度の指導を行ったりすることは、学習効果を高めるとともに、望ましい道徳性を育てていくことにつながるという考えに基づいたものである。

この視点を明確にするには、教師一人一人が「道徳の内容」あるいは徳目を把握しておく必要がある。その際、「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表が参考になる。参考とした「道徳の内容」を資料２（P68）に記載する。

各視点に挙げられている内容項目を徳目化すると、次のようになる。

「主として自分自身に関すること」

(1)生活習慣、心身の健康、節度ある生活態度、節制、明朗
(2)希望、勇気、強い意志、勤勉・努力、不撓不屈、忍耐、克己心
(3)自立・自制、自律、思慮、反省、自主性、正直、誠実、責任、自由と規律
(4)真理、真実、理想の実現
(5)向上心、個性伸長、創意、進取

「主として他の人との関わりに関すること」

(1)礼儀作法
(2)人間愛、思いやり、親切、感謝
(3)友情、信頼
(4)男女理解、健全な異性観
(5)寛容、謙虚、尊敬、感謝

「主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」

(1)自然愛〈動植物愛護、環境保全〉、敬虔、畏敬の念、
(2)生命尊重、人間愛
(3)強さ、気高さ、生きる喜び

「主として集団や社会との関わりに関すること」

(1)社会的役割と責任
(2)法やきまり、権利と義務、規則の尊重、遵法
(3)公徳心、社会連帯
(4)正義、公正、公平
(5)勤労の精神、社会への奉仕、公共心
(6)家族愛
(7)愛校心
(8)郷土愛、先人への感謝
(9)愛国心、伝統と文化
(10)国際理解と親善、人類愛

教科・科目の授業において、「道徳性育成の視点」を持って学び方やものの考え方等を指導することは、生徒に自分の在り方生き方を考えさせる手掛かりを与えることにつながり、生徒のよりよく生きようとする願いに応えることになる。つまり、内容的に道徳教育と直接関係ないと思われる教科・科目の学習によっても道徳性を育てることができるものと考える。

「道徳性育成の視点」の記載については、公開研究授業の学習指導指導案（P39）を参照いただきたい。

2）ロングホームルームを活用した「道徳の時間」

「道徳性育成の視点」を盛り込んで教科・科目の授業では、道徳の内容項目すべてを網羅することは困難である。そのため、教科・科目の授業では扱いにくい内容項目の指導や道徳性を育成しようとする行事に対する「意味づけ指導」に対しては、道徳のかなめになる時間が必要と考える。その際、「在り方生き方」教育を指導するかなめとしてロングホームルームの活用が考えられる。

以下に「道徳」の一般的な学習指導過程を示す。道徳の学習指導過程も、一般の授業と同様に、導入、展開、終末の各段階を設定することができる。

一般的な学習指導過程

［導入］主題に対する興味や関心を深めて、学習への課題をもち、意欲を高める。
［展開］資料による話し合いや自分自身を見つめることをとおして、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める。
［終末］話し合いをまとめたり、道徳的価値に対する思いや考えを温めたりして、今後につなげる。

(a) 導入の工夫

導入の方法としては、ねらいとする道徳的価値への興味・関心、資料への興味・関心、生徒が発言できる雰囲気づくり等があり、生徒が「おもしろそうだ」、「役立ちそうだ」と期待感をもち、学習意欲を高められるようにすることが大切である。

そのためには、アンケート調査の結果等の資料を提示したり、資料に関係する写真や VTR、音楽、新聞記事、生徒作文などを活用したりすることが考えられる。

(b) 展開の工夫

展開は、中心的な資料によって、生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値について自覚を深める段階である。そのためには、資料に措かれている世界や登場人物だけのこととして考えるのではなく、生徒が自分自身のこととしてとらえて考えることが重要であり、生徒の実態に合わせて柔軟に展開を創意工夫する必要がある。

授業においては、教師や生徒の朗読、CD、VTR を活用するなどの資料提示の工夫、生徒の実態や資料の特質を押さえた意図的、計画的な発問の工夫、生徒が主体的に人間としての在り方生き方を追求して思考を深めるための役割演技や二人一組の対話、グループでの話し合い等、授業形態の工夫により、生徒が生き生きと活動し主体的に考えを深められるようにすることが効果を高めることにつながる。

(c) 終末の工夫

終末では、その授業で自覚を深めた道徳的価値が、生徒自身にとって大切であることを認識し、それが将来に対する夢や希望につながることを理解させることが重要である。

そのためには、学習内容を生徒自身の問題として深くとらえさせる、ねらいとする道徳的価値を身に付けている自分自身の姿や生き方を展望させる、ねらいに即して人間としての在り方生き方について考えさせる、実際にねらいとする道徳的価値を追い求めている人の生き方に触れるなどの観点がある。具体的には、説話、音楽、格言、ことわざ、生徒作文、教師の体験談、教師の願いや助言、ゲストティーチャーの話などの方法が考えられる。

なお、「終末」となっているのは、ねらいの内容をまとめ、確認するだけで終わるのではなく、学んだことをより深く心に留めたり、さらに授業後の学習に発展さ

せたり、道徳的実践へとつなげたりすることが大切だからである。

平成２０年度の「いしかわ教育ウィーク」にて実施したロングホームルームを活用した「道徳の時間」の学習指導計画を資料３（P69 ～ P83）に記載する。

3) 「いしかわ教育ウィーク」における公開授業の評価

平成２０年度に新たに取り組んだロングホームルームを活用した「道徳の時間」についての評価として指導者および生徒の感想を以下に記す。

教師Ａ：　世の中の同世代の人が起こした事件や、県内で起きた事件を題材に「なぜこんな事が起きるのか？」を生徒に問いかけながら実施したので、生徒達の反応もよかったと思う。窮屈な教室で１日７時間近く過ごすのであるから、そこが快適な場所とするためにはどうしなければならないか、ということを少しでも理解してくれたと思う。

「道徳」というと何か取っつきにくく、難しいように思えてしまうが、教師側が肩に力を入れ、構えて授業するのではなく、日々、生徒との対話の中で伝え、問い続けなければならないものであると思う。

生徒 A1：今回の授業では、相手を思いやることや命の尊さについてよく理解できました。内容を振り返ってみるとこれからの高校生活をよりよく過ごすためには、一人一人の個性を理解し、いいところを見つけて、自分も認めてもらうし、友達も認めてあげれるように努力しなければいけないと思いました。そういう意味でとても心に残る授業だと感じました。

生徒 A2：人間関係を作ってそれを保つことは本当に難しいんだなと改めて思った。コミュニケーションを取るためには自分も努力しなければいけないし、相手も努力が必要なんだなと思った。

みんなが来たいと思うような教室作りができればいいと思う。そのためには一人一人がつながりを持たなければならないと思う。

生徒 A3：自分はよく他人の悪口を言ってしまうので言わないようにしていきたいと思った。自分のことを中心に考えるのではなく、周りの人に気を遣って、心が広くなるように努力していこうと思った。それとみんなで協力して一つ一つのことをやり遂げていけたらいいなと思った。

教師Ｂ：　生徒は、いつもより静かに聞き入っていた。ざわつきもなく指導者の指示に従ってくれた。しかし、発言を求めても活発な反応が少なく、指導者側の感じてほしいことが伝わっていない感じがする。ものづくりについては、効果がある程度わかってくれた気がするが、いのちの大切さを感じた生徒は少なかった。今後の課題である。

生徒 B1：今まで何かを知りたいと頑張ったことがなかったので、冒険心や好奇心というのを感じたことがなかったが、ものづくりにとっては、とても大切なことだと思いました。これからは、そういうものを感じられるものを見つけたらいいと思いました。

生徒 B2：最初は、科学技術は人々の生活を楽にしてくれると思っていました。だけど、人々の生活を楽にしていくことで、人々に害のある副産物も生まれていると知りました。

教師Ｃ：　やっぱり照れがあるのか、意見や発問が少なかった。「挨拶」をテーマにとりあげたが、ワークシートでも真剣にとりくんでいるとみられる人数は少なかった。唐突に１回授業を行っても効果は少ないように思える。

生徒 C1：いつもあまり意識をせずにいろいろな挨拶をしていたけれど、道徳の授業をして、たくさんの挨拶を知っていて、知っているけど使っていない挨拶が多いと思った。
生徒 C2：授業内容は挨拶についてだった。挨拶は大切なものだし、社会に出ても必要なものだ、だからこれからもきちんと挨拶をしていきたいと思う。
生徒 C3：挨拶は大切だと思った。いつもいろいろな挨拶をしていると思っていたけど、たくさんの挨拶を考えるときになかなか思いつかなかった。

教師Ｄ：　改めて道徳の授業というと難しく考えがちだが、身近な話題で授業を進めたので話はしやすかった。ただ、生徒に道徳教育として上手く伝わり、考えさせることができたかどうかは疑問である。もう一度「道徳って何だろう」というところから、指導を進めていく必要があるのではないのかと思う。
生徒 D1：一人前の大人として、相手に対しての話し方や社会のルールを身につけることは大切だが、とても大変だと思った。
生徒 D2：色々なことに目標を持って努力することで、人間として成長していくことがわかった。
生徒 D3：自分の失敗が、すべての人に迷惑がかかることがあるので、縦と横のつながりをしっかりして、皆で協力していかなければならないと思う。

教師Ｅ：　最近、話題になっている身近な問題として食品に関する例を取り上げたことで、いろいろと意見が出たことは良かったと思う。あまり真剣に考えようとしないと予想していたが、ほとんどの生徒がしっかりと考え、自分の思いや考えをワークシートに記入していた。
　この１時間の授業だけではあまり変化がないかもしれないが、道徳的な観点で物事を考えるいいきっかけにはなったと思う。
生徒 E1：自分が社会人になった時、会社内でこんなことが起きたらどうするかとても考えさせられた。少しでも偽装問題などが減っていけばいいと思う。
生徒 E2：法律や規則がないとみんなが自分勝手になってしまうので、あった方がいい。
生徒 E3：企業の人は消費者のことを考えて安全な商品を作っていくべきだと思う。

教師Ｆ：　通常のＨＲでの内容に道徳的な意味を持たせました。

教師Ｇ：　自分自身の生き方に自信が持てないため、不安一杯の授業であったが、自分のこれまで生きてきた中での思ったことや、教訓などの実例を挙げながら話を進めた。生徒たちの反応も授業が始まるまでは不安であったが、「自分の良い面、悪い面を考えてみよう」や「自分の将来像」といったワークシートにもまじめに取り組んでいた。これまで普通の授業の中でこのような道徳的な話をしたことがあったが、道徳の内容だけで１時限を使うことは初めてであった。このような時間を作ることでクラスも落ち着きを得られるような気がした。
生徒 G1：今日の授業を聞いて、道徳は理解するだけで終わるのではなく、実践することに意味があるので、ぜひ実践したいと思いました。人は一度存在し、二度目は生きるために生まれます。今はどちらなのだろうと考えてみました。そこで分かったのが、これに気づいてから 生きるということなんだなと思いました。道徳と一緒だと思います。理解するだけではなく、実践することと同じで、存在するだけではなく、一生懸命生きることが大事だと思いました。
生徒 G2：私は、将来は自分も働かないといけないけれど、将来の夢やなりたい職業など、具体的な目標が何一つありません。ただ、自分の仕事で他人に感謝されればうれしいと思っているくらいです。だから、これから少しずつ自分のやりた

いことを探していこうと思っています。

生徒 G3：僕は、今回の道徳で「お金のためだけに働くのではない」ということを知りました。だから、僕は将来お金の為だけに働くのではなく、人の役に立つ、人に貢献することができるような仕事に就いて一生懸命に働き、目には見えない充実感や人間としての能力・人間としての成長などを得ることができたらいいなと思いました。

教師H：　慣れない道徳の授業をして、うまくいくか、生徒に考えさせることができるか不安で自信がなかったが、人間愛をテーマに「だれかのために」（水谷修）の資料が生徒にとってわかりやすかったのか、授業の感想を読むと少しは何か感じるところがあったのかと思う。今後も道徳の授業だけでなく、学校生活や他の授業をとおして生徒達と関わっていきたい。

生徒 H1：今回、この水谷修さんの話、それを踏まえて先生の話を聞き、自分も今以上に人間関係を考えていかなければいけないと思いました。人を外見で判断してしまった人と積極的に接し、内面を知っていきたいです。そうやって最終的には相手の立場、気持ちを考えて行動していきたいです。改めて、こういう授業をできて良かったです。

生徒 H2：水谷先生の生き方は誰にも真似のできないような素晴らしい生き方だと思いました。自分のためより子供達のために生きている。とても尊敬できる人間です。このがんばりで、街が平和になってほしいです。一人の少年が薬物で死んでしまった話で自分も薬物の怖さが分かりました。それはほんの一回のつもりではじめてもそこから抜け出せず自滅してしまうということです。

今日の授業で薬物の怖さもそうですが、水谷先生のように思いやりをもって生きようと思いました。

生徒 H3：水谷さんの生き方はとてもつかれる生き方だと思いました。なんで人のためにそこまで頑張れるのだろうと思いました。でもとても素晴らしいことだと思いました。僕を含めこういった考え方ができる人が少ないと思います。僕も水谷さんのように豊かな心を持ちたいと思いました。

教師Ｉ：　慣れない授業で進めづらかった。「生きる」「いのち」と多少重いテーマを 2 編の詩をとおして話を進め、各自の思いや感想を記入させる形式で行った。発表や意見交換もと考えたが、今回のテーマでは無記名とした。

生徒の感想を読み、案外真剣に聞いてくれたのだと安堵し、「生きる」ことを考える一つの機会になれば良いと思う。

生徒 I1：あまり生きるということについて深く考えたことはなかったけど、人間は一人では絶対にとはいえないけど、生きてはいけないと思うし、誰かの力を借りて今を生きているんだと思います。改めて、生きるとはどんなことなのかを考えるきっかけになりました。

生徒 I2：生きることについて、いろんなことが学べて本当に良かった。こんな機会はめったにないから、貴重な時間だったと思います。

生徒 I3：生きることについて、今まであまり考えていなかったけど、今日少し考えることができた。

教師Ｊ：　初めての道徳の授業で、どのように進めれば効果が上がるかいろいろ心配しながらの展開であったが、無事行うことができた。

予告はしてあったが、いつもより静かに聞き入っていたので、質疑応答が日頃と違ってあまり活発ではなかった。でも、一人一人何かを感じたようであった。人の生き方をみて、各自が思い思いに将来の姿を思い描いていたので、あ

る程度よかったように思われる。
生徒 J1：将来、人生を振り返った時に、間違っていなかったと思える生き方をしたいと思った。
生徒 J2：人は一人では生きていけないと思った。いい加減に生きていたらだめだということ。周りの人への感謝の気持ちが大切だと感じた。
生徒 J3：他人の期待で自分を見失ってはいけないと感じた。何事にも誇りをもってやっていきたいと思う。

教師Ｋ：・生徒の捉え方が教師の予想より厳しい意見が多かった。
・予想しない展開になりがちになるため、授業の軌道修正に苦労した。
・ねらいにマッチした意見を書いている生徒をチェックし、発言させる。
・机間指導では、筆の止まっている生徒にしっかり指導せねばならない。
・生徒の意見に対して振り返りが必要。私の反応が悪く、適切な振り返りができなかった。（意見を聞くだけに止まってしまう。）
・ねらいに対して適切な発言については、板書で強調する。
・ワークシートの簡素化し、配時を意識する。
生徒 K1：今まで命の大切さを教えてもらっていたが、今回の授業では、命のつながり、人は一人で生きているわけではないということを学ぶことができて良かった。自分も振り返ってみると、多くの人に支えてもらって生きて来たと思う。今まで自分を支えてくれた人に感謝することも大切なことだと思った。
　自分の寿命はあと何年あるのか判らないが、もしかしたら、１週間後交通事故で死んでしまう可能性も０％ではないので、後悔を残さないように生きていこうと思う。
生徒 K2：これほどの大変な人生を歩んでいる人もいるのだから、自分に辛いことがあっても逃げないようにしたいと思う。そして、自分の命は自分だけのものではないと言っていたので、そのことを考えて自分の体を大切にしようと思う。
生徒 K3：今回の授業をとおして、命の重さ、尊さが分かったし、人は決して一人ではないという気持ちになりました。
　今までは助けてもらってばかりの立場だったので、これからは人の支えになれるような存在になれるように頑張っていきたいです。

教師Ｌ：　道徳の授業を新鮮に感じてくれたのか、思ったより厳粛に授業を進めることができた。感想を述べるのが難しかったようだが、悩む姿で真剣に著者の気持ちを察し様としているのが分かった。限られた時間で指導案どおりには一応進めた。
生徒 L1：国語の授業の様だった。
生徒 L2：感謝すること、思いやりを持つことが大切と思った。
生徒 L3：詩の感想を言うのが難しかった。

教師M：　道徳の授業として最近の時事ニュースを題材に取り上げたが、事件を知らない、わからないと言った生徒が多いことに驚いた。ただ、授業は自分の身にふりかかってくる問題として理解してもらえたのか、真剣に取り組んでくれたと思う。
　また、感想文から「相手の気持ちになって」や「モラルを持って」などの道徳的視点で捉えてくれた生徒が多く、今後のきっかけになってくれればと思う。
生徒 M1：まず、自分は世の中のことを全く知らなかったんだなと思った。授業を受けて、最近のほとんどの事件が相手の気持ちを考え、誠実に良心を持つことで防げる事件ばかりだなとわかった。食品偽装の件は特に考えられない事件だ。自

分だけが儲かればいいという考えを捨てて、みんなのことを思いやる気持ちがあればこんな事件は起きないと思う。

生徒 M2：今日の授業を聞いてもっと他人（消費者）のことも考えて行動するべきだと考えた。自分の利益ばかり考えているモラルのない会社が最近多いのでもっと注意しないといけないと思った。もっと新聞やニュースを見て知識を持たないといけないなと思った。

生徒 M3：道徳的に考えると、みんながモラルや良心を持っていれば起こらない事件が最近増え続けていると思う。こんな世の中ではいけないと思うが生きていくうえで仕方がないのだろうか。各自が相手のことを思いやりこの種の事件が少なくなればいいなと思った。また、社会人になっても、もっと様々な知識を学んでいこうと思った。

教師N：　自分自身、指導案を書いて道徳の授業を行ったことは初めてで、緊張しました。教材を提供していただいて、非常に助かりました。

　予告はしてあったのですが、いきなり教材を配って授業をして、生徒がどれだけ理解してくれたかは疑問です。実施するなら、事前に関連したビデオなり、プリント学習を行うほうが効果的だと思いました。特に、視覚に訴えるビデオなどは今の生徒には理解しやすいと思います。学校でも道徳的なビデオなどを蓄積して欲しいと思います。

生徒 N1：中学校以来の道徳の授業だった。昔より、人の気持ちや世の中のことが分かるようになったので、内容をよく理解できるようになったと思う。たまには、こんな授業もいいと感じた。

生徒 N2：道徳は数学などとは違って、いろいろな意見が答えになるので割と好きだ。しかし、高校３年にもなると、皆の聞いているところで発表したり、意見を言ったりすることは難しいと思う。その点、今回の授業では、主にプリントに書く形式だったので、自由に書け、良かったと思う。

生徒 N3：プリントの感想を書く時間が少なかった。長文なので、難しかったが、先生が人間関係を図示してくれたので理解できた。でも、やはり道徳は苦手だ。

4）考察

(a)「道徳性育成の視点」を盛り込んだ教科・科目の授業

　学校の教育活動の全体をとおしての道徳教育という視点に立てば、学習指導要領に「人間としての在り方生き方」について指導することを記された現代社会や倫理を除き、各教科・科目における道徳教育（人間としての在り方生き方教育）の基本は、学習活動や学習態度をとおして道徳性を育てることにあると考える。

　各教科・科目の内容を精査すれば、徳目に結びつけることができる単元や内容をどこかに必ず見つけることができるはずである。しかし、今回の実践では、「いしかわ教育ウィーク」という実質４日間の授業の中で、「道徳性育成の視点」を教科・科目の指導の中に盛り込むことを検討してみた。

　各教科・科目の授業において、内容的に道徳教育と直接関係ないと思われる学習場面であっても、学習の際に感じた発見の喜び、理解できたという充実感、真理へのあこがれ、悔しい思いなどの様々な思いに寄り添い、やる気を引き出す勇気付けを行うことが道徳教育に結びつくものと考える。このような教師の働きかけや授業をとおして学び方やものの考え方等を指導することは、生徒に自分の在り方生き方を考えさせる手掛かりを与えることにつながり、これが逆に生徒の学習意欲を引き出し、主体的に学ぼうとする意欲を養うことになるものと考える。

(b) ロングホームルームを活用した「道徳の時間」

教師の声

≪成果≫
・生徒達の反応もよかった
・どうしなければならないかということを理解してくれた
・いつもより静かに聞き入っていた
・身近な話題で授業を進めたので話はしやすかった
・話題になっている例を取り上げたことで、いろいろと意見が出た
・ほとんどの生徒がしっかりと考え、自分の思いや考えを記入していた
・道徳的な観点で物事を考えるいいきっかけになった
・生徒はまじめにワークシートに取り組んでいた
・このような時間を作ることでクラスも落ち着きを得られるような気がした
・生徒は何か感じるところがあった
・案外真剣に聞いてくれた
・いつもより静かに聞き入っていた
・人の生き方をみて、各自が将来の姿を思い描いていた
・思ったより厳粛に授業を進めることができた
・生徒は授業に真剣に取り組んでくれた
・授業の題材を道徳的視点で捉えてくれた生徒が多かった

≪課題≫
・発言を求めても活発な反応が少なかった（指導者側の感じてほしいことが伝わっていない感じ）
・いのちの大切さを感じた生徒は少なかった
・意見や発問が少なかった（唐突に１回授業を行っても効果は少ない）
・生徒に上手く伝わり、考えさせることができたかどうか疑問（「道徳って何だろう」というところから指導を進めていく必要がある）
・自分自身の生き方に自信が持てないため、不安一杯の授業であった
・慣れない道徳の授業をして、うまくいくか、不安で自信がなかった
・慣れない授業で進めづらかった
・初めての道徳の授業で授業の進め方について心配しながらの展開であった
・質疑応答が日頃と違ってあまり活発ではなかった
・生徒の捉え方が教師の予想より厳しい意見が多かった
・感想を述べるのが難しかったようだ
・最近の時事ニュースを知らない生徒が多いことに驚いた
・道徳の授業を行ったことは初めてで緊張した
・ビデオなり、プリント学習を行うほうが効果的だ（教材の蓄積・充実を望む）

「反応は良かった」「いろいろと意見が出た」クラスと「反応は少なかった」「意見や発問が少なかった」クラスがある。これはいかに生徒に身近なテーマを設定し、あらかじめ意見をまとめることを手助けするワークシート等を生徒に提供できるにかかっているように感じる。

生徒は中学校までの経験で「道徳の時間」への取り組み方を心得ているが、「慣れない」「初めて」という言葉から、高校の教師にとって「道徳の時間」の指導は今回が初めてであり、どうやって指導したらよいのか、とても不安な状況であったことが窺える。

生徒の声
・相手を思いやることや命の尊さについてよく理解できた
・冒険心や好奇心が、ものづくりにとってとても大切だ
・知っているけど使っていない挨拶が多い

・挨拶は大切だと思った
・法律や規則はあった方がいい
・話し方や社会のルールを身につけることは大切
・皆で協力していかなければならない
・一生懸命生きることが大事だ
・これから少しずつ自分のやりたいことを探していこうと思う
・人の役に立ったり貢献できるような仕事に就いて、充実感や人間として成長したい
・相手の立場、気持ちを考えて行動していきたい
・薬物の怖さが分かった
・思いやりをもって生きようと思う
・生きるとはどんなことなのかを考えるきっかけになった
・生きることについていろんなことが学べた
・生きることについて少し考えることができた
・人生を振り返った時に、間違っていなかったと思える生き方をしたい
・周りの人への感謝の気持ちが大切
・何事にも誇りをもってやっていきたい
・人は一人で生きているわけではない（多くの人の支え）
・自分に辛いことがあっても逃げないようにしたい
・自分の体を大切にしたい
・命の重さ、尊さが分かった
・人の支えになれるような存在になれるよう頑張りたい
・国語の授業の様だった
・感謝すること、思いやりを持つことが大切
・みんなのことを思いやる気持ちがあれば事件は起きない
・もっと他人のことも考えて行動するべきだ
・もっと新聞やニュースを見て知識を持たないといけない
・もっと様々な知識を学んでいきたい
・昔より、人の気持ちや世の中のことが分かるようになったので、内容をよく理解できるようになった
・道徳はいろいろな意見が答えになるので好きだ
・高校 3 年にもなると、皆の聞いているところで発表したり、意見を言ったりすることは難しいと思う
・やはり道徳は苦手だ

各生徒の感想から、学習指導計画にてあらかじめ計画した授業のねらいがうまく生徒に伝わっているのがわかる。

ここで、「国語の授業の様だった」という感想に着目してみたい。これは「道徳の時間」が国語の授業と類似し、国語の延長のように受けとられたということである。読み物資料を使った場合、国語に類似することはやむをえないかもしれない。確かに、生徒にとって国語の授業と区別することは困難かもしれない。しかし、「道徳の時間」には固有の領域と学習方法が存在する。「道徳の時間」の内容を理解した上で、題材にあった指導方略を検討することが問われているものと考えられる。

道徳の授業が目指すものは生徒の道徳性、道徳的実践力の育成にあることはいうまでもない。具体的には以下に示す道徳性の諸様相のいずれかあるいは複数が授業のねらいとして存在しなければならない。

a）道徳的心情をはぐくむ
b）道徳的判断力を高める

c）道徳的実践意欲を育てる
d）道徳的態度を養う
e）道徳的知識・理解を深める

（２） 研究発表会における公開研究授業

平成２０年１１月に、本研究事業にかかる研究発表会を開催した。その際、「道徳性育成の視点」を盛り込んだ保健の公開研究授業とロングホームルームを活用した「道徳の時間」の公開研究授業を実施した。公開授業および公開授業の後行われた協議会の内容を以下に記す。

1）研究発表会の概要

(a) 日　　程　　平成２０年１１月２８日（金）

13:00　13:30　14:20　14:35　15:15　15:25　16:50　17:00

受付	公開授業	移動	分科会	移動	講演	質疑・閉会

(b) 公開研究授業

No	場　所	授業者	授　業　内　容
1	機械ｼｽﾃﾑ科２年	中田 裕己	保健,「環境衛生活動の仕組みと働き」　公徳心
2	ﾏﾃﾘｱﾙ科２年	合場 孝之	ＬＨ,「人間尊重の精神」　生命尊重・法やきまり
3	電気科３年	上野 安正	ＬＨ,「かけがいのない命」　崇高な生き方

(c) 講演

演題　「人間形成教育の展開」
講師　金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所長　教授 札野 順 氏

2）学習指導案

(a) 保健,「環境衛生活動の仕組みと働き」　P39 ～ P40 に記載
(b) ＬＨ,「人間尊重の精神」　P43 ～ P44 に記載
(c) ＬＨ,「かけがいのない命」　P46 ～ P47 に記載

3）授業記録

(a) 保健,「環境衛生活動の仕組みと働き」　資料４－１（P84 から P94）に記載
(b) ＬＨ,「人間尊重の精神」　資料４－２（P95 から P103）に記載
(c) ＬＨ,「かけがいのない命」　資料４－３（P104 から P112）に記載

保 健 体 育 科 研 究 授 業 学 習 指 導 案

学　　校　　名　小 松 工 業 高 等 学 校
指導者 職・氏名　教 諭　　中 田 裕 己

指導日時・教室　平成 ２０ 年 １１ 月 ２８ 日（金） ５ 限目　教室名 M2教室
対象生徒・集団　機械システム 科 ２ 年（次）生 ３５ 人
科　目　名　保 健　（単位数 ２ ）
使 用 教 科 書　現代保健体育改訂版　（ 大修館 ）

１　研究テーマ
（1）研究テーマ
誠実を尊び規律を守り、豊かな心、たくましい体力と実践力を持った人材を育成する。
（2）研究テーマ設定の理由
ごみ処理を問題とし、社会のルールの遵守、マナーを大切にする心を育てていきたいと考え本テーマを決定した。

２　単元名　3. 社 会 生 活 と 健 康

３　単元の目標
・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について関心を持ち意欲的に取り組む。【関心・意欲・態度】
・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について学習や経験をもとに、課題の設定や選択すべき行動を判断している。【思考・判断】
・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解し課題解決に役立つ知識をみにつけている。【知識・理解】

４　指導に当たって
（1）生徒の状況
２年機械システム科の生徒は、ほとんどが就職希望ですぐに実社会へ出て行く、他の学科と比べると活発で元気である。保健については、興味関心のあることには積極的に関わってくるが、その他では意欲がうすいところがある。いかに単元内容の題材に関心を持たせるかが大切になってくる。
（2）指導方針・方法
何気なく捨てているごみの処理方法やコストを学び、自分たちが家庭や学校で出しているごみの分別を考え、マナー・ルールの大切さを訴えていく。
（3）教材選定の理由
市町村ごとに分別法が異なり、家庭と学校も違っている場合がある。そこで、それぞれの場所での分別を理解し、今後の生活に生かし他人への感謝と思いやりの心を育てていくいい教材である。

５　社会生活と健康の指導計画　(総時数 １２ 時間)
第一次　環境と健康　（4時間）
第二次　環境と食品の保健　（5時間）
第1時　環境衛生活動の仕組みと働き(1)・・・本時
第2時　環境衛生活動の仕組みと働き(2)
第3時　食品衛生活動の仕組みと働き
第4時　食品と環境の保健と私たち
第5時　食品と環境の保健を守るために
第三次　労働と健康　（3時間）

６　本時の指導と評価の計画　(第 二 次　第 １ 時)
（1）　本時のねらい
保健のいろいろな事象について関心を持っている。【関心・意欲・態度】
ごみ減量の必要性とリサイクル活動を進めていく必要がある事を理解させる。【知識・理解】
ごみを適切に処理しないと健康を害することがある事を理解させる。【知識・理解】
（2）準備資料等　プリント
（3）道徳性育成の視点
環境問題が大きく取りざたされている今日、ゴミ処理の問題から社会のルールの遵守、マナーを大切にする心を育てていくことを目指す。　4－（3）　公徳心

7　本時の展開

時間	学習内容	学　習　活　動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 １０分	出欠確認 新聞要約発表 (２名)	・予定の生徒２名が新聞記事を持ってきて要約・自分の意見を発表する。 ・　他の生徒は聞き取り、質問があればする。	・発表をうけてコメントを加える	・事前準備ができているか。 【関心・意欲・態度】 （観察）
展開 ３０分	捨てれば「ごみ」、生かせば「資源」	・自分の家の分別方法を書き出す。 ・何人かに発表させる。	**発問**「自分の家ではどの用にごみを分別しているだろうか」 ・市町村によって違うことに気づかせる。 ・安易に捨てるのではなく、リサイクル可能なように分別する必要に気づかせる。	
		・何気なく出しているゴミを身近に捉え、マナーやルールの大切さを訴える。		◎道徳性育成の視点 マナーやルールの大切さに気づいたか。 （観察）
	ごみ処理のコスト	・予想させ、何人かに発表させる。	**発問**「ごみ」の処理に使われるお金は、１年間に国民一人当たりどれくらいだろう？ 2004 年度総額 2 兆 2450 億　国家予算の 3% 一人当たり 15.200 円 ・お金も「ごみ」と消えていることに気づかせる。 ↓ ・ごみを減らし、税金の有効活用	
	ごみ処理と私たちの行動	・気づかせる。	**説明**「ごみとﾀﾞｲｵｷｼﾝ」の話 ・食品ラップ（塩化ﾋﾞﾆｰﾙ等）を燃やすと生成されやすい事を気づかせる。	
まとめ １０分	循環型社会への転換 次時の説明	・配布された資料の完成	・資料を配布 ・排出抑制が重要であることを理解させる。	・分別の知識を身につけ、その役割について理解できたか。 【知識・理解】

4）保健の研究授業についての効果と課題

≪効果≫

参観者 5：・・・（略）・・・いろんな教科で、辰巳丘でもやりましたけども、どの教科でも、どんな学校の活動でも、適切な道徳教育とか、在り方生き方の観点というのは、たぶん盛り込めるなぁ、と改めて可能性みたいなものを、今日も感じて、非常に私は勉強になりました。特に、いいところは、やはり、道徳というとちょっと説教じみてくるところがあるというと言うと怒られるかもしれないんですけど、いろんな教科で、自然に、今日、私も保健の授業、20何年ぶりに受けたんですけど、自然な形で生徒の心に、こういうことやっぱりしたらいかんなぁとか、善悪の考証観も自然にこう浸透していくような感じを受けたので、自分の教科でも、国語なんですけど、あまり説教じみないようにしてやっていけば、特別、道徳の教育するのとはまた別のいい意味で効果があるんじゃないかなと改めて思いました。どうもありがとうございました。

今回の「道徳性育成の視点」を盛り込んだ授業の実践から、どの教科・科目でも道徳教育を盛り込める可能性があるということがわかる。さらに道徳の指導というと、説教じみた内容や授業形態で捉えられがちであるが、科目指導の中で指導すれば、生徒に自然に伝わり、より効果がある場合があるということがわかった。

≪課題≫

参観者 2：今、道徳的ということですので、学校の教室にはゴミ箱が設置されているので、できたら授業中に、何人かの生徒にゴミを捨てさせるとか、分別させて、いろんなゴミの中から分別させて捨てさせるというふうなことも授業に入れていくと、マナー的なもんであったりとか、そういうことも生徒が実体験としてわかるというようなのがあったら、子どもらも楽しく授業をできたんではなかったかなというふうに、道徳的なところでそう思いました。

本校では、教室にゴミ箱が３つ用意されており、普通ゴミ、ペットボトル、紙パックに分別するよう指導している。しかし、必ずしもしっかりと分別が徹底されているわけではない。ゴミ箱の中身を実際に生徒に調べさせて、自分たちの分別の状態を再確認し、授業の場で分別を行えば、身近なゴミ分別の問題から社会のルールの遵守やマナーを大切にする心を育てていくことができるものと思われる。

ただし、この授業があった日は、公開授業の前に清掃を行っており、残念ながらゴミ箱にはゴミがほとんど残っていない状態であった。しかし、授業者は以下のような試みを行っている。

0:15:34 教師　えぇ、この学校の分別方法は、一つは普通ゴミ、弁当トレイ、ね、ペットボトル、缶、紙パック、えぇ、あとはね、これ多分ないと思うんですけど、書籍類、教科書、ノート、新聞、ひもでくくってください。

0:15:47 教師　段ボール、畳んでください。

0:15:49 教師　その他の不燃物。

0:15:52 教師　これにも大事なことが一つ、ね、書いてあります。

0:15:55 教師　紙パック、ね、えぇ、紙パック（ゴミ箱の所へ行く）

0:16:00 教師　あ、ここに、掃除の後やから、一個だけ、ね、入ってます。（ゴミ箱から紙パックを取り出す）

0:16:03 教師　で、残念なんですけど、これやね。
0:16:07 教師　あのぉ、もうちょっと足りんげんな？
0:16:10 教師　本当はここにちゃんとつぶして、えぇ、空にして、つぶしてください、て、いう風にお願いがしてあります。
0:16:19 教師　ね、そういうのを、やっぱり、守っていけばな、どうなるかというのをね、しっかり理解して欲しいと思います。

ゴミ箱に残っていたジュースの紙パックを使って、校内の分別方法やゴミ捨てマナーについて説明しているが、ややインパクトに欠ける説明となっているのが残念である。

0:09:45 教師　えぇ、自分の、家に、どういう分別をしながら、ゴミを出しているか。
0:09:55 教師　（机間指導しながら、ゴミを拾う）
0:09:58 教師　（生徒に）ノートは？
0:10:07 教師　（拾ったゴミをゴミ箱に捨てる）
0:10:11 教師　（机間指導を続ける）

教師が、机間指導中に床に落ちていたゴミを拾い、無言でゴミ箱に捨てている。しかし、これも本時の「道徳性育成の視点」にあるマナーやルールの好機と捉え、適切な指導が求められる場面である。

参観者 4：生徒をどうやって授業に引きつけて公徳心植え付けさせれるかというところが大事になると思うんですが、生徒にとって学校生活と日常生活に合わせて入っていけるといいかなと・・・。例えば、学校生活でしたら、本校では、春、ボランティア遠足で、海岸清掃なんかやっておりますし、ボランティア清掃なんかも、昨日の職員会議でも、複数のクラブが駅の方までボランティア清掃するということも出ておりますし、であと、実際、先日、工業祭のああいったゴミのマナーの悪いところをまた、後始末といったところまで目を配るような授業も、学校、実際、行っておりますので、そういった題材も一つちょっと授業の中で話してやると、子どもら、おお、そうや、俺らこんなことしてきたよな、というような思いが少し現れたんじゃないかと思います。

生徒は、様々な行事に参加し体験を行っている。それらのものと結びつけて指導すると体験に対する意味づけが図られ、内面に根ざした道徳性の育成につながるものと考えられる。

さらに、授業の初めのところで、生徒による新聞記事の発表が行われ、メタボ治療、健康さわやかウォーキング、二酸化炭素排出量に関する記事が紹介されている。本授業における「道徳性育成の視点」は社会のルールの遵守、マナーを大切にする心の育成であるが、この中にも「道徳性育成」に使える記事が存在する。あらかじめ想定した徳目意外であっても、リアルタイムに発表された新聞記事と関連させて指導できるよう、道徳の内容項目や徳目を道徳性のものさしとして把握しておくことが求められる。

例えば、二酸化炭素排出量に関する記事であれば、自然愛〈環境保全〉に関連づけることができるものと考えられる。

道 徳 学 習 指 導 案

日　時　平成 20 年 11 月 28 日（金）第 5 校時
学　級　マテリアル科 2 年生（38 名）
指導者　合場　孝之

1　主題名　人間尊重の精神　《生命尊重・法やきまり》

2　資料名　この子のために　コールバーグ原案　荒木紀幸訳
　　出典　明治図書「道徳授業の新しいアプローチ１０」

3　主題設定の理由

（1）ねらいとする価値観

「人間尊重の精神」は、一人一人の人間が、人間の尊さを確信し、かけがえのない存在として無条件に認め合う精神のことであり、生命の尊重や、人間としての権利、責任について、自己と他者との関係の中で様々な視点から考え、より高次の道徳的思考に気づき、それを内面化していくことが大切である。

（2）生徒観

自分の意見を積極的に述べることのできる生徒が数名おり、活発なクラスである。明るく仲がよく、感謝の気持ちをもって、他者を尊重できる生徒が多い。本時では、モラルジレンマにより自己の道徳的価値観や判断基準を見つめなおす機会を与えたい。

（3）資料観

瀕死の重傷を負った息子の命を救うため、父親が他人の車を暴力により奪い取って病院へ向かった話である。父親は救急車やタクシーが間に合わない状況の中で、家の前に止まっていた車を見つけ運転手に車を貸してくれるよう交渉するが、大事な仕事中と断られ、暴力により車を奪って息子を病院へ連れて行く。息子の命を助けるため自身は罪を犯し刑罰を受けるという父親の行為は正しかったのかどうか考えさせられる資料である。

4　本時のねらい

資料の主人公は車を奪うべきか、奪うべきではないかについて、道徳的に葛藤させるとともに、この行為について、「生命」、「家族愛」、「法律」、「権利と義務」等の視点でディスカッションを行い、人間尊重の精神の在り方を探る。

5　準　備

資料プリント、ワークシート（意見用紙）

※本研究授業を実施するに当たって、本研究の連携校である小松市立御幸中学校の桶川先生・武部先生に指導案の作成や板書計画等細部にわたって指導をいただいた。

6　展　開（５０分）

時間	授業の流れ・発問	予想される生徒の反応	教師の支援・配慮事項
導入 5分	○今までに、救急車に乗ったことがある人はいますか。救急車を呼んだことがある人はいませんか。	・乗ったことがない。 ・怪我をして、乗ったことがある。	・教師の119番通報の体験を話す。人命について触れ、真剣に取り組む雰囲気をつくる。
展開 40分	・資料の配布。教師による範読。		・資料を読み主人公の葛藤状況を確認させる。
	○ジョーンズさんは車を奪うべきか奪うべきではないか迷ったと思います。それは何故ですか。	・息子の命も助けたいし、暴力で車を奪うのもいけないことだから。 ・生命がかかっていても暴力で人のものを奪っていいとは思わない。	
	○迷った挙句ジョーンズさんは運転手に暴力をふるいました。ジョーンズさんの行為についてどう思いますか。	・罪を犯しても、息子の命を助けられるなら親として後悔はない。	・主人公の行為はやむをえなく思えるが、許されることではないことを確認する。
	○運転手についてどう思いますか。何か悪いことをしましたか。大切な仕事とはどのような仕事だったのでしょうか。	・仕事よりも人命が大切だから、病院まで乗せていくか、車を貸すべき。 ・運転手も家族や他の人の命に関わる仕事の最中だったかもしれない。	・運転手の立場に立って考えさせることにより、主人公の行為は許しがたいことであることを認識させる。
	◎今日はジョーンズさんがどうすべきだったのかを、皆で話し合ってみたいと思います。		
	もし自分がジョーンズさんだったら、どうするか。		
	・ジョーンズさんはどうすべきだったのか、自分ならどうするかをワークシートに記入する。		・机間支援を行いワークシートへの記入を促す。
	・ワークシートに記入したことを発表する。	・やはり車を奪うしかない。 ・他の方法を探す。 ・近所中の他の車を探す。 ・友人、知人に電話する。 ・救急車到着まで待つ。	・各自の書き込みを基にして自由に発表させる。
	・他の人の発表に対する意見や質問を発表する。		・書き込んだことを発表するだけではなく、発表された意見や質問に対する考えも自由に発表するようにさせる。 ・生徒の討論の流れを大切にする。
終末 5分	本時の感想をワークシートに記入する。		・他の人の意見を聞いてどのように思ったか考えさせる。

5）ロングホームルーム（道徳Ⅰ）の研究授業についての効果と課題

≪効果≫

参観者 2：・・・(略)・・・なかなか生徒の発言しやすいような題材で、担任はしてないんですけども、もしもこういう授業があれば、こういった生徒が発言しやすいような題材で、ぜひやってみたいなという気持ちを受けた授業でした。
　いろんな授業もあったと思うんですけども、何かしら生徒は、そういう題材を与えられれば、気持ちを持っていると思うのですが、いろんな意見が出たことで、授業の価値はあったのではないかと思います。

道徳の授業をどのように実施したらよいか。このことは、高等学校には「道徳の時間」がないため、ほとんどの高等学校の教師に共通する疑問であろう。今回の公開研究授業は、高等学校において実際に道徳の授業を実践し示した点で価値があったと考える。特に、参観した教師に、ぜひやってみたいという気持ちを起こさせたことは評価できる点である。

道徳授業と言えば、読み物資料を使い、登場人物、特に多くの場合主人公の気持ちを問うていく、というスタイルが主流であった。こういった授業スタイルは、「道徳的心情」を育もうと意図したものである。

今回の授業は、道徳的心情にとどまらず。「思考力」にまでつなげることを意図し、モラルジレンマのアプローチを試みた授業となっている。

≪課題≫

参観者 1：話し合いのことで、この授業、もし、やったとして、多分、お父さんが子どもを救けたいというのが大部分になっちゃうと思うんです。話し合いをするということは相手側がいるので、最初から 2 つに分けてしまう、あるいはいくつかのグループに分けて、グループごとに会話させる、そういう形にすると、話し合いであったり、意見であったり、それからジレンマであったり、ということが改善すると思います。

主人公である父親のジョーンズさんは車を奪うべきか（生命尊重、家族愛）、車を奪うべきではないか（法律遵守、他者の所有権の尊重）の道徳的葛藤の中で、車を奪うという行為を選択する。この行為に賛成（盗むべき）か、反対（盗むべきではない）かについて考え、自分の意見を発表し、さらに他の生徒の意見を聞くことによって、人間尊重の精神の在り方を探る。その過程でより高次の道徳的思考に気づき、道徳的判断力を養うことを目指したのがこの授業のねらいと考えられる。

しかし、巻末の授業記録からわかるように、従来の登場人物の心情を問う授業スタイルに近いものになっている。主人公の車を奪うという行為について考えさせる前に、「人間の生命」、「家族愛」、「法律」、「権利と義務」等の視点を提示しておくという方法もあったのではないかと考えられる。そうすれば、生徒一人一人にジレンマを理解させ、ジレンマに対する自己の考えを持たせることができたものと考える。

また、資料を読む際、生徒に、ジョーンズ（父親）や運転手の役割を限定して読むように指示すると、多くの立場への役割取得が促されるものと考えられる。

道 徳 学 習 指 導 案

日　時　平成 20 年 11 月 28 日（金）第 5 校時
学　級　電気科　３年生（40 名）
指導者　上野　安正

1　主題名　　かけがいのない命　《崇高な生き方》

2　資料名　　余命　ゼロ　いのちのメッセージ　出典「そんな軽い命なら私にください」
渡部　成俊（出版社名大和書房参考）

3　主題設定の理由

（1）ねらいとする価値観

中学校学習指導要領における道徳の内容項目 3 －（2）の「生命の尊さを深く理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」の学習をとおして、生徒が自分の生き方を自ら見つけられるようにするためには、生徒が自らの在り方生き方を見いだし、将来の展望を拓くことのできる力を育てる必要がある。本校では、卒業後約７割の生徒が就職するため、人生の方向性を示せる機会は今しかないと考え、崇高な生き方について指導したいと考えた。そのためにも、心に響き、心の深奥に触れるようなきっかけとなる本テーマを設定した。

（2）生徒観

本校生徒の意識に関するアンケートから判ることは、問題点として、生徒が将来に向けて自分の生き方が明確になっていないのではないかということである。そのため、生徒たちは価値観が多様化・複雑化する中、いろいろな場面で行動や生き方の選択を迫られているが、その選択の確たる判断基準や指針がもてず、在り方すら不確かな状態であると考えられる。

具体的には、課題研究や資格指導等において、これまでなら目標を達成する為に努力を惜しまない積極性や生徒自らが自身の将来に対する目標や向上心が見えたが、最近では、目標の実現に向けて努力する事や辛くても価値のあるものに対して頑張るといった姿が見られない。

今回の授業をとおして、今一度自分の行動を振り返り、多くの人との関わりや一生懸命に生きることの大切さを気づかせたい。

（3）資料観

本資料は、ひたすら誠実に生きてきた主人公が余命一年半の宣告を受け、一時は投げやりな気持ちになるものの、周囲の人々の思いを真摯に受け止め、自らの体験を語り、生命の大切さを訴えるために地域の子供達に講演することを決意する主人公の生き方を描いたものである。

4　本時のねらい

人の弱さや命のありがたさを感じ取らせ、どのような状況においても、ひたすら誠実に前向きに最後の最後まで力強く生きることを尊重しようとする心情を育てる。

5　準　備

ＣＤ、資料プリント、フラッシュカード、ワークシート

※本研究授業を実施するに当たって、本研究の連携校である小松市立御幸中学校の桶川先生・武部先生に指導案の作成や板書計画等細部にわたって指導をいただいた。

6展開

	授業の流れ・発問	予想される生徒の反応	教師の支援・配慮事項
導入 （5 分）	現在の平均寿命をもとに、主人公について関心を持つ資料の概要を知る。	・平均寿命をもとに、余命について確認する	補助資料（平均寿命の紙帯）を活用し、主人公への関心を高める
展開 (40 分)	資料のもととなった主人公による講演 CD を聞く。	・主人公の置かれた状況を把握する。	印象に残った所を発表する 板書等を活用しながら、主人公の置かれた状況を押さえる。 話し合いの方向性・追求の視点を明確にしていく。
	・やっと少し先が見えた矢先 ・余命 1 年半を超えて、毎日死の淵を見つめながら暮　らしてしている。		
	○「こんなくそったれの人生ってありますか。」と言った気持ちはどんなだろうか。	・長い間ずっと頑張ってきてこれからだというのに悔しい。 ・もうどうにでもなれ。	60 年間の人生の内、50 年間働き通してきた主人公が余命宣告を受け、投げやりになる気持ちを共感的に捉えさせる。
	◎あなたが余命宣告を受けたらどうしますか？	・やけくそになる。 ・好きなことをする。 ・遊びまくる。 ・自殺するかもしれない。	現実には命の有限さのあることを意識させ、死が避けられない事態になった時の無力感や焦燥感を共感的に感じ取らせるだけでなく、人間の無限の可能性を気づかせる。
	担任の人生経験に基づく思いを語る。	・自分だけでは生きていけない。 ・これからは支えてあげる立場になりたい。 ・辛いことがあっても、全力で頑張る。	周囲の人に支えられている自分の命に気づき、人のために尽くしていこうという気持ちや精一杯生きることが価値のある生き方であることを感じ取らせたい。
終末 （5 分）	本時の感想をワークシートに書き、自己の変容や気づきについて問う。	・人は支え合って生きている ・命は自分だけのものではない。 ・精一杯生きることの尊さ。	人との関わり合いや精一杯生きることの尊さを感じ取ることができたか。

6）ロングホームルーム（道徳Ⅱ）の研究授業についての効果と課題

≪効果≫

参観者 6：方法のとこでも、少し思ったんですけど、CD とそれから先生の体験談の話で、CD だけだと、多分どこのおっさんが言うとれんろという形で、まぁ、ちょっとした何スター気取りで言っとるんだという話も僕も少しは感じたし、生徒たちも素直に言っていました。先生はそれを全く否定をせず、まぁ一応受け入れてという形で、その後体験談で、やっぱり、日々生徒たちのことを思って指導されている上野先生の口から出されたその内容は、生徒たちは、CD も迫力あって良かったし、でも上野先生を信頼している生徒たち、その先生が言葉にすることを織り交ぜた形でなされた構成というのは、良かったんではなかったかと思います。

道徳の授業には様々なアプローチがある。そして多様な能力を育てることを目的として、多様な指導法が思考・検討され実践されている。しかし、道徳の授業の中心的な役割は、道徳的心情を育てることにあることは変わらない。

この授業のように、「これでもか」というくらいに思いのこもった感動資料を使い、しかも指導者自身がこれまで生きてきた中での「想い」を伝える授業、授業を行う教師が一人の人間である以上、「教師自身の想い」を全身全霊で伝える授業に勝るものはないと考える。

≪課題≫

参観者 4：授業の展開からいきますと、もう少しいろんな生徒たちの意見、それから黒板に板書されましたけども、それ以外の意見が無かったのかなというところが、もう少し聞きたかったところです。

最後の方で体験談ということで、・・・（略）・・・、話されたんですが、もう少し客観的な事実だけで、自分の意見が少し長すぎて、坊さんみたいな話になっていたのかなという気がしたので、もう少し客観的にお話しされても良かったのかなというところと、やっぱりもう少し生徒の意見がたくさんくみ取って欲しかったなというところが感想です。

「もう少し生徒の意見をたくさんくみ取って欲しかった」という意見であるが、巻末の授業記録を見ると、１０名の生徒から意見を聞いていることがわかる。極端に少ない数ではない。なぜ参観者には少ないと感じたのか。以下の感想からその原因を推察することができる。

参観者 5：最初のとこで、周囲の人のことを考えていない、て彼言ったんですね。私は、あれ、思ったんですけど、あれからもう少しいろんな考え方発展して、いろんな考え方、わいわい出てもいいんではと思ったんです。

参観者 7：それで、すぐに否定されずに、受け止めてと先生が仰ったんですけど、他の子がどんなふうに思ったのか、ちょっと聞いてみたかったと思いました。そんな意見出たけど、どうや、皆と同じこと思ったかって、ちょっと聞いてみると、そこまで強くは思わんけど、ちょっと思ったとか、何か、そういったことを聞けたのかなぁと思ったのと、・・・（略）・・・。

生徒から出てきた意見を板書するだけではなく、全体に投げかけ、さらにいろいろな意見や思いを聞くといった授業手法を取り入れる等の工夫が求められる。また、主人公の思いだけでなく、主人公の奥さんの思いなどへの問いかけがあってもよかったと考える。

本授業は、どちらかいうと教師主導型のアプローチ手法をとっているが、もっと生徒自身に考えさせたり、感じたり、自分の考え方や感じ方を皆で味わい分かち合ったり、といった体験を取り入れることもできたかもしれない。

さらに、５０分の授業の中で、ＣＤを聞いていた時間が１２分、後半指導者自身の想いを語っていた時間が１１分あり、その分授業全体の中で生徒の意見を聞く時間が短いと感じたことが影響しているのではないかと推察される。

さらに、参観者 4 の意見の中段に、「坊さんみたいな話になっていたのかなという気がした」とある。効果のところで述べた「教師自身の想い」が、聞き手にとっては逆に説教臭いと感じたということであろう。しかし、事実だけを客観的に述べただけでは、「教師自身の想い」を語ることにはならない。やはり、分量、割合の問題と考える。過ぎたるはなお及ばざるが如しということであろう。

参観者 7：今まで、この題材の小学校、中学校の授業を見させていただいたんですけど、今日は、高校なんで、高校で道徳の授業をどうやってやられるのかなって興味深く見させていただきました。今日、見せていただいて、さすが高校生やなと、あの CD を聞いて、小学生や中学生は、あのしゃべりにすごいなと普通思うけど、高校生はやっぱり、ちょっとウザイなって・・・、何言うとれんろなて、きっと聞くんやろなと私も思いながら聞いていました。そしたら、同じことを、今日こんなたくさんのお客さんがみえる中で、言えるということが、クラスの中にそんなこと言える雰囲気あるんやなということが思いました。

この意見は課題として述べたものではない。同じ道徳の題材を用いたとしても、小学生、中学生、高校生で、感じ方・捉え方が異なるということを言ったものである。生徒の発達段階を考慮した題材の選定、題材へのアプローチ手法等を考えなければならないということを示唆している。

高校生という時期は、進路選択、部活動での人間関係、恋愛体験など、善悪の判断で解決するよりも、自分が生きるうえで望ましい価値を選択する場面が多く、生きるうえで、今までの自分の生き方や人格すらも否定せざるを得ない場面もある。そしてそのなかで自分の生きる道を模索しなければならない時期である。

なお、発達段階を考慮した指導の適時性を考えるとき、二つの視点が求められる。一つは「継続性・発展性」であり、他の一つは「継続性・単独性」である。前者は、前から後へのつながりが明確である現象を指し、後者は、ある時期から突然にあるいは重点的に表れてくる現象である。こうした両面を意識して道徳教育を指導することが求められている。

３－６　職員研修

（１）　先進校視察

本研究を進めるにあたり、以下の先進校視察を行った。

1）平成１９年度

(a) 小松市立御幸中学校研究授業（要請訪問）

日時：平成 19 年 11 月 26 日(月)

特色：　「道徳の時間」を参観し、研究協議に参加

(b) 広島県立松永高等学校

日時：平成 19 年 12 月 3 日(月)

特色：平成 16・17 年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 研究課題・実施校

・道徳の観点「道徳性育成の視点」を指導案およびシラバスに追加

・全職員が道徳教育全体計画のどの部分を担当しているかを自覚

・児童生徒の心に響く道徳教育推進事業報告書の提供を受ける

(c) 広島県立可部高等学校

日時：平成 19 年 12 月 4 日(火)

特色：平成 18・19 年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 研究課題・実施校

・道徳教育推進事業年間計画の作成

・道徳教育指導者養成研修（九州ブロック）資料の提供を受ける

・道徳教育推進事業公開研究授業・講演会資料の提供を受ける

(d) 東京工業大学附属科学技術高等学校

日時：平成 20 年 2 月 21 日（木）

特色：高校生向け情報モラル教育カリキュラムを開発し、学校設定科目「人と技術」の 1 テーマとして実践している

・中学校までの道徳教育の延長として技術者モラルを指導

・研究方略全般について指導を受ける

(e) 茨城県立水戸工業高等学校

日時：平成 20 年 2 月 22 日（金）

特色：茨城県では平成 19 年度から「道徳」を必修化

・道徳は教育の要という姿勢を示すには、学校を挙げての取組が不可欠

・教科に特化しない道徳教育を目指す

・「ともに歩む」および道徳教育指導資料の提供を受ける

2）平成２０年度

(a) 小松市立御幸中学校 第 1 回道徳教育講習会

日時：平成 20 年 6 月 4 日(水)

特色：「道徳の時間」の公開研究授業および文科省永田繁雄教科調査官による講演

・各学年 3 クラスでの公開授業を参観

・講演題目「これからの道徳教育のあり方」

(b) 上越教育大学 生徒指導総合講座に林 泰成教授を訪ねる

日時：平成 20 年 10 月 9 日(木)

特色：道徳教育が専門分野、モラルジレンマ授業の研究、モラル・スキル・トレーニングのプログラム開発など取り組んでいる

・道徳授業の方法、モラルジレンマ授業、モラル・スキル・トレーニング

について指導を受ける

(c) 上越教育大学附属中学校 2008 年研究協議会

日時：平成 20 年 10 月 10 日(金)

特色：「社会に広がる学びの創造」　＜第２年次＞

・公開授業Ⅰ参観 総合的な学習の時間　単元「情報のよき発信者として」

・公開授業Ⅱ参観 人生ゼミ　単元「ＭｏＳＴ 若者言葉を考えよう」

（２） 道徳だよりの発行

「いしかわ教育ウィーク」における公開授業、①「道徳性育成の視点」を盛り込んだ教科・科目の授業、②ロングホームルームを活用した「道徳の時間」の実施に向けて、道徳に関する知識や道徳の授業の実施に当たって参考になると思われる事項について「たより」の形式で発行した。

第 1 号（平成 20 年 9 月 22 日）魅力的で多様な「在り方生き方」の授業を構想しよう
第 2 号（平成 20 年 9 月 29 日）「人間としての在り方生き方」に関する教育とは・・
第 3 号（平成 20 年 10 月 1 日）「道徳教育」の目標・・・、「道徳性」とは・・・
第 4 号（平成 20 年 10 月 6 日）魅力的で多様な「道徳」の授業を構想しよう　1
第 5 号（平成 20 年 10 月 8 日）「在り方生き方」教育の方法
第 6 号（平成 20 年 10 月 10 日）魅力的で多様な「道徳」の授業を構想しよう　2
第 7 号（平成 20 年 10 月 14 日）「いい話」は「きれいごと」？
第 8 号（平成 20 年 10 月 16 日）魅力的で多様な「道徳」の授業を構想しよう　3
第 9 号（平成 20 年 10 月 17 日）在り方生き方教育と道徳の内容項目
第 10 号（平成 20 年 10 月 20 日）道徳の時間で陥りがちな発問での問題と改善の着眼点
第 11 号（平成 20 年 10 月 22 日）生徒の道徳性を育成するために
第 12 号（平成 20 年 10 月 24 日）在り方生き方教育を評価するには？

（３） 高等学校特別活動研究協議会伝達講習

平成２０年１０月の職員会議の後、参加者より協議会の内容（高等学校における道徳教育）について伝達講習を行った。

（４） 技術者倫理講演会

平成２０年１１月に、本研究事業にかかる研究発表会を開催した。その際、「人間形成教育の展開」という演題で、金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所長　札野 順 教授に、①なぜ、いま、技術者倫理教育なのか、②技術者倫理教育の新しい流れ、③金沢工業大学における取り組み、の 3 点について講演していただいた。講演内容は、資料5(P113 ～ P125)に記載する。

講演の内容で、高等学校の道徳教育に参考となると思われる個所を以下に記す。

> 我々がやっていることは教育課程全体を通じて各科単独の教科でやるのではなく、技術者の立場や技術者としての価値判断力が必要だということを教えようとしています。Across the Curriculum モデルとは Across の前に何を付けても構いません。Communication でも構わないし、どの教育課程でも構いません。本校が最も大事だと思っていることをすべての科目を通じて教えるということです。

金沢工業大学では、全学必修科目「科学技術者倫理」を中心として、教育課程全体をとおした倫理教育（Ethics across the curriculum）プログラムを実践している。

これを高等学校の道徳教育に当てはまるならば、特定の学科や教科・科目で道徳教育を行うのではなく、すべての教育活動を通じて指導するということになる。

カリキュラム全体をとおしてどうやって倫理を教えていくのかということですが、技術工学の専門の先生方・教員に聞きますと、倫理の教え方なんて倫理の専門家じゃないのでそんなものは教えられませんという方が多いんです。でも我々のようないわゆるエンジニアではないんですが、「倫理が大事だ大事だ」と言っても、将来エンジニアになろうとしている学生諸君には通じないんです。通じることもありますが、インパクトとしてはそれほど強くありません。それよりも自分が将来こうなりたいと思っている専門の教員が「倫理は大事なんだ」「倫理的に考えるというのはこんなことなんだよ」と自分の専攻科目の中で展開していただければ、これほど教育らしいことはありません。それをどういうふうにやっていくかというと、我々は通常専門の先生方に何時間もかけて倫理や社会について教えてくれという要求は当然いたしません。もう既にカリキュラムは一杯だし、そんなことはできません。そうではなくて、自分が教えている専門科目のほんの一部に倫理的な要素を取り入れる、あるいは社会的な文脈を与える、そうすることによって通常の専門倫理の問題がそういうことを繰り返すことによって、技術者が重視すべき価値、例えば安全第一だという価値を理解できることになるのです。

技術者倫理を教えるには、各技術分野の専門家である専門分野の教官が指導する方が、学生に強いインパクトを与えることができる。しかし、専門分野の教官はそれぞれの分野を教えるだけで手いっぱいな状況であるから、それぞれの専門科目の一部に倫理的な要素を織り込んだ指導（マイクロインサーション（Micro-Insertion））をお願いしている。

これを高等学校の道徳教育に当てはまるならば、各教科・科目の指導の中に道徳の要素を織り込んだ授業を行うということになる。

そういう取組の中核として存在する組織は普通こういうことをやろうとした時に、特に本学のように 14 学科もある場合は、全学的な展開をする時にいったいどんな役目を、どこがそのような教育の設計や開発を行うのかと言われますけど、その取組の中核として段取りの中核組織としての科学技術応用倫理研究所を 1997 年に作っております。

金沢工業大学では、技術者倫理教育の設計や開発を科学技術応用倫理研究所が担っている。

高等学校の場合、ロングホームルームで道徳の授業をし、各教科・科目の指導の中に道徳の要素を織り込んだ授業を行い、さらに道徳性の育成をねらった学校行事を実施する場合、どの部署が指導内容の調整を行うのか。単に、道徳教育全体計画の作成だけで解決できる問題ではないように感じる。学校における道徳教育のすべてを網羅した年間指導計画の作成が不可欠と考える。

３－７　道徳性に関する意識調査

調査アンケートの作成にあたり、高等学校道徳教育指導資料（茨城県教育委員会）の中にある「『道徳の内容』の学年段階・学校段階の一覧表」に記載されている２３の内容項目を参考にした。アンケートは平成２０年度の４月末と１１月末の２回にわたり全校生徒を対象に、生徒における道徳性の実態把握と各種取り組みによる変容を見ることを目的として実施した。このアンケートで生徒の道徳性を完全に把握することは難しいであろうが、

今後、道徳教育を実践する際の参考になると考える。

（1） 調査のねらい

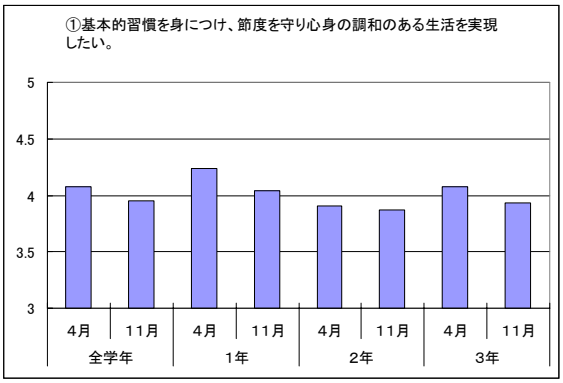
1) 生徒の道徳性の診断と評価をねらいとし、本校の生徒に欠けている道徳性を明らかにする。
2) 生徒の道徳性に対する考えが変容したかをみる。
3) 生徒の在り方生き方（特に進路）に対する意識などを知る。

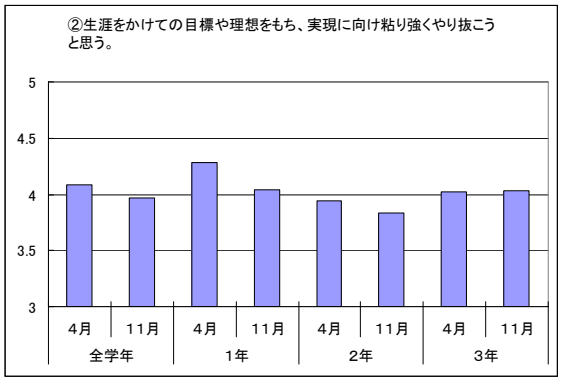
（2） アンケート結果の概要

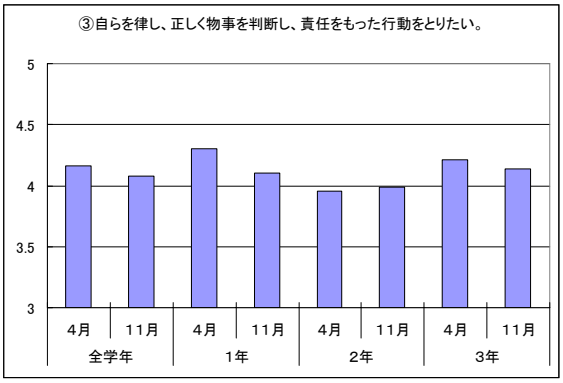
調査結果の数値化については、全くそう思う…５、どちらかといえば、そう思う…４、どちらかといえば、どちらともいえない…３、どちらかといえば、そう思わない…２、全くそう思わない…１で集計した。

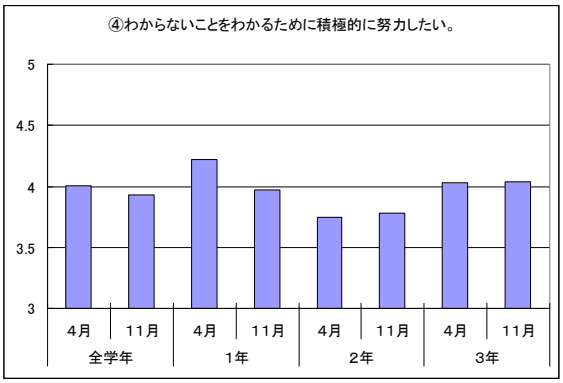
1) 各内容項目について

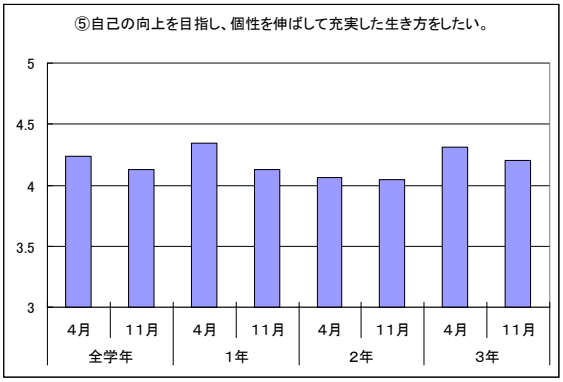
【自分自身に関すること】



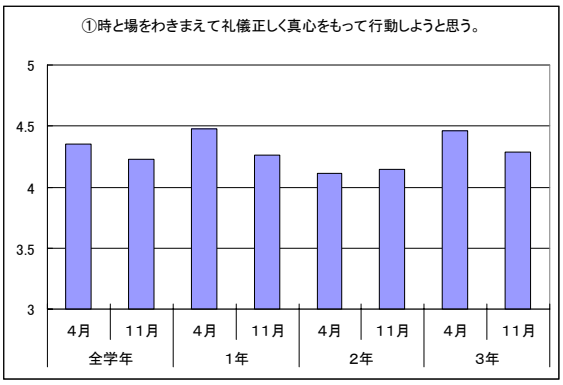


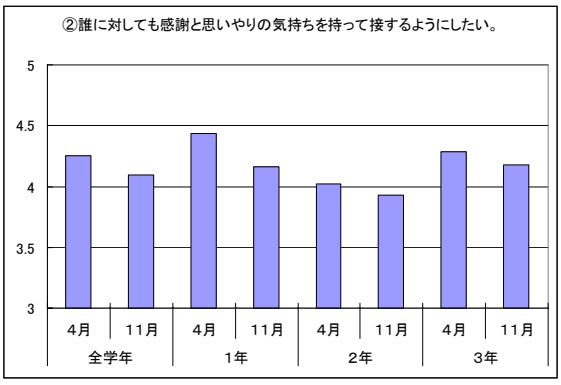


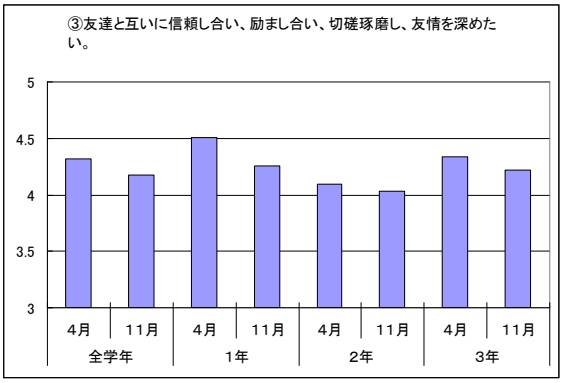


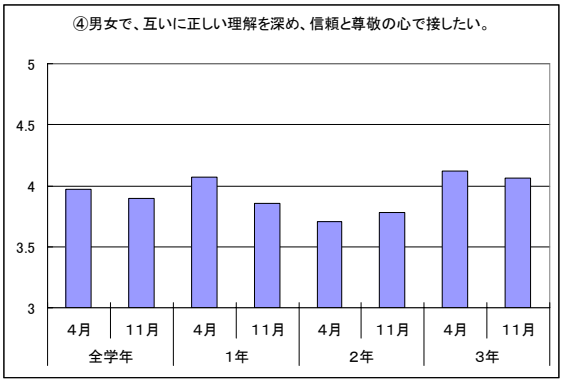


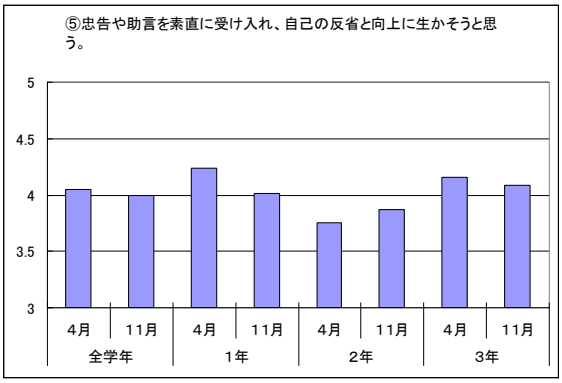
【他の人とのかかわりに関すること】



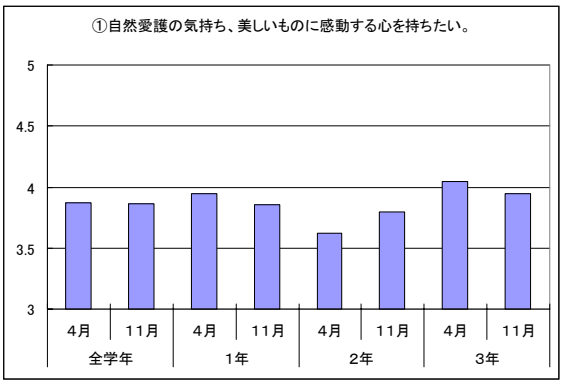


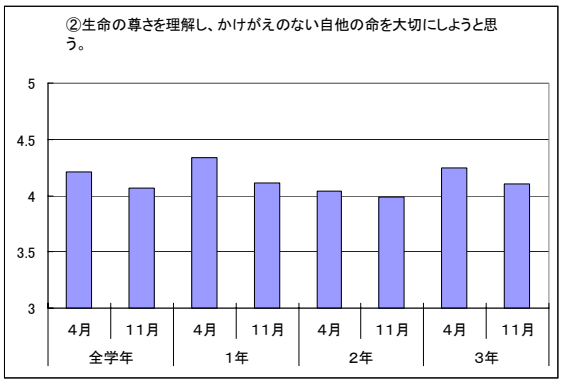


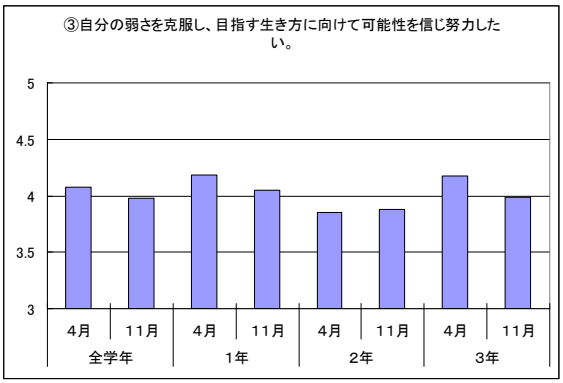




【自然や崇高なものとのかかわりに関すること】

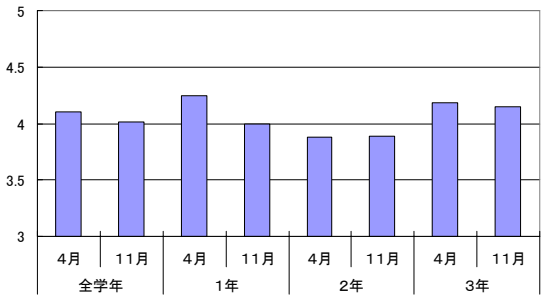




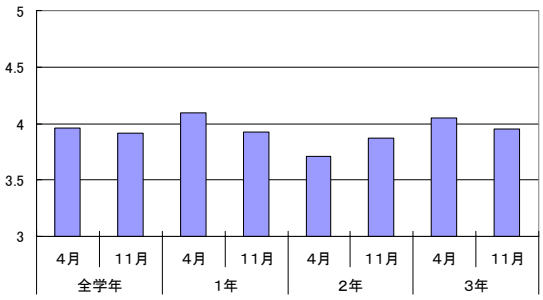


【集団や社会とのかかわりに関すること】

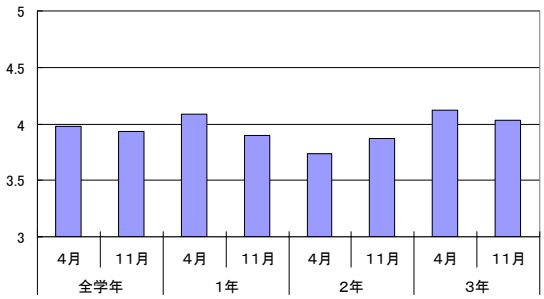
①集団の意義を理解し、役割と責任を自覚し、他者との協力関係の向上に努めようと思う。



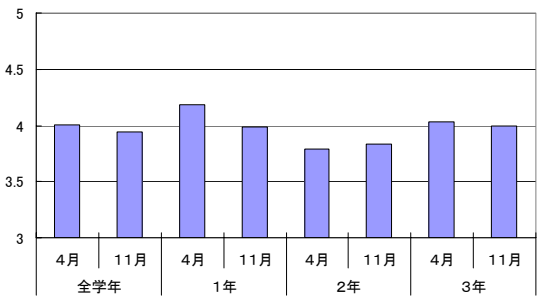
②法律や規則の意義を理解し、他人の権利を尊重し自己の権利を正しく主張し、課せられた義務を確実に果たそうと思う。



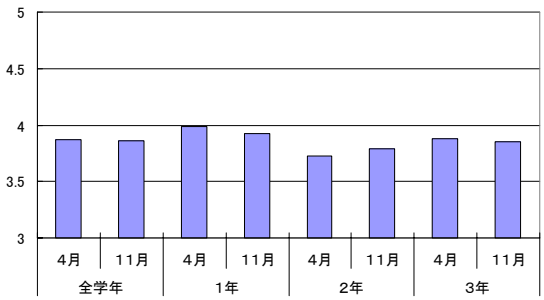
③社会の一員との自覚のもと、互いに協力しよりよい社会の実現に努めたい。



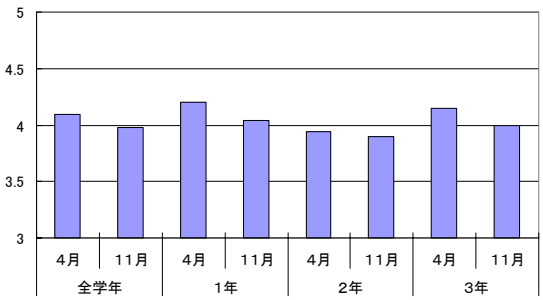
④正義を重んじ、誰に対しても公正・公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に目を向けたい。



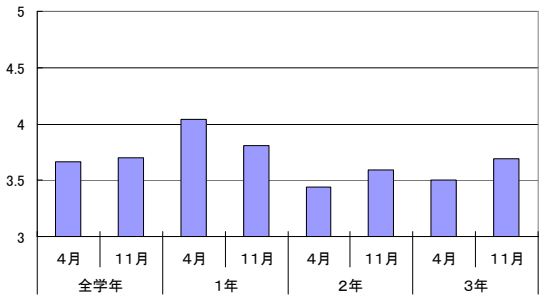
⑤勤労の意義や尊さを理解し、奉仕の精神を持って社会に貢献したい。



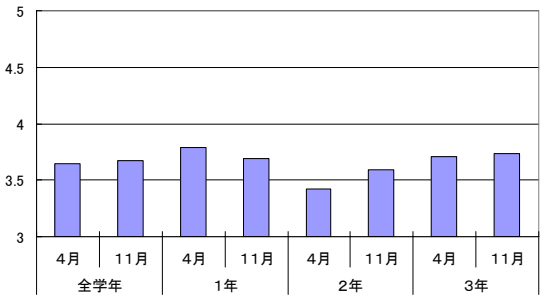
⑥父母や祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役立つことをしたい。

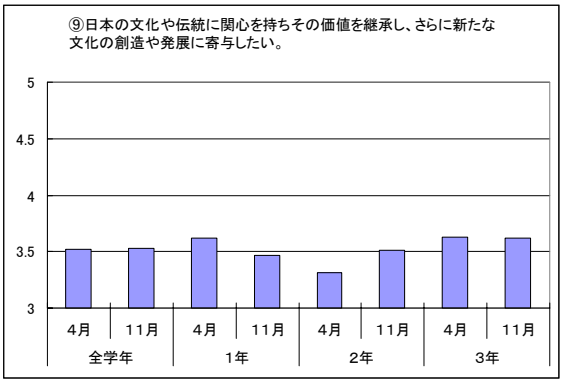


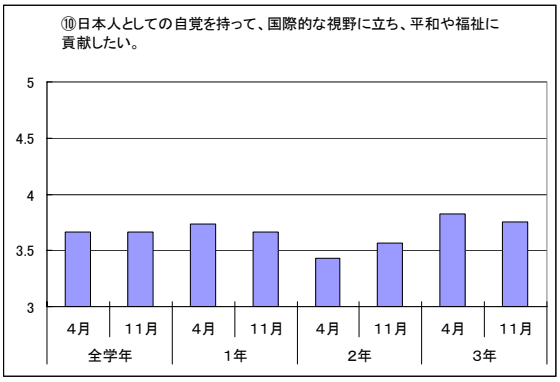
⑦先生や学校に関わる人々に尊敬と感謝の念を深め、みんなで協力しよりよい校風をつくりたい。



⑧郷土の文化や伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛しその発展に努めたい。







４つの視点に共通して以下の傾向を見て取ることができる。

・４月に比べて１１月の値が低下している。つまり、時間の経過とともに各道徳性の内容項目に当てはまると答える生徒の数が減少している。

・学年間で比較すると、各道徳性の内容項目に当てはまると答えた生徒は、１年生が最も多く、２年生で急激に減少し、３年生でやや回復している。

本校生徒において、この傾向は学習成績等いろいろな面で共通する傾向である。各方面とも入学時において最も意識が高く、時間の経過とともに意識が低下するが、３年次１学期から２学期初めに掛けて、自らの進路決定という目標達成に向けた向上心等の意識の高揚が表れることに起因しているものと推察される。

上記のように、１年次の４月から１１月さらに２年次の４月にかけての各道徳の内容項目に対する意識の低下を学習意欲等の低下と同様に見ることもできる。しかし、高等学校に入学し中学のときとは異なり「道徳の時間」が無くなった影響と捉えることもできる。中学校における「道徳の時間」との連続性を考慮し、高等学校の第１学年から「道徳」を履修させれば、各道徳項目に対する意識の低下を防ぐことができ、高校生としての高い自覚と目的意識を持たせることによって、学習意欲を引き出し、主体的に学ぼうとする意欲を養うことができるとも考えられる。今後の詳細な調査が待たれるところである。

次に、２年次の１１月に４月よりも値の上昇した道徳性の内容項目に着目する。

Ⅰ-③自らを律し、正しく物事を判断し、責任をもった行動をとりたい。

Ⅰ-④わからないことをわかるために積極的に努力したい。

Ⅱ-①時と場をわきまえて礼儀正しく真心をもって行動しようと思う。

Ⅱ-④男女で、互いに正しい理解を深め、信頼と尊敬の心で接したい。

Ⅱ-⑤忠告や助言を素直に受け入れ、自己の反省と向上に生かそうと思う。

Ⅲ-①自然愛護の気持ち、美しいものに感動する心を持ちたい。

Ⅳ-②法律や規則の意義を理解し、他人の権利を尊重し自己の権利を正しく主張し、課せられた義務を確実に果たそうと思う。

Ⅳ-③社会の一員との自覚のもと、互いに協力しよりよい社会の実現に努めたい。

Ⅳ-④正義を重んじ、誰に対しても公正・公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に目を向けたい。

Ⅳ-⑤勤労の意義や尊さを理解し、奉仕の精神を持って社会に貢献したい。

Ⅳ-⑦先生や学校に関わる人々に尊敬と感謝の念を深め、みんなで協力しよりよい校風をつくりたい。

Ⅳ-⑧郷土の文化や伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛しその発展に努めたい。

Ⅳ-⑨日本の文化や伝統に関心を持ちその価値を継承し、さらに新たな文化の創造や発展に寄与したい。

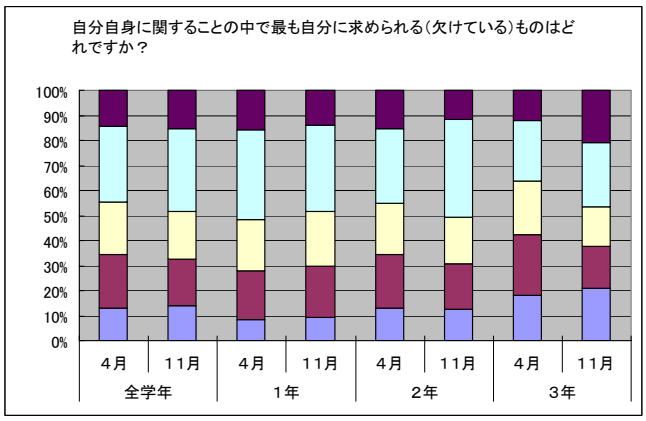
Ⅳ-⑩日本人としての自覚を持って、国際的な視野に立ち、平和や福祉に貢献したい。

以上の各項目のデータについて分散分析（1 要因被験者間）を行ったところ、Ⅲ-①、Ⅳ-②、Ⅳ-③、Ⅳ-⑧、Ⅳ-⑨の５項目について、４月と１１月の値の変化について有意傾向が認められた。

この間の２年次におけるインターンシップや修学旅行等の行事やロングホームにおける道徳や道徳性育成の視点を盛り込んだ授業の実施が、これら道徳性の内容項目に当てはまると答えた生徒の増加に結びついたものと推察できる。

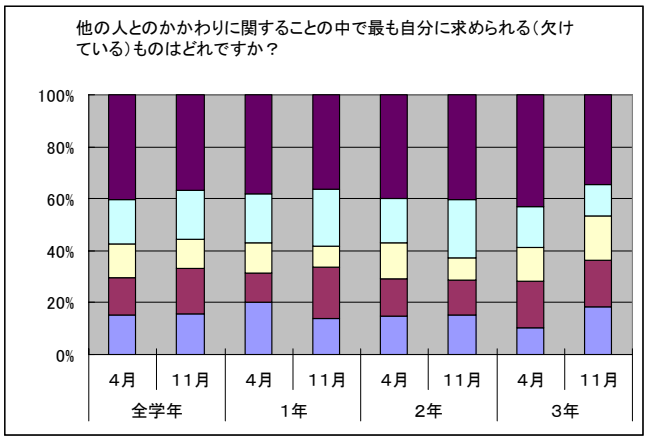
2）最も自分に求められる（欠けている）もの

【自分自身に関すること】



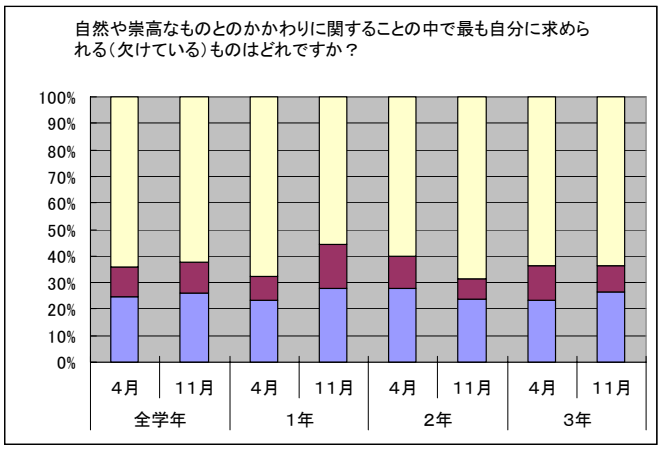
※ 各帯グラフの領域は下から順に、／①基本的習慣を身につけ、節度を守り心身の調和のある生活を実現したい。／②生涯をかけての目標や理想をもち、実現に向け粘り強くやり抜こうと思う。／③自らを律し、正しく物事を判断し、責任をもった行動をとりたい。／④わからないことをわかるために積極的に努力したい。／⑤自己の向上を目指し、個性を伸ばして充実した生き方をしたい。／の比率を表す。

【他の人とのかかわりに関すること】



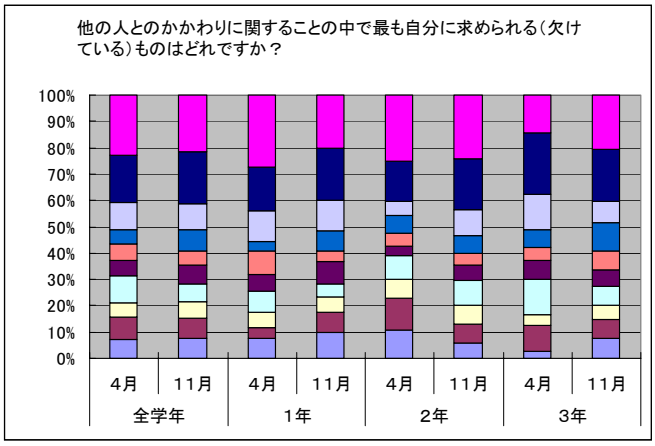
※ 各帯グラフの領域は下から順に、／①時と場をわきまえて礼儀正しく真心をもって行動しようと思う。／②誰に対しても感謝と思いやりの気持ちを持って接するようにしたい。／③友達と互いに信頼し合い、励まし合い、切磋琢磨し、友情を深めたい。／④男女で、互いに正しい理解を深め、信頼と尊敬の心で接したい。／⑤忠告や助言を素直に受け入れ、自己の反省と向上に生かそうと思う。／の比率を表す。

【自然や崇高なものとのかかわりに関すること】



※ 各帯グラフの領域は下から順に、／①自然愛護の気持ち、美しいものに感動する心を持ちたい。／②生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を大切にしようと思う。／③自分の弱さを克服し、目指す生き方に向けて可能性を信じ努力したい。／の比率を表す。

【集団や社会とのかかわりに関すること】



※ 各帯グラフの領域は下から順に、／①集団の意義を理解し、役割と責任を自覚し、他者との協力関係の向上に努めようと思う。／②法律や規則の意義を理解し、他人の権利を尊重し自己の権利を正しく主張し、課せられた義務を確実に果たそうと思う。／③社会の一員との自覚のもと、互いに協力しよりよい社会の実現に努めたい。／④正義を重んじ、誰に対しても公正・公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に目を向けたい。／⑤勤労の意義や尊さを理解し、奉仕の精神を持って社会に貢献したい。／⑥父母や祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役立つことをしたい。／⑦先生や学校に関わる人々に尊敬と感謝の念を深め、みんなで協力しよりよい校風をつくりたい。／⑧郷土の文化や伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛しその発展に努めたい。／⑨日本の文化や伝統に関心を持ちその価値を継承し、さらに新たな文化の創造や発展に寄与したい。／⑩日本人としての自覚を持って、国際的な視野に立ち、平和や福祉に貢献したい。／の比率を表す。

本校生徒が自ら欠けていると指摘した道徳性に関する項目の傾向は以下のとおりである。なお、４月調査と１１月調査との間で、顕著な変化は認められなかった。

【自分自身に関すること】

「④わからないことをわかるために積極的に努力したい」が最も欠けていると答えた生徒の比率が高い。しかし、３年生では比率の差が縮まっている。なお、この項目は前記の各内容項目についての調査においても他の内容項目よりも比較的低い値を示している。

【他の人とのかかわりに関すること】

「⑤忠告や助言を素直に受け入れ、自己の反省と向上に生かそうと思う」が最も欠けていると答えた生徒の比率が高い。この項目は前記の各内容項目についての調査においても他の内容項目よりも比較的低い値を示している。

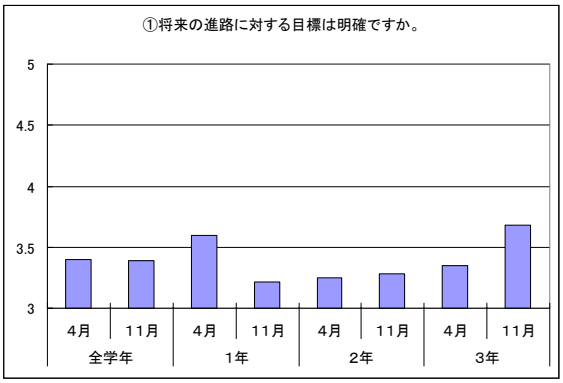
【自然や崇高なものとのかかわりに関すること】

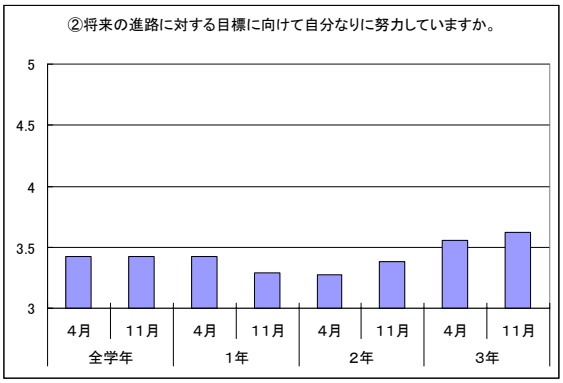
「③自分の弱さを克服し、目指す生き方に向けて可能性を信じ努力したい」が最も欠けていると答えた生徒の比率が極めて高い。しかし、前記の各内容項目についての調査においては他の２項目に比べて顕著な値の差は認められない。

【集団や社会とのかかわりに関すること】

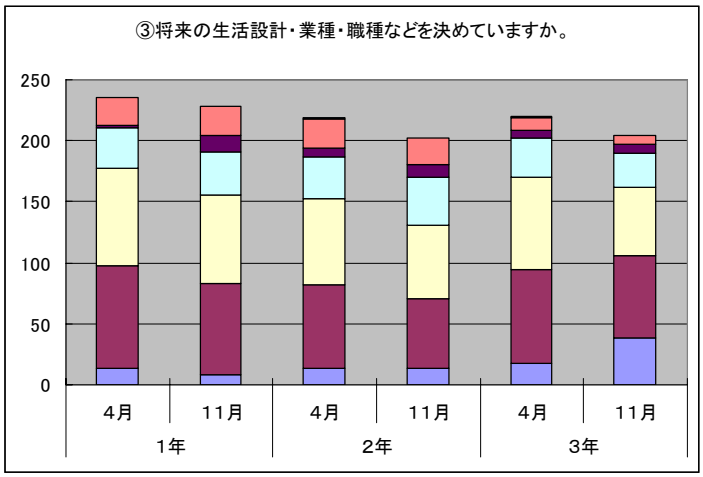
「⑨日本の文化や伝統に関心を持ちその価値を継承し、さらに新たな文化の創造や発展に寄与したい。」あるいは「⑩日本人としての自覚を持って、国際的な視野に立ち、平和や福祉に貢献したい。」が最も欠けていると答えた生徒の比率が高い。これら２項目は前記の各内容項目についての調査においても他の内容項目よりも低い値を示している。

3）進路について



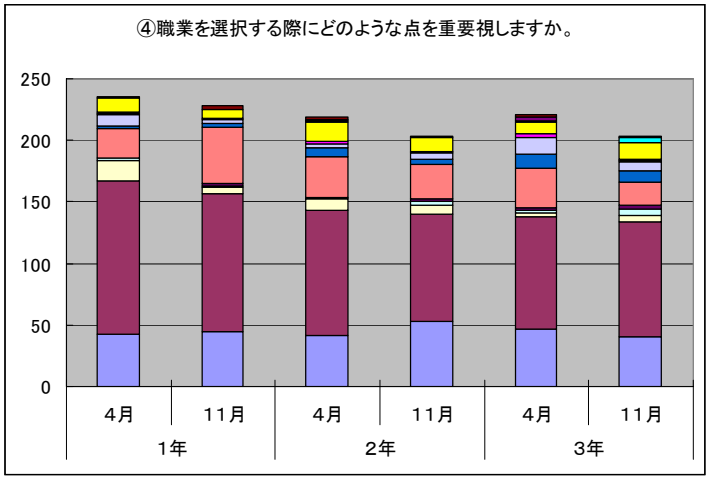


将来の進路に対する目標は３年生の１１月の時点が最も高い。これは自身の進路（就職先・進学先）が決定したことによるものと考えられる。また、１年次４月時点の値が高いことから、進路に対する明確な目的意識を持って本校へ入学していることが推察できる。さらに、上記２つのグラフの比較から、「目標の明確さ」と「努力」が相関していることが窺える。



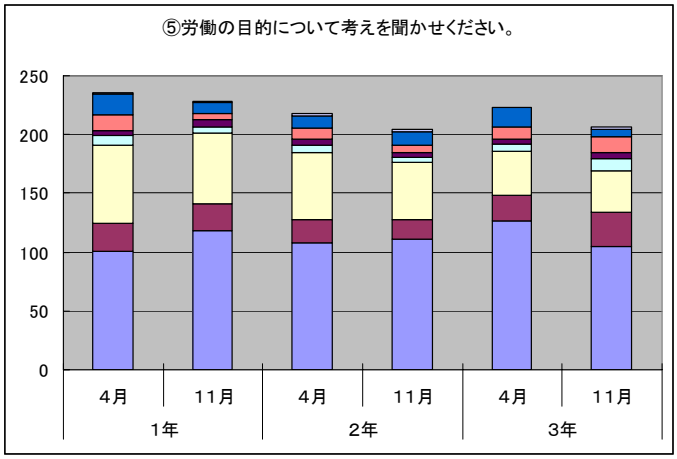
※ 各帯グラフの領域は下から順に、／1. はっきり決めている／2. ある程度決めている／ 3. はっきりしないがイメージはある／ 4. イメージは固まっていない／ 5. 全く決めていない／ 6. 先のことはわからない・考えていない／ 7. その他／の比率を表す。

この質問項目では、将来の生活設計・業種・職種などを「はっきり決めている」が３年次１１月時点で増加しているが、期待したほど回答者の比率は高くなかった。進路先は決まっても、仕事内容等が生徒にとって明確なものとなっていないことが窺える。



※ 各帯グラフの領域は下から順に、／1. 職種、仕事内容／2. やりがい、面白さ／ 3. 資格・スキルが生かせる／ 4. 勤務地・通勤ルート／ 5. 通勤時間／ 6. 給与・賃金／ 7. 職場の人間環境／ 8. 休日・休暇／ 9. 育児休業制度／ 10. 勤務時間／ 11. 会社の安定性／ 12. 会社の知名度／ 13. 雇用期間／ 14. その他／の比率を表す。

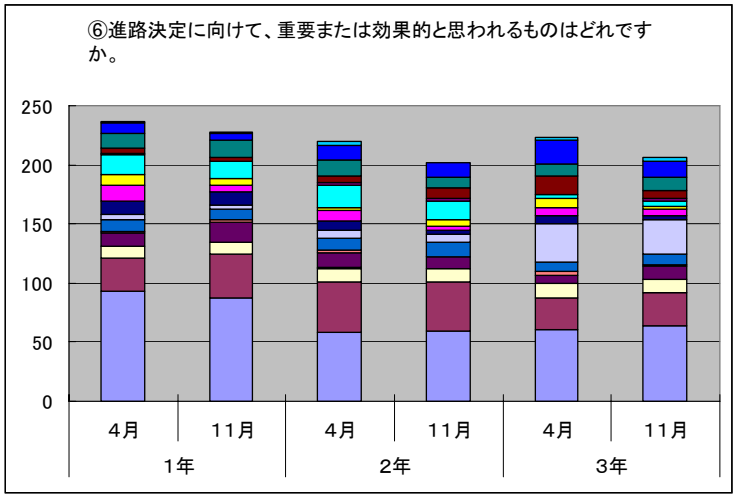
職業選択の際重視する項目として、「やりがい、面白さ」と答えた生徒が最も多かった。次に「職種、仕事内容」、「給与・賃金」、「勤務時間」の順であった。「給与・賃金」と答える生徒が意外に少ないように感じた。１年生では４月の時点に比べて１１月の時点の方が「給与・賃金」と答える生徒の割合が増えているが、２年生・３年生では１１月の時点の方が「給与・賃金」と答える生徒の割合が減少した。これは、インターンシップ学習やアルバイトなどを経験し、職業や働くということに対するイメージが変化したものと考えられる。



※ 各帯グラフの領域は下から順に、／1. お金、収入を得る「生活の基盤となるもの」／2. 自分自身を成長させる「自分を磨く、向上させるもの」／3. 生活を充実させる「喜び・いきがいを得るもの」／4. 自己を表現する「自分の存在意義を確認するもの」／5. 社会的に信用される「社会の一員と認知されるもの」／6. 社会に貢献する「社会人としての責任を果たすもの」／7. 人とつながる「新しい仲間、人と出会う場となるもの」／8. その他／の比率を表す。

職業選択の際重視する項目に対する場合と異なり、労働の目的について問うと、「お金、収入を得る」ためと答える生徒が最も多く、次に「生活を充実させる」、「自分自身を成長させる」の順であった。

本校生徒は、収入は労働の対価であると認識してはいるが、職業選択の際はお金よりも仕事内容ややりがいを重視する傾向が窺える。



※ 各帯グラフの領域は下から順に、／1. 工場・企業見学／2. 企業での勤労体験学習(ﾃﾞｭｱﾙ・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ・発表会)／3. 企業人による講話／4. ＰＴＡによる講話／5. ハローワーク・専門学校などによる職業紹介／6. 本校教師による説明会／7. インターネットなどによる調べ学習／8. 求人票の閲覧／9. 企業から提供された資料（パンフレット、ビデオ等）／10. 専門科目の授業／11. 職業適性検査（適職診断のためのテスト）／12. 資格・検定指導／13. 担任によるホームルーム指導／14. 担任との面談／15. 家族との会話／16. 知人・先輩との会話／17. その他／の比率を表す。

進路決定に向けて重要または効果的なものはとの質問に対して、全学年では「工場・企

業見学」と答えた生徒が最も多く、次に多かったのが「企業での勤労体験学習」であった。しかし、３年生に限定すると、「求人票の閲覧」が「企業での勤労体験学習」を上回った。

それぞれの学年において、生徒にインパクトのあった項目が他学年と比較して高い数値を示す傾向にある。１年生では「工場・企業見学」、２年生では「インターンシップ」、３年生では「求人票の閲覧」と答えた生徒の比率が他の学年より多いのはこのためと考えられる。

また１年生・２年生では「資格・検定指導」と答えた生徒の数が、「企業での勤労体験学習」と答えた生徒数の次に位置しているが、３年生になると「資格・検定指導」が急激に数を減らしているのが特徴的である。１・２年次に資格取得の大切さを強調したいろいろな指導を受けるが、３年次になって自身の進路決定の際、実際には進路決定にはそれほど重要ではないと感じていることが窺える。進路を決定するような資格を取得できていないとの思いが原因とも考えられる。

４　研究の評価

４－１　結果の成果

（１）　育成したい資質や能力の明確化

平成１９年度に本研究を開始する際、研究課題「工業高校としての専門教育・職業教育をとおして、人間としての在り方生き方を考える能力を育む教育課程および指導方法の研究」に基づいて、本校で育成したい資質や能力として、以下の３点を挙げた。

・産業人としての自己の役割を自覚する態度
・将来の生き方や進路を考え、計画を立て、実行する能力
・適切なコミュニケーションを図りながら、豊かな人間関係を築く能力

平成２０年度に道徳教育実践研究事業へ研究が引き継がれる際、研究課題が「人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育」となり、道徳教育が強調されることとなったため、この３点の資質や能力に関する妥当性の検証は省略した。

また、平成２０年度に道徳教育全体計画を作成した際、この育成したい資質や能力を踏まえて、以下に示す道徳教育の目標を設定した。

・社会に目を向け、地域の発展に貢献できる産業人としての自覚と目的意識を育てる。
・社会生活における自己の役割を自覚し、将来の生き方や職業を考え、自ら課題を見つけ責任をもって解決できる能力を養う。
・自己の進路の目標に向けて着実に努力を重ねていく能力を育てる。

（２）　前記資質・能力を把握する手立ての確立

1) 人と関わる力の育成

「人と関わる力の育成」を図るため、平成２０年度に新たに以下の取り組みを行った。なお、本校では、人と関わる力をコミュニケーション能力に置き換えて扱った。

・学校開放講座の補助員としての生徒の参加
・中学校への出前授業

学校開放講座の補助員としての生徒が参加したことは、生徒たちよりもはるかに年齢が上の受講生と接するという状況において、普段の生徒どうしあるいは家族との接し方とは異なり、他人に対する気配りの気持ちが出現が認められた。さらに、一段上の自分が、自分自身を冷静に客観的に見て判断する態度、つまり「高次の自己」の出現が認められた。

中学校への出前授業では、「教える」といった通常とは逆の立場を経験することにより、自分とは逆の立場の人に対する思いを巡らすことができた。また、その立場の人が感じているであろう大変さに気づくことにより、生徒に感謝の気持ちが生まれた。

感想文のキーワード分析によると、コミュニケーション能力に対する生徒の意識は、中学校への出前授業では認められなかったが、学校開放講座、インターンシップ学習およびデュアルシステムで認められた。

2) アンケートの実施

道徳性に関する意識調査アンケートを作成し、全校生徒を対象として、平成２０年度の４月と１１月に実施した。

道徳の４つの視点に共通して以下の傾向が明らかになった。

・４月に比べて１１月の値が低下している。つまり、時間の経過とともに各道徳性の内容項目に当てはまると答える生徒の数が減少している。

・学年間で比較すると、各道徳性の内容項目に当てはまると答えた生徒は、１年生が最も多く、２年生で急激に減少し、３年生でやや回復している。

このことは、中学校における「道徳の時間」との連続性を考慮し、高等学校の第１学年から「道徳」を履修させれば、各道徳項目に対する１年次から２年次に掛けての意識の低下を防ぐことができる可能性を示唆している。さらに、「道徳」の履修を通じて高校生としての高い自覚と目的意識を持たせることによって、学習意欲を引き出し、主体的に学ぼうとする意欲を養うといった可能性も期待できる。

また、本校生徒が自ら欠けていると指摘した道徳性に関する項目の傾向は以下のとおりであった。なお、４月調査と１１月調査との間で、顕著な変化は認められなかった。

【自分自身に関すること】･･･「④わからないことをわかるために積極的に努力したい」

【他の人とのかかわりに関すること】･･･「⑤忠告や助言を素直に受け入れ、自己の反省と向上に生かそうと思う」

【自然や崇高なものとのかかわりに関すること】･･･「③自分の弱さを克服し、目指す生き方に向けて可能性を信じ努力したい」

【集団や社会とのかかわりに関すること】･･･「⑨日本の文化や伝統に関心を持ちその価値を継承し、さらに新たな文化の創造や発展に寄与したい。」あるいは「⑩日本人としての自覚を持って、国際的な視野に立ち、平和や福祉に貢献したい。」

（３） 指導方法等の開発と実践

学校行事をとおした実践として、以下の事業を実施した。

・ボランティア遠足
・ボランティア清掃
・ＰＴＡ･生徒の本音で語る会
・外部講師事業（いのちと心の教育）

教科学習をとおした実践として、以下の事業を実施した。

・インターンシップ学習
・デュアルシステム
・外部講師事業（工業科）
・学校開放講座
・小・中学校との連携事業

道徳教育に関連して、以下の実践を行った。

・「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の公開授業
・ロングホームルームを活用した「道徳の時間」の公開授業

成果は、「３ 主な取り組み内容」に記す。

４－２ 今後の課題

（１） 中学校との連携

平成１９年度の第２回研究協議会において、平成２０年度の研究の方向性として、中学校・高校の関連性（接続）について検討を加えるよう指示があり、２パターンが提示された。小松地区では、１９年度と同様「中学校、高校がそれぞれ独自にテーマを持って『在り方生き方』の研究を進める」パターンで実施することとなった。

そんな中、中学校の「道徳」の授業見学を引き受けていただいたり、「道徳」の公開授業に対するアドバイスをいただいたり、出前授業の機会と場所を提供いただいたり、と支援をいただくばかりで、高校から中学校へ提供するものがほとんど無かったように感じる。

中学校との連携事業という貴重な機会を充分に生かせなかったことが悔やまれる。

（２） アンケート調査

道徳性に関するアンケートを実施し、本校生徒の道徳性に関する意識を把握できたが、残念ながら当初目的とした「育成したい資質や能力」を測定するアンケートの作成およびその調査を実施できなかった。今後引き続き検討を行い、資質や能力の変容を捉える手法の開発を図っていきたい。

５　まとめ

本校では、研究テーマ「職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育」を、いかにして高等学校、特に職業高校において、道徳教育に取り組むかという課題として捉え、２年間実践研究を行ってきた。

職業教育とは、将来の職業を自らの意志と責任で選択できるよう、働くことの意義を理解させたうえで、専門的な知識・技能を習得させていく教育である。

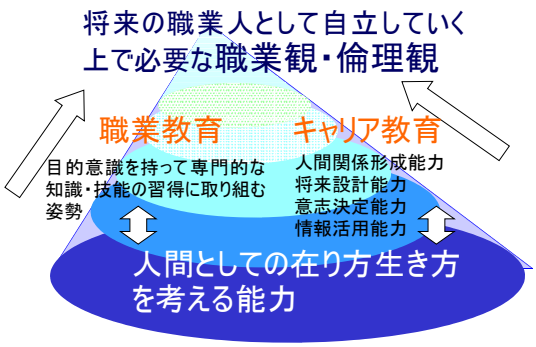
哲学者オイゲン・フィンク（1905-1975）は、「『働くこと』は、いわば、どこまでもつづく『死からの逃避』である。ひとは、自己の生命を保持するために働くのである。」という言葉を残している。ひとは、そもそも生きるために働く。働くことの目的は、「生きること」であるといえる。では、なぜそもそも「生き」ねばならないのか。職業教育の根本に、人間としての在り方生き方に関する考え方の必要性が示唆される。

また、生徒の将来の生き方を考えさせる際、職業教育をとおして社会のなかで自己の在り方生き方を具体的な職業生活と関連させて支援することにより、勤労観・職業観を育成する教育の充実が期待できる。

勤労観・・・日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度、および役割を果たす意味やその内容についての考え方。

職業観・・・職業についての理解や考え方と職業に就こうとする態度、および職業をとおして果たそうとする役割の意味やその内容についての考え方。

本実践研究を通じて、図に示すように、職業高校において「将来の職業人として自立していく上で必要な職業観・倫理観」を育成する際、その基礎・基本に「人間としての在り方生き方を考える能力」育成の必要性が示唆され、相互の関連性がイメージされるようになった。さらに、アンケート調査によって、本校生徒の道徳性に関する意識傾向を把握できたことの意義は大きい。



今回、文部科学省の委嘱を受け、本校の全教職員が一丸となり、「職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育」を研究テーマに実践研究に取り組んだことは、今後の本校教育を考える上での起爆剤となったことと確信する。

資料

資料１　平成２０年度道徳教育全体計画・・・・・・・・・・・・・　66

資料２　「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表・・・・　67

資料３　ＬＨＲを活用した「道徳の時間」の指導事例・・・・・　69

資料４　公開研究授業発話記録・・・・・・・・・・・・・・・・・　84

「保健」（単元：社会生活と健康）・・・・・・・・・・・・　84

「ＬＨＲ」（人間尊重の精神《生命尊重・法やきまり》）・　95

「ＬＨＲ」（かけがいのない命《崇高な生き方》）・・・・　104

資料５　講演会記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　113

資料６　平成２０年度道徳教育年間指導計画・・・・・・・・・・・　126

資料１

平成２０年度道徳教育全体計画

（石川県立小松工業高等学校）

諸法規

・日本国憲法
・教育基本法
・教育諸法規
・学習指導要領

校訓

質実剛健　　自重自治

生徒の実態

・就職希望の生徒が７割以上である。
・進路に関して目的意識を持って入学してきている。
・部活動が盛んである。

学校の教育目標

①　工業の専門高校として、地域の産業の発展に貢献できる有為な産業人を育成する。

②　誠実を尊び、規律を守り、豊かな心、たくましい体力と実践力を持った人材を育成する。

③　自ら専門技術の練磨を図り、科学的な探究心を持ち、　創意工夫する人材を育成する。

各教科等

国語	文章を読むこと、意見を聞くこと、また伝えあう力を高め、自信の信条を豊かにする人間の育成を図る。
地歴公民	現代社会の問題を掘り下げ、よりよい社会の実現を考えさせていく。歴史を学ぶことによって、現代社会についての公正な判断力を養い、人間としての在り方生き方を考えさせる。
数学	数学的な見方や考え方を育成し、それを活用する態度を育成する。
理科	自然を愛し、自然に対する関心や知識を高め、科学的に判断する態度を養う。
保体	仲間と協力し、相手を思いやる態度を養う。
芸術	美術を愛好する心を育て創作の歓びを感じる態度を養う。
外国語	外国の言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。
家庭	家族・家庭・社会の意義を考えさせ、協力して社会を築き上げる実践的な態度を育てる。
工業	産業の発展に貢献できる基礎的な知識・技術の育成を図り、科学的な探求心を持ち創意工夫する態度を養う。

道徳教育目標

・社会に目を向け、地域の発展に貢献できる産業人としての自覚と目的意識を育てる。
・社会生活における自己の役割を自覚し、将来の生き方や職業を考え、自ら課題を見つけ責任をもって解決できる能力を養う。
・自己の進路の目標に向けて着実に努力を重ねていく能力を育てる。

生徒指導

・挨拶運動
・基本的生活習慣の確立する指導
・社会のルールを守り、マナーを大切にする心の育成

中学校との連携

・研究授業、研究協議

取り組み

学年	専門教科(機械システム、機械テクニカル、電気、電子情報、建築土木、建築、土木、マテリアル)
・１学年　進路ガイダンス、工場見学 ・２学年　進路指導、工場見学、インターンシップ ・３学年　進路指導、工場見学、企業訪問	・外部講師による授業 ・インターンシップ発表会 ・課題研究発表会 ・小中高連携事業 (近隣の小学校とものづくり・出前授業等)

特別活動（ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動・部活動）

①進路適性を理解し，進路情報を活用する。（将来設計の立案）
②就業体験や社会奉仕活動を通して、社会　規範やマナーを理解する。

・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ遠足
・修学旅行(工場・現場見学)
・部活動によるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ（清掃・地域活動への参加）
・いのちと心の教育
・PTA･生徒の本音で語る会

資料２

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

小学校　第１学年及び第２学年	小学校　第３学年及び第４学年	小学校　第５学年及び第６学年
基礎的な道徳性を身に付ける		
１　主として自分自身に関すること		
(1) 健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をする。 (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は，しっかりと行う。 (3) よいことと悪いことの区別をし，よいと思うことを進んで行う。 (4) うそをついたりごまかしをしたりしないで，素直に伸び伸びと生活する。	(1) 自分でできることは自分でやり，節度のある生活をする。 (2) よく考えて行動し，過ちは素直に改める。 (3) 自分でやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。 (4) 正しいと思うことは，勇気をもって行う。 (5) 正直に，明るい心で元気よく生活する。	(1) 生活を振り返り，節度を守り節制に心掛ける。 (2) より高い目標を立て，希望と勇気をもってくじけないで努力する。 (3) 自由を大切にし，規律ある行動をする。 (4) 誠実に，明るい心で楽しく生活する。 (5) 真理を大切にし，進んで新しいものを求め，工夫して生活をよりよくする。 (6) 自分の特徴を知って，悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。
２　主として他の人とのかかわりに関すること		
(1) 気持ちのよいあいさつ，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接する。 (2) 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し，親切にする。 (3) 友達と仲よくし，助け合う。 (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(1) 礼儀の大切さを知り，だれに対しても真心をもって接する。 (2) 相手のことを思いやり，親切にする。 (3) 友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。 (4) 生活を支えている人々や高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	(1) 時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接する。 (2) だれに対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする。 (3) 互いに信頼し，学び合って友情を深め，男女仲よく協力し助け合う。 (4) 謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。 (5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それにこたえる。
３　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること		
(1) 身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接する。 (2) 生きることを喜び，生命を大切にする心をもつ。 (3) 美しいものに触れ，すがすがしい心をもつ。	(1) 自然のすばらしさや不思議さに感動し，自然や動植物を大切にする。 (2) 生命め尊さを感じ取り，生命あるものを大切にする。 (3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	(1) 自然の偉大さを知り，自然環境を大切にする。 (2) 生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重する。 (3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。
４　主として集団や社会とのかかわりに関すること		
(1) みんなが使う物を大切にし，約束やきまりを守る。 (2) 父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。 (3) 先生を敬愛し，学校の人々に親しんで，学級や学校の生活を楽しくする。 (4) 郷土の文化や生活に親しみ，愛着をもつ。	(1) 約束や社会のきまりを守り，公徳心をもつ。 (2) 働くことの大切さを知り，進んで働く。 (3) 父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。 (4) 先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。 (5) 郷土の文化と伝統を大切にし，郷土を愛する心をもつ。 (6) 我が国の文化と伝統に親しみ，国を愛する心をもつとともに，外国の人々や文化に関心をもつ。	(1) 身近な集団に進んで参加し，自分の役割を自覚し，協力して主体的に責任を果たす。 (2) 公徳心をもって法やきまりを守り，自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。 (3) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正，公平にし，正義の実現に努める。 (4) 働くことの意義を理解し，社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。 (5) 父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをする。 (6) 先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。 (7) 郷土や我が国の文化と伝統を大切にし，先人の努力を知り，郷土や国を愛する心をもつ。 (8) 外国の人々や文化を大切にする心をもち，日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。

資料２

中学校	高等学校
人間としての生き方についての自覚を深める	人間としての在り方生き方に関する教育の充実を図る
1　主として自分自身に関すること	
(1) 望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。 (2) より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 (3) 自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ。 (4) 真理を愛し，真実を求め，理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 (5) 自己を見つめ，自己の向上を図るとともに個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	(1) 基本的生活習慣を確立し，節度を守り節制に心掛け，心身の調和のある生活の実現に努める。 (2) 人生の理想を求めて，希望と勇気をもってやり抜く強い意志をもつとともに，態度を身に付ける。 (3) 自主自律の精神を高め，正しく物事を判断し，誠実に実践し，その結果に責任をもつ。 (4) 真理を愛し，真実を探究し，理想の実現に向けて自己の人生を切り拓く積極的な生き方を追求する。 (5) 個性の伸長に努め，価値ある人生を追求する。
2　主として他の人とのかかわりに関すること	
(1) 礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとる。 (2) 温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。 (3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合う。 (4) 男女は，互いに異性についての正しい理解を探め，相手の人格を尊重する。 (5) それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，謙虚に他に学ぶ広い心をもつ。	(1) 礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとる。 (2) 他の人々の立場を尊重し，感謝と思いやりの心をもって接する。 (3) 真の友情を育て，互いに信じ合い，励まし合い，高め合う。 (4) 男女は，互いに異性についての正しい理解を深め，信頼と尊敬の心をもって接する。 (5) それぞれの個性や立場を尊重し，寛容と謙虚の心をもって接する。
3　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	
(1) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 (2) 生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。 (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きることに喜びを見いだすように努める。	(1) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 (2) 生命の尊さを深く理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。 (3) 自己の弱さを自覚し，その克服に向け，人間のもつ偉大で気高い可能性を信じて，人間として希望をもってよりよく生きる。
4　主として集団や社会とのかかわりに関すること	
(1) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 (2) 法やきまりの意義を理解し，遵守するとともに，自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める。 (3) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。 (4) 正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。 (5) 勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。 (6) 父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。 (7) 学級や学校の一員としての自覚をもち，教師や学校の人々に敬愛の念を深め，協力してよりよい校風を樹立する。 (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。 (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。 (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。	(1) 集団の意義についての理解を深め，役割と責任をもち，他者との協力関係の向上に努める。 (2) 遵法精神についての理解を深め，自他の権利を尊重し，義務を確実に果たして社会秩序の維持，向上に努める。 (3) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。 (4) 正義を重んじ，基本的人権を大切にした差別や偏見のない社会の実現を目指す。 (5) 勤労の意義を理解し，勤労の尊さを重んじる生き方を基に，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に寄与する。 (6) 父母，祖父母等に尊敬と感謝の念を深め，家族の一員としての自覚と責任をもってより充実した家庭生活を築く。 (7) 学校の一員としての自覚と責任をもち，教師や学校の人々に尊敬と感謝の念を深め，よき信頼関係を基に，よりよい校風を築く。 (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者等に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。 (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。 (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の福祉に貢献する。

出典：高等学校道徳教育指導資料（茨城県教育委員会）

資料３

道徳公開授業学習指導案

指導者　職・氏名　　教諭・前田耕造
指導日時・教室　　平成２０年１１月１日（土）　１限目　教室名　Ｍ１教室
対象生徒・集団　　機械システム科１年生　　４０人
科　　目　　名　　ＬＨ（ロングホーム）（単位数１）
使　用　資　料　　自作資料及び「わたしと小鳥とすずと」（著　金子みすず）
１　主　題　名　　自己をみつめて
２　ね　ら　い
現在の社会変化のなで、生徒を取り巻く環境も変わり、人間関係が希薄になっていることが指摘されている。ありのままの自分を受け入れ、他者を理解し立場を尊重できるようにする。

３　主題設定の理由
人間関係において、傷つけたり傷ついたりすることを恐れ、互いに深く関わりを持たない生徒が増えている。また、自己肯定感が低い生徒も増えている。「ありのままの自分」を受け入れ、人間は一人では生きていけない、社会生活を送れないことを気づかせたい。その上で充実した高校生活・社会生活を送るためには人との関わりの重要性を認識させ、その方法について探求させたい。

４本時の展開

	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入５分	・今までに友人とトラブルになったことがあるか。 ・友人や他人から何かしてもらい本当に助かったと思ったことがあるか。	・ある日突然、口をきいてもらえなくなった。 ・陰で悪口を言われた。 ・一緒に悩んでくれた。 ・ケガの手当をしてくれた。 ・落とした定期券を届けてもらった。	・人との関わりの中で、嫌なことがあった、良いことがあったことについて分けて挙手させる。 ・些細なことでも良いから、具体的な事柄を数人に発表させる。
展開３０分	・資料（詩）を読んで現時点で素直にどう思いましたか。	・当たり前のことを詩にしてある。 ・幼稚な内容である。 ・何を言おうとしているか分からない。 ・自分を含め、人間としてのことを形容している。 ・この気持ちがよく分かる。	・教師が範読する。 ・作者は数行の詩の中に自分たちが忘れかけている何かを伝えようとしていることに気づかせる。
	・資料（自作）を配布し自分たちの周り（教室や他の学校、社会）で何が起きているか。	・無差別殺人。 ・いじめ。 ・自殺。 ・不登校・引きこもり。	・命を軽んじる行為が現実に起きていることを理解させる。 ・その原因、要因、きっかけは何であるのかを考えさせる。
	・相手と上手くいかない、トラブルがおきたときどうするか。	・相手と口をきかない。 ・相手を無視する（消す）。 ・自分を消してしまう。	・自分の実体験を話し、生徒に共感してもらう。
	・解決の手段を考えてみよう。	・相手に歩み寄る。 ・相手を尊重する、認める。	・相手を理解しようとする努力が不可欠であることに気づかせる。
終末１０分	本時の感想を記入シートに書きまとめる。 ・作者は詩の中で何を伝えようとしていたか。 ・今後充実した高校生活を送るために必要なことは何ですか。	・自分も含め、人それぞれ良いところを見るようにする。 ・お互いに足りないところを補いながら生きていく。 ・自分も認められ、他の人も認める。 ・自分を好きになる。 ・コミニュケーションが大切である。	・ありのままの自分をどうすれば受け入れられるか考えさせる。 ・他者を理解するためには自分がどうすればよいか考えさせる。

５　評価及び評価の方法
自分を受け入れる努力、人と関わることの必要性、人との関わり方を変えていく努力について認識できたか。自分の考えを持つことが出来たか（記入シートの記入内容で評価）。

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｋ１教室　　指導者職・氏名　教諭・　宮前　正隆
指 導 日 時　　平成　２０　年　１１　月　　１　日（土）１限目
対 象 生 徒　　機械テクニカル科１年生　　３９ 人
科　目　名　　Ｌ　Ｈ　使用資料等　　「人々の幸せと科学・技術」　（的川　泰宣）

１　主　題　名　　科学技術と人の幸せ
２　ね　ら　い
　科学技術の発展と何のための科学技術であるかを考え、自他の生命を尊重する態度を育む。

３　主題設定の理由
　２０世紀は、科学技術が急速に発展してきた。この「ものづくり」に必要不可欠な要素を意識させ、科学技術が人々の本当の幸せにつながるため、「いのちの尊重」が大切であることを認識させたい。

４　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)と評価の観点(☆)
導入 ５	１．高校生活で「ものづくり」を学習することを確認する。 ２．資料の概要を知る。 ３．記入シートの書き方を知る。	・「ものづくり」を学習していく事を確認する。	○素直な気持ちで記入シートに書くように指示する。
展開 35	４.資料の前半部分を読む。	・コンピュータ　・携帯電話 ・自動車	○生徒が感じている事を確認させ、他の生徒の発表を聞く事により他者とのかかわりを　意識させる。
	５　好奇心と冒険心と匠の心のトライアングル		
	科学技術の進歩で便利になっていることを記入シートに記入し発表する。 ６．他者の発言を聞き、記入シートに書く。 ７．科学技術が発達した理由を考える。 ８.資料の後半部分を読む。 ９．百年前よりも幸せに暮らしているとは言い切れない状況について考え記入シートに記入し発表する。 １０．他者の発言を聞き、記入シートに書く。	・好奇心　・冒険心・匠の心 ・戦争・核兵器・交通事故 ・いのちを大切にすること ・いのちを守ること	○ものづくりに必要な要素を考えさせる。 ☆ものづくりに必要な要素を実感できたか。 ○生命の尊重を重視した科学技術の進歩が大切であることに気づかせる。 ○日常生活でも生命の尊重を意識して行くことが大切であることに気づかせる。 ☆生命の尊重を意識して行こうと感じているか。
	１１．いのちを大切にすること		
	何のための科学技術なのか考える。 １２．生命の尊重と科学技術の関係についてえ、記入シートに記入させる。		
終末 ５	１３．本時の感想を記入シートに書き、自分の考えが変わったことや、気づいたことを記入する。	・ものづくりの心 ・命の大切さ	○自由に自分の考えを記入させ、発表する機会を与える。

資料３

道徳公開授業学習指導案

教室名　Ｅ１教室　　指導者職・氏名　教諭・井上和哉

指導日時　平成　２０年　１１月　１　日（土）　１　限目
対象生徒　電気　科　１　年（次）生　４０　人（内訳　Ｅ１Ｈ　４０人　）
科目名　「ロングホーム」
使用資料等　【「笑顔」と「ありがとう」の魔法】　野坂礼子
【あなたの出会いはすべて正しい】　中谷彰宏

1　主題名　挨拶について

2　ねらい　挨拶、特に「ありがとう」に関する２編の文章を読み、普段言葉として表現していない気持ちを、自分の中で再確認する。

3　主題設定の理由　高校生は、感謝の気持ちを表現するのが照れやかっこ悪いという気持ちより、おろそかになっていると感じられる。「ありがとう」という言葉を考えることで、一人で生きているのではなく、他人に助けられて生活していることを自覚させる。

4　本時の展開

時間	学習内容（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点（○）と評価の観点（◎）
5 導入	普段使用する挨拶をあげさせる	・「おはようございます」、「さようなら」等があがる ・無関心	○生徒全員が発言し、関心を示すよう、堅苦しくならず発言しやすい雰囲気を作る
35 展開	「ありがとう」をとりあげる 感謝をしなければならない出来事を考えさせる	・照れから笑いがおこる ・真剣にならない	○真剣に考えさせるように、自分の出来事を例にあげて、雰囲気作りをする
	「ありがとう」に関連する詩をくばる	・笑いがおきる ・少しずつ静かになり、真剣に文章を読みはじめる	○静かに読むまで待機し、機を見て文章を音読する
	感謝の気持ちをワークシートに書かせる	・それぞれが考えながら書く ・照れやわからず、時間がかかってしまう	○それぞれが本音で、考えて書けるまで我慢して待つ あえて手助けをしない
5 まとめ	感想と、感謝の気持ちに対する意見をワークシートに書き本時を振り返る	・自分の考えをまとめながら、少しずつ真剣になる	◎それぞれの考えを尊重し、真剣に自分自身をとらえ、感謝を表現することについて考えることができたか

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｄ１教室　　指導者職・氏名　教諭　浅田　崇一

指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　６　日（木）　４　限目

対 象 生 徒　電子情報　科　１　年（次）生　４０　人（内訳　Ｈ　人）

科　目　名　ロングホーム　使用資料等

１　主題名

「先生の青春を聞いてみよう」

２　ねらい

自らの青春時代の思い出などを話すことで，現在の生徒個々の生活をかえりみさせ，　質疑応答を通して，生徒個々の将来について考えさせていく。

３　主題設定の理由

高校生活にも慣れ，夏休みが明けて二ヶ月経とうとしている中で，自分自身の将来に　ついて何となく目的を見失っている生徒や，勉強する意味が見いだせない生徒，様々な　悩みを抱えている生徒が出てきている。また，先生と生徒との信頼関係が，まだうまく　築けていない状況の中で，先生自らが自己開示し，青春時代の話を聞かせることから，　日々の学校生活の在り方を自問自答させ，自らの将来の職業観や人生観を考えさせてい　くべく設定した。

４　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の観点
導入 5	・事前アンケートの結果から自分たちの生活をかえりみる。	・今の生活に満足できているか考える	・まずは生徒一人一人に日々の学校生活の在り方を自問自答させ本時の目的を明確にする。
展開 35	・競技を始めたきっかけは ・目標設定の方法 小学校時代 中学校時代 高校時代 成績は 勉強時間は 大学時代 大学生活はどんな感じか 今 今の仕事を選んだ理由 楽しみ・悩みは	・自分は今夢をもっているだろうか ・目標を持って生活しているだろうか ・進学してみたい ・いろいろなことに挑戦したい ・自分のやりたい仕事に就きたい	・数人にそれぞれの夢を発言してもらい、自己実現のための取り組みを発表してもらう。 ・意欲的に聞くことが出来たか。 ・先生の話を聞いて，自分自身の将来について考えることが出来たか。
終末 5	・先生の話から得られたことや気づいたことについて問う。	・言葉遣い・あいさつの大切さ ・目標（夢）を持つことの意義	◎今の自分を振り返り、どう日々を過ごせばいいかを考えるきっかけにしてほしいと伝える。

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｂ１教室　　指導者職・氏名 教諭・　下　出　　純　央
指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　５　日（水）　１　限目
対 象 生 徒　建築土木 科 １ 年（次）生　４１ 人（内訳　Ｂ１　Ｈ　４１ 人　）
科　目　名　「ロングホーム」　使用資料等　「企業人」
１　主　題　名　法やきまり・権利と義務　４－（２）
２　ね　ら　い

昨今、食品に関わる事件が後を絶たない状況である。資料を通して法の規則や意義を理解させ、個人や集団の利益を欲する心に流されることなく、広く社会に生きるものとして法や規則を守っていこうとする態度を養う。

３　主題設定の理由

近頃後を絶たない食品事件や偽装問題に対して関心を高めるとともに、多くに人々が安心して社会生活が送れるよう、社会秩序や規律が保たれる必要性について考えさせたい。

４　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)と評価の観点(☆)
導入	1.食品に関する事件について事例を出し合う 2.資料の概要を知る	・異物混入事件（いんげん、餃子） ・賞味期限切れ事件 ・食品偽装	○事例をあげ思い出させるようにする ○補助資料を活用し、資料への関心を高める
展開	3.資料を読む 4.禁止有害物質の検出の事実を公表し、回収を迫る井上の気持ちを支えているものは何か 5.上司の山内は事実を隠し通す方針を示すが、どんな理由からか 6.公表を迫る部下と、事実を隠し通すように言い切る上司との板挟みになった水上はどんな思いだったろうか 7.水上はどうすべきか 8.そもそも法やきまりとは何のためにあるのか また、法やきまりに対してどのように向き合っていきたいか	・利益より消費者の健康や安全を優先させなければいけない ・法律を守る必要がある ・社会的な信頼を保つ ・会社の利益を守るため ・地位、名誉を守るため ・上司の指示に従わなければと思いつつも、部下の思いにも答えたい･･･ ・どうしていいか迷う ・公表すべき ・責任をとらなければいけない ・社会で安心して暮らせるために必要なもの ・法律やきまりは守る必要がある ・自分たちのためにきちんと守っていく	○会社や個人の利益より消費者の健康・安全を第一に考える井上の正義感や公正さに共感させるようにする ○会社の立場から、会社の利益や会社の体制を守ろうとする理由を押さえる ○両者の主張や水上の置かれた立場から、彼の気持ちを浮き彫りにさせ、心の葛藤を十分に考えさせたい ○自分ならどうするかという観点で考えさせる ○私たちを縛るものではなく、「私たちの生活を守るため」に収束させたい 個人や集団の利益に流されず、法やきまりを守っていこうとする気持ちを高めたい
終末	9.本時の感想をワークシートに書き自己を振り返る		☆社会秩序や規律が保たれる必要性について考えることができたか

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｓ１教室　　指導者職・氏名　教諭・　江守　秀樹
指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　　１　日（土）１限目
対 象 生 徒　マテリアル科１年生　４０ 人
科　目　名　Ｌ　Ｈ　使用資料等　自作プリント （自分を知る）

１　主　題　名　自分を知る

２　ね　ら　い

自分の今までの生活を振り返ることで、気付かなかった新しい自分を見つける。

３　主題設定の理由

自分を深く掘り下げることによって、自分自身の存在の確かさを確認し、さらに家族・友人などを大切にする気持ちを育てることへとつなげていく。

４　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)と評価の観点(◎)
導入 ５	今後進路決定に向けて履歴書などを書く機会も多くなり、自分の生き様を振り返ることの大切さを知る。	プリントを配布し、記入事項を確認する。	○素直な気持ちで書くように指示する。
展開 35	プリントの質問項目に沿って自分の今までを振り返る。	各項目要点を箇条書きしていく。	○はっきりと憶えていない項目に関しては、空欄にしておき、また調べるよう伝える。
	自分自身をどう思うのか、自己分析を行う。	他人から見た自分について考えさせる。	
	自分を知り、自分の大切さ、自分に期待されていることを考える。		◎自分の大切さ、自分に期待されていることに気付くことができる。 ○自分自身を肯定的に考えることで、他人の立場も尊重できるようにする。
	各生徒に少しずつ発表してもらう。	恥ずかしがる生徒も多いので、簡単な発表でよい。	○自由に自分の考えを記入させ、発表する機会を与える。
終末 ５	次回は他人を知るということで、隣の席の生徒について同様のことを行うことを知らせる。	友人とは限らないので、その人のよい点を探すことを強調しておく。	

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｍ２教室　　指導者職・氏名 教諭　・　宮本　隆一

指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　１　日（土）　１　限目

対 象 生 徒　機械システム科　２　年（次）生 ３５ 人

科　目　名　ＬＨ　　使用資料等　「ともに歩む：楽しいもの」永井路子

1　主　題　名　今を一生懸命に生きる

2　ね　ら　い

純粋に夢中になって物事に取り組んでいるとき報われるものがあることを伝える。

3　主題設定の理由

自由に物事を考え行動できる今こそ人生において自らを磨ける大切なときである。

一生懸命になって、いろいろな事を知る今を自覚して欲しい。

4　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)と評価の観点(☆)
導入10分	○教材を丁寧に読む 感想を聞いてみる	○自由に意見を出させる	○本に対して、昔と今を念頭において読む ○返答の内容を黒板に記録する
展開20分	○今まで作者のように一生懸命になって何かしたものがあるか？ ○発表のあった項目から得られたものや、役に立ったものがあるか。それはどんな時か。 ○今、皆の成長にとってまず必要な事は何か。 ○今の自分にとって必要なものは何か	・部活動　・勉強　・遊び等 ・部活動における技術 ・楽しさ ・知識　・運動　・友達 ・知識　・部活動における技術 ・資格取得	○返答に加え、教師自身の経験を語る。 ○自分自身の成長と併せて考えさせる。 ○心身に関係するものであることを考えるヒントとする。 ○発表のあった項目を参考に考えさせる。
終末５分	○自由に純粋に生きられる今、一生懸命に取り組める素晴らしい時期である。 ○一生懸命な姿勢の中から、何ものにも代え難いものが得られる。		○ 10 代～ 20 代にかけて一生懸命に取り組んだ事は良き思いでありその人を大きく成長させる力になることを認識させる。

5　評価及び評価の方法

・ 自由に純粋に生きられる今, 一生懸命に取り組める素晴らしさを知る事ができたか。

・一生懸命な姿勢の中から，何物にも代え難いものが得られる事を知ることができたか。

資料３

道徳公開授業学習指導案

指導者　職・氏名　　教諭・川端　正明

指導日時・教室　　平成２０年１１月１日（土）　１限目　　教室名　Ｅ２教室
対象生徒・集団　　電気科２年生　　３９人（内訳　Ｅ２Ｈ　　３９人）
科　　目　　名　　「ロングホーム」（単位数１）
使用資料等　　「だれかのために」（高校道徳　ともに歩む）
１　主　題　名　　人間への愛　　内容項目２－（２）
２　ね　ら　い

自主自律の精神を高め、他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心をもって接することが出来るようにする。

３　主題設定の理由

人間関係において、傷つくことを恐れ互いに深く関わりを持たない生徒が増えている。人間がより良く生きるためには、自分を取り巻く他との誠実な関わりをなくしては実現できないことに気づかせたい。寂しさにつぶされそうになりながらも、子ども達のために自分の人生を捧げる水谷先生の生き方に触れ、幸せを与えられる様な他人との関わりとは何かを探らせたい。

４　本時の展開

	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 10分	１経験を話し合う ○今までに他人から何かしてもらったことや、思いやりの心をもって接した経験はありますか。	・足をケガしたときに友達が手伝ってくれた。 ・係の仕事を友達が手伝ってくれた。 ・うれしかった。とても幸せに感じた。感謝したい。	・ここでは、日常の生活の中から気づいたことを発表する。 ・それぞれの体験時において、そのときの自分自身の心境について思い返させる。
展開 25分	２資料を読んで、水谷先生の心について考える。 ○水谷先生の願いは何ですか。 ○「人を外見で判断するものだとは思っていません。」と水谷先生はいっていますが、あなたはこの言葉をどのように受け止めますか。 ○水谷先生の寂しさとはなんですか。 ◎水谷先生の生き方をあなたはどう思いますか。 ワークシートに書く。	・少年達を犯罪の手から守りたい。 ・薬物などの非行から生徒を守る。 ・みんなを幸せにする。 ・見た目で判断されると不快に思う。 ・内面を知ってほしい。 ・その通りだ。 ・理解者や協力者がいない孤独感 ・自分自身のために何もしていない、自分は犠牲者だと感じた時 ・自分の人生を、人のために尽くすなんて素晴らしい。 ・すごいとは思うが、自分にはできない。	・教師が範読する。 ・子ども達一人一人の幸せを願う気持ちが、水谷先生の原動力になっていることに気づかせる。 ・水谷先生の子ども達との関わり方は、表面的なものではなく。内面に入り込んだ深いつきあいであることに注目させる。 ・今の時間を人のために尽くす水谷先生の寂しさを、自分のこととしてとらえさせる。 ・水谷先生の生き方を、自分自身の生き方に照らし合わせて考えさせる。 ・どのような意見も尊重する。
終末 10分	３本時の感想をワークシートに書きまとめる。 ○　みんなに幸せを配って生きる・・とは、他人とどのようにかかわることとあなたは考えますか。	・他の人々の立場を尊重して生きる。 ・感謝と思いやりの心をもって接する。 ・自分や人に幸せを与えられるような生き方をしたい。	・人と関わり方について、真剣に考えさせる。 ・自分自身のどのような言動や働きが他人を幸せにするのかに気づかせる。

５　評価及び評価の方法

人との関わり方について、自分なりの意見を持って話し合いに参加することが出来たか。（ワークシートへの記入内容で評価）

資料３

別紙参考様式１（在り方生き方・公開授業）

道 徳 公 開 授 業 学 習 指 導 案

教室名　Ｄ２教室　　指導者職・氏名　教諭　　藤﨑　勝治

指　導　日　時　　平成　２０　年　１１月　１日（土）　１　限目

対　象　生　徒　　電子情報科　２年（次）生　　３７　人（内訳　　Ｈ　　人　）

科　　目　　名　　ロングホーム　　使 用 資 料 等　　受身―負ける練習（相田みつを）

１　主　題　名　　希望・勇気・強い意志　～今の自分と将来の自分～

２　ね　ら　い

・ 失敗をしてもそこからすぐに立ち上がれる気持ちを育み今後、自分自身がとらなければならない「受け身」を考える。

３　主題設定の理由

・ 柔道の修行と人生を重ね合わせ自分の生き方や将来について考えさせたい。

・ 「失敗を恐れるな」というメッセージを感じさせたい。

４　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の観点
導入	・柔道の受け身を練習したことがあるか。 ・何のために受け身は必要なのか。	・体育の授業で柔道をした。 ・痛かった。 ・地味だった。 ・本当に痛くないのか。 ・怪我をしないように。 ・投げられなければいい。	・実際の柔道における受け身の必要性を実体験から説明する。
展開	・資料の詩を朗読し、この場合の受け身というのはどういうことか。 ○今までにここ言われる受け身をとったかとはあるか。 ○そのときどんな行動をとったか。	・受け身とはどんなことか。 ・単に投げられただけじゃないか。 ・負けること（投げられる）＝挫折と気づく。 ・試験ができなかった。 ・人生の選択を誤った。 ・恥ずかしいけど周囲に当った。 ・静かにしていた ・次回に賭けた。	・実際の受け身と「負ける」ということの関連について説明する。 ・こちら側の体験を踏まえて説明する。 ・ 負けたとしても事前に負け方を知っておけばすぐに立ち直ることができる。
終末	・受け身の本当の意味は感じ取れたか。	・これからの人生そんなことばかりではない。 ・転ばぬ先の杖は大事だ。 ・備えあれば憂い無し。	◎その受け身から今の自分を振り返り、どう日々を過ごせばいいかを考えるきっかけにしてほしいと伝える。

（注）　原則として、Ａ４判用紙を使用し、横書きとすること。

資料３

道徳科公開授業指導計画
教室名　Ｂ３６（ＡⅡ）　　教諭　　石坂直樹

指　導　日　時　　平成２０年１１月１日（土）１限目
対　象　生　徒　　建築科　２年生　３９人　（内訳　ＡⅡＨ　３９人）
科　　目　　名　　「ロングホーム」　使用資料　　『生きる』　谷川俊太郎
　　『生きてることが辛いなら』　御徒町凧

1　主　題　名　　人生について
2　ね　ら　い　　人生についての２編の詩を読み、関連の新聞記事と情報を参考にしながら、それぞれの感想と考え方を通して人生について一度自分なりの確認をしてみる。
3　主題設定の理由　高校２年生の現段階は、将来の事を少しずつ考えていかなくてはならない時期であり、生徒各自が人生をどのように考え、今後どのように生きていくべきかを少しでも考える機会としたい。
4　本時の展開

時 間	学 習 内 容	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)と評価の観点（☆）
導 入 ５分	・道徳の授業、本時の内容について知る	・道徳について考え、配布資料を見る	○資料への関心を持たせる
展 開 35 分	・『生きる』を朗読する ・ブロックの流れを考える	・詩の意味を一文ずつ読み取る ・再度、詩を読み返す	○各自がその内容を理解する
	・朝日新聞のいのちの記事を読む	●自分なりの詩『生きる』を考える ・新聞内容から『生きる』に対する自分なりのものを考える ・内容を発表する	○一般人からの投稿を見て、その内容を理解し、自分自身ではどうかと考えさせる ☆自分の考えを詩にできたか
	・『生きてることが辛いなら』を朗読する ・この詩に対する一般的な評価を知る	・詩の意味を一文ずつ読み取る ・一般の評価について考える ●自分なりにこの詩を評価する	○この詩全体を読んで評価させる ☆色んな評価があるが自分ではどの様に感じたか
総 括 ５分	・本時の内容について確認する	・詩を通して自分の生き方についての捉え方を考え、今後どのようにしていくべきかを考える	○生命の尊さを理解し意味のある自分の生き方を考える

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　C2 教室　　指導者職・氏名 教諭・　根　石　　修
指 導 日 時　平成 20 年 11 月 1 日（土） 1 限目
対 象 生 徒　土木　科 2 年（次）生 39 人（内訳　C2　H　39 人　）
科　目　名　「ロングホーム」
使用資料等　公共の場のマナーについての調査　（結果報告 Web 版より）

1　主　題　名　　公共の場のマナーについて考える
2　ね　ら　い
資料を通して公共の場におけるマナーについて考えさせ、より良い社会を作っていくための態度を養う。
3　主題設定の理由
本クラスでは、4 月当初よりゴミの分別とガムのポイ捨てに悩まされている。
私たちが快適で安心な学校生活を送るために必要な基本的な意識や態度について考えさせたい。
4　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点（〇）と評価の観点（☆）
導入	1. 教室の汚れが気になっていることと、解決策を探りたい旨を伝える。	・個人名を出した指摘など ・全くの無関心	〇いきなり具体策は出ないだろうから、より大きな視点から考えていくことを伝える。
展開	2. 資料を通して調査の概要を知る		〇資料の説明を行い、資料への関心を高める
	3. 同じ調査に答えてみる		
	4. 調査の結果を予想する	・結果と同じ項目と、異なる項目が出てくる	〇答え当てに焦点がいってしまわないように留意する
	5. 実際の調査結果を知らせ、感じたことを発表する	・なかなか発言が出てこない	〇発言が得られない場合は、書かせて表現させる
	6. 資料の調査に関して行われた提言を知らせる		〇次につながる部分なので、静かに集中をするように促す
	7.マナーが想起する一般的な傾向を知ったのち、自分自身のマナーに対する考え方に向き合ってみる。	・漠然としてわからない。	〇食べた後のガムの始末ができていないことを取り上げ具体的に考えてみるよう助言する
終末	8. 感想とマナーに対する各自の意見をワークシートに書き本時を振り返る		☆マナーについて社会一般にどのようにとらえられているかを踏まえ、自分自身の規律とそれを守るための態度について考えることができたか

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｍ３教室　　指導者職・氏名　教諭　・　中　西　茂　樹

指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　１　日（土　）　１　限目

対 象 生 徒　機械システム科　３　年（次）生　４０　人（内訳　Ｈ　　人）

科　目　名　ロングホーム　使用資料等「人生とは旅であり，旅とは人生である」

中田　英寿

1　主　題　名　　自己実現

2　ね　ら　い

・ 自分の将来を考え，これからの自分の生き方を考える。

・ 今の自分を振り返る。

3　主題設定の理由

・ 進路が決定している今を見直し，これからの人生を考える機会にしたい。

・ 著者の伝えたいメッセージを感じる機会にしたい。

4　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の観点
導入	・中田英寿選手について どんなことを知っているか。	・中田英寿選手について考える ・サッカー日本代表のプロ選手	・生徒からの情報を引き出し，名前だけしか知らない生徒がいると考えられるので，略歴なども付け加えて紹介する。
展開	・資料を読む。 ・資料から読みとれる心情についてかんがえる。 ・中田は引退後なぜ旅に出たのか。また，旅を通して何を学びたいと思っているか。	朗読後の様子を観察し、自分を著者に置き換えられているか様子を見る。 自分ならどうする？どうなるか？を数人に問いかける。	数人にそれぞれの詩を朗読してもらい、何を感じたか率直に問いかける。他の生徒に違う感想を持った人はいるか問いかける。 ポイントになる文脈をしめす。
終末	・中田英寿の生き方から何を学びたいか。 ・自己実現のために大切なことを明らかにする。	他人事であった意識から、メッセージを通し、自分を振りかえり、自己がすこしでも変容したか。	◎中田英寿の生き方を参考に，自分が今後どの様なことを大切にして生きていくべきかを考えさせる。

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｄ３教室　　指導者職・氏名　教諭　・　稲　葉　　豪

指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　１　日（土　）　１　限目

対 象 生 徒　電子情報　科　３　年（次）生　３９　人（内訳　　Ｈ　　人　）

科　目　名　ロングホーム　使用資料等　「風の旅」星野　富弘

1　主　題　名　今を顧みる

2　ね　ら　い

・ ありがたさの再認識をする。

・ 今の自分を振り返る。

3　主題設定の理由

・ 同じ境遇になったら？を考える機会にしたい。

・ 著者の伝えたいメッセージを感じる機会にしたい。

4　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の観点
導入	・こんな事故に遭ったり、身近にそのような人がいるか？ ・健康（五体満足）のありがたさを思ったことは？ ・どのような心境なのだろうか。	事故のいきさつと資料の提示で著者の心境を探る。 中には「他人事であ」、「ただ可哀想」「そうならないと分からない」 等の感想があるだろう。 「いつ自分もそんな境遇になるかも・・・」を今一度考える原点とする。	資料を分かりやすく説明するとともに、著者の心境を察したり、自分に置き換えようとしているか観察する。
展開	・資料の著者の誌を２，３朗読し、著者の心境を想像し、言葉にして生徒に表現してもらう。 もし自分がそんな境遇になったらどうするか。	朗読後の様子を観察し、自分を著者に置き換えられているか様子を見る。 興味を持ってもらうため、このような（あるいは近い）境遇の人が周りにいるか聞いてみる。 自分ならどうする？どうなるか？を数人に問いかける。	数人にそれぞれの詩を朗読してもらい、何を感じたか率直に問いかける。他の生徒に違う感想を持った人はいるか問いかける。 乗らない表情、冷めた表情の生徒にどう思ったか聞いてみる。－－－－＞それも一つの考えであることを認める。
終末	・著者の伝えたいこと、メッセージは感じ取れたか。	他人事であった意識から、メッセージを通し、自分を振りかえり、自己がすこしでも変容したか。	◎そのメッセージから今の自分を振り返り、どう日々を過ごせばいいかを考えるきっかけにしてほしいと伝える。

資料３

別紙参考様式１（在り方生き方・公開授業）

建築科公開授業指導計画

教室名　Ａ３教室　　指導者職・氏名　教諭　　河﨑屋　吉晴

指　導　日　時　　平成２０年１１月　１日（土）　１　限目

対　象　生　徒　　建築　科　３　年（次）生　３６　人（内訳　　Ｈ　　人　）

科　　目　　名　　ロングホーム　　使 用 資 料 等　　自作プリント

１　主　題　名　　最近の事件を考える　～企業モラル・公徳心、道徳的判断力～

２　ね　ら　い

・最近の事件から一例として事故米を取り上げ話し合いさせる。
その上でこの事件には、道徳上どんな問題点があるかを理解してもらう。

・昨今の諸問題について道徳的判断力を持って対応していくよう意識させる。

３　主題設定の理由

・将来、産業に携わる社会人となる生徒に、公徳心及び企業モラルや社会連帯への自覚を高めてもらう。また、より良い社会の実現につながる生き方を意識させる機会としたい。

４　本時の展開

時間	学　習　活　動 （主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点（○） 評価の観点（☆）
５ 導 入	・資料の概要を知る	・事故米事件の概要を認識する	○自作プリントを活用し関心を高める
３５ 展 開	・事故米問題について理解させる	・事故米事件の内容を理解する （質問）	○考える材料となるよう事件概要を正確に伝える
	・問題点を話し合いさせる	・問題点はどこか様々な視点から探る （話し合い） （問いかけ）	○事件について考えさせる ☆問題点を道徳的視点から理解できたか ・企業モラルについて ・消費者の立場として
	・最近の他の事件について概要を理解させる	・どんな事件があるか ・どんな内容か	○最近の事件について資料、概要説明で関心を高める
	・各自、気になった事件について考えさせる	・問題点はどこか （問いかけ）	☆様々な視点から物事を捉え、道徳的判断力を持つことが出来るか
５ 終 末	・本時の内容をプリントにまとめさせる	・道徳心、公共心 企業モラルとは何か	☆道徳的判断力を持って諸問題に対応していく大切さが理解できたか

（注）　原則として、Ａ４判用紙を使用し、横書きとすること。

資料３

道 徳 公 開 授 業 指 導 計 画

教室名　Ｓ３教室　　指導者職・氏名 教諭・酒井　浩人
指 導 日 時　平成　２０　年　１１　月　１　日（ 土 ）　１　限目
対 象 生 徒　マテリアル 科 ３ 年（次）生　３８ 人（内訳　　Ｈ　　人 ）
科　目　名　「ロングホーム」　使用資料等　「ともに歩む」　24－手紙
1　主　題　名　生命の尊重
2　ね　ら　い
命の尊さを深く理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
3　主題設定の理由
昨今、自殺などの報道が多く、命の尊さを改めて考える機会の必要性を痛感させられる。生命は尊く、一人一人の人間がかけがえのない存在であることを考えることは、自分と他者を大切にすることにつながる。ひいては、自分の人生を精一杯生きる意義を見いだし、他の人々に対して感謝と思いやりを持って行動することができるように考えさせたい。
4　本時の展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)と評価の観点(◎)
10 導入	1．病気等で入院した経験についての問いかけ。	・入院がつらかった。 ・健康の大切さが分かった。 ・家族や友達に感謝した。	○経験に基づいて思い出させる。
	自分が病気のとき、家族や恋人にそばにいてほしいか。	・迷惑をかけたくない。 ・そばにいてほしい。 ・大切な人を支えてあげたい。	○できるだけ本音が出るように考えさせる。
	結婚する場合、何を基準にするか。	・お金持ち ・外見 ・優しさ	
30 展開	2．資料を生徒と教師で二度朗読し、稔さんや美代子さんの気持ちについて考える		○人物関係図を用いて、内容を把握しやすくする。 ○二人で病気と闘おうといったときの気持ちを考えさせる。 ○結婚後、大変な思いをすると分かっていたことを認識させる。
	稔さんが美代子さんの病を知りながらプロポーズしたときの気持ちはどのようなものか。	・病気の美代子さんを支えてあげたい。 ・限られた時間でも一緒にいたい。	
	美代子さんがプロポーズを断ったときと受け入れたときの気持ちの変化について。	・病気の自分が稔さんを悲しませる。 ・しかし、愛する人と一緒にいたい。 ・二人で幸せになりたい。	○美代子さんの葛藤の理由を深く考えさせる。 ○自分の幸せだけを考えて受け入れたのではないことに注目させる。
	手紙を読んだ筆者の気持ちを考える。	・二人とも幸せだった。 ・かわいそうというよりうらやましい。	◎「わたし」が美代子さんの死を悲しむ以上に温かさを感じている理由を考えさせる。
5 終末	3．命（愛）の意義について考える。		○自分が彼らの立場だったらどうするか考えさせる
	本当に人を愛するということはどういうことか。	・相手のことを深く思いやること。 ・最後まで精一杯生きるために努力すること。	

授業記録［保健］

時刻	話者	発話
0:00:32		開始チャイム
0:00:35	教師	はい、始めます
0:00:36	生徒	起立
0:00:46	教師	はい
0:00:47	生徒	礼
0:00:49	生徒	お願いします
0:00:57	教師	はい、欠席は？
0:00:58	生徒	ありません
0:00:59	教師	はい
0:01:01	教師	はい、えぇーと、そやな、いつも通り、新聞の要約をな、やります。
0:01:11	教師	ね、周りに人がいるけど、緊張しないように。
0:01:15	生徒	先生や、一番緊張しているの、先生や。
0:01:16	教師	そやな、ありがとう。
0:01:17	教師	はい、H1君。
0:01:18	生徒H1	はい。（立って、教卓の所へ行く）
0:01:27	生徒H1	えぇ、自分は、メタボの治療の新しい方法の記事を読みます。
0:01:28	生徒H1	それは、胃にシリコン製の風船を入れ、それを膨らませ、満腹感を与え、食欲をなくし、メタボを治す治療法です。
0:01:54	生徒H1	それは従来の治療法より、患者の体にメスを入れるなどの治療より負担が小さく、患者に優しい治療法です。
0:02:12	生徒H1	えぇ、自分は、このような治療をしなくてもいいように、健康的な生活を送って、メタボにならないようになりたいと思いました。
0:02:27	生徒H1	以上です。
0:02:28	教師	はい。
0:02:29		（拍手）
0:02:31	生徒H1	（記事を教師に手渡す）
0:02:36	教師	はい、えぇっと、H2君。
0:02:40	生徒H2	（立って、教卓の所へ行く）
0:02:43	生徒H2	心と体の健康計画、犀川沿い。
0:02:48	生徒H2	シニアライフフェア石川2008では、県ウォーキング協会の健康さわやかウォーキングが行われた。
0:02:57	生徒H2	あいにくの雨もようとなったものの、参加した約70人は、産業展示館4号館を出発して、元気よく犀川沿いの10キロを歩いた。
0:03:06	生徒H2	この記事を読んで、参加人数が70人とちょっと少ないかなと思いましたが、健康に対する良い意識の高い人がいるということは素晴らしいことだと思いました。
0:03:20	生徒H2	僕も、こういう機会があれば、積極的に参加したいと思います。
0:03:23		（拍手）
0:03:25	生徒H2	（記事を教師に手渡す）
0:03:31	教師	はい、えぇと、もう一人、H3君。
0:03:33	生徒H3	はい。
0:03:33	生徒H3	（立って、教卓の所へ行く）
0:03:45	生徒H3	国連気候変動枠組み条約の事務局は17日に、京都議定書が温室効果ガス削減目標を定めた先進国や東欧諸国など40カ国と欧州連合、2006年二酸化炭素排出量を公表しました。
0:04:07	生徒H3	欧州連合全体では、1990年に比べてマイナス2.2%、その中でもドイツがマイナス18.2%、イギリスはマイナス15.1%とそれぞれマイナスになっているに対して、最大の排出国のアメリカはプラス14.4%で、日本も5.3%増加していました。
0:04:44	生徒H3	全体の平均では、2.3%増加して、その中でも日本は平均を上回る5.3%なので、結構高く、先進国である日本がまだ平均を上回るような増加をしているのは良くないと思いました。
0:05:06	生徒H3	自分一人がしても何にもならないと考えていても、それこそ本当に何にもならないので、自分も二酸化炭素削減に向けて、少しでも協力していきたいなと思いました。
0:05:20		（拍手）
0:05:23	教師	（記事を教卓に置くよう指示する）
0:05:24	教師	はい、ありがとう。

資料４－１

時刻	話者	発話
0:05:25	教師	はい、えぇーと、今日は3人ね。
0:05:29	教師	えぇーと、まず、メタボ治療というやつね。
0:05:35	教師	（メタボ治療の記事を黒板に貼る）
0:05:40	教師	えぇーと、まあ、あのぉ、口からバルーンを入れて、膨らまして、中で膨らまして、生理食塩水を入れてという、そういう新しい治療法、メタボ治療法というのね。
0:05:52	教師	今年から、検診でも、先生方の検診でも、メタボ、というのが入ってきて、えぇ、引っかかっている先生もいっぱいいますが、こういう、治療法はこうやってできて、体に負担のかからない治療法はできていますけど、先程言ったように、こういったことに引っかからないように、健康に注意するというのがね、えぇ大切なことです。
0:06:16	教師	はい、次は。（二つ目の記事を黒板に貼る）
0:06:20	教師	えぇと、健康ウォーク、ウォーキングをしているこういう記事です。
0:06:28	教師	えぇ、これもね、あのぉ、まぁ、雨模様の中70人の人が参加したという、こういう記事ですけど、えぇ、先生なんかも、えぇ、働くようになって、車で、行き来するようになって、もうなかなか歩く機会等が少なくなっています。
0:06:46	教師	でぇ、先生もちっちゃい頃、君らのころは、自転車通学とかをしていて、当然、えぇ、足に自信、自信もないけど、使っていた。
0:06:58	教師	毎日、使うということで、健康をたもてたのかなぁと思うけど、この頃、やっぱり、車社会ということで、歩く量が少なくなって、足腰が衰えてきたなとつくづく感じているので、皆さんも大人になってからでも、歩く機会を大切にしてください。
0:07:19	教師	（三つ目の記事を見る）
0:07:20	教師	はい、もう一個。（三つ目の記事を黒板に貼る）
0:07:24	教師	温室ガス排出という記事ね。
0:07:29	教師	えぇ、まぁ、あのぉ、日本も先進国でありながら、減らすというそういう議定書をしながら、えぇ、まぁ、増えていると。
0:07:42	教師	ねぇ、今後も、まぁ、これ、あのぉ、お金で、それを、あのぉ、やりとりするという話も出ていますけど、まぁ、一人一人の心がけが大切であるって、最後、締めてくれたので、それはそれでいいことなんで、今日の部分でも、そういうエコの部分も出てきますんで、えぇ、参考にしてください。
0:08:04	教師	はい、で、来週、次回はね、M1君、M2君、Y1君、しっかり準備をしておいてください。
0:08:11	教師	はい、それじゃ、今日の部分へ行きます。
0:08:16	教師	教科書、えぇっと、何ページや。（教科書をめくる）
0:08:18	教師	教科書、94、95ページね。
0:08:23	教師	の、方へ行きます。
0:08:33	教師	はい、教科書開いて。
0:08:34	教師	いいですか。
0:08:41	教師	えっとね、今日のところは、まず、環境衛生活動の仕組みと働きということで、まぁ、ここで、ゴミ処理の過程を簡単に説明できるようにすると、これが学習の目標です。
0:08:54	教師	えぇ、しっかりと、ここでやりながら、それを説明できるようになってください。
0:09:01	教師	えぇ、まず、ええと、学校でもね、ゴミの分別、前に、こうやってあります。
0:09:09	教師	ゴミ箱が三つありますけど、皆さんの家では、どのようなゴミの分別をしてますか？
0:09:15	教師	ねぇ、ちょっと、誰か、二三人答えてもらいます。
0:09:21	教師	まず、まず、ノートに書いて。
0:09:23	教師	えぇと、自分の家、ねぇ、それぞれ、家、多分、えぇ、市町村によっても違うだろうし、町というか、町の中でも区別があるかもしれないので、自分の家で、自分のゴミ出しとるものはどういう分別をしているか、まず、ちょっと、ノートに書いてみて。
0:09:39	教師	ノートの121ページにちらっとね。（机間指導を行う）
0:09:45	教師	えぇ、自分の、家に、どういう分別をしながら、ゴミを出しているか。
0:09:55	教師	（机間指導しながら、ゴミを拾う）
0:09:58	教師	（生徒に）ノートは？
0:10:07	教師	（拾ったゴミをゴミ箱に捨てる）
0:10:11	教師	（机間指導を続ける）
0:10:34	教師	（黒板に貼った記事を片づける）
0:11:00	教師	書けたかな？ある程度わかったかな？
0:11:01	教師	はい、えぇーっと、今日は28日ですけど、28番のH1君は終わったので、K1君。
0:11:12	教師	K1君、K1君。
0:11:16	教師	家どこ？

資料４－１

時刻	話者	発話
0:11:17	生徒K1	加賀市です。
0:11:18	教師	加賀市。
0:11:19	教師	加賀（板書する）
0:11:26	教師	どんな分別しとる？家ん中で？
0:11:28	教師	何と何と何に分けてる？大体？
0:11:31	生徒K1	プラスチックごみ。
0:11:33	教師	プラスチック（板書する）
0:11:39	生徒K1	燃えるゴミ。
0:11:40	教師	うん？
0:11:41	生徒K1	燃えるゴミ。
0:11:43	教師	燃えるゴミ（板書する）
0:11:47	教師	（生徒の方を見る）
0:11:48	生徒K1	ペットボトル。
0:11:49	教師	ペットボトル（板書する）
0:11:52	教師	（生徒の方を見る）
0:11:53	生徒K1	缶。
0:11:54	教師	缶（板書する）
0:11:58	教師	（生徒の方を見る）
0:11:59	生徒K1	えっと、紙パック。
0:12:00	教師	紙パック？（板書する）
0:12:06	教師	（生徒の方を見る）
0:12:07	生徒K1	乾電池。
0:12:08	教師	乾電池？（板書する）
0:12:11	生徒	細かいな。
0:12:14	生徒	いいぞいいぞ。
0:12:16	教師	あっ、まだある？
0:12:18	教師	こんなもんか？
0:12:21	教師	加賀市は、まぁ、こんなもんだそうです。
0:12:24	教師	えぇっと、じゃ、T1君。
0:12:30	教師	T1君、家どこや？あん？
0:12:31	生徒T1	安宅です
0:12:32	教師	えっ、安宅って？能美、能美市？
0:12:36	生徒T1	小松。
0:12:37	教師	小松市？あぁ、ゴメン。（小松と板書する）
0:12:42	教師	ここは、どうや？
0:12:44	教師	どんな風に分けとるか？
0:12:45	生徒T1	燃えるゴミです。
0:12:46	教師	燃えるゴミ、一緒やな。（〃と板書する）
0:12:49	生徒T1	生ゴミ。
0:12:53	生徒T1	違った。燃えないゴミです。
0:12:54	教師	えっ、燃えるゴミと燃えないゴミ、二つか？
0:12:59	生徒T1	えっと、プラスチック。
0:13:00	教師	プラスチック、はい。（〃と板書する）
0:13:05	生徒T1	それ位やと思います。
0:13:06	教師	燃えないゴミ、はい。
0:13:07	教師	燃えないゴミ（頭を傾げて板書する）
0:13:09	教師	はい。
0:13:11	教師	もう一つなんかない？
0:13:12	教師	どっか違う、加賀小松、あと、特有なとこ？（挙手をして答えるよう促す）
0:13:17	教師	何かない？誰か？
0:13:20	教師	違う、違う地域の人？
0:13:24	教師	おらんか？
0:13:30	教師	はい、えぇとね、先生、金沢市ねんけど、金沢市は、えぇ、家の中では、まぁ、これとよう似たもんや、プラスチック、燃えるゴミ、ペットボトル、缶、紙パックは燃えるゴミに入れるし、あと乾電池とかね、水銀の関係のもの、とかあとで害、粗大ゴミ、そういったものに分けてます。金沢ね。

資料４－１

時刻	話者	発話
0:14:02	教師	金沢は･･･（金沢と板書する）
0:14:03	教師	プラスチック、燃えるゴミ、ペット、缶（〃と板書する）
0:14:12	生徒	ビンとかは？先生。
0:14:13	教師	あっ、ビン分けとる、ビン、これビンないな、ビン。（ビンと板書する）
0:14:18	教師	ね、そういう風に分けています。
0:14:25	教師	えぇ、少ないと困るので、もう一つ、ね、調べてきたやつは、えぇ、輪島市。
0:14:31	教師	まぁ、輪島市も、一般ゴミ、容器･包装プラスチック、えぇ、古紙、空き缶、ね、あと有害ゴミというのがあるわ。
0:14:32	教師	有害ゴミ、ここん中で、あんまりない、あっ、ここ乾電池とかね、えぇ、は有害ゴミに入るのかな。
0:14:53	教師	まぁ、ええと、こうやって、まぁ、各地域、家庭、ね、いろんな分け方があります。
0:14:57	教師	で、えぇ、みんなも知っているように、この学校、ね、こうゆうのが、このクラス、どこに張ってある？
0:15:07	教師	どこかに、張ってあるな。
0:15:08	教師	これ、今、もらってきましたけど（ゴミ分別のチラシを示す）
0:15:10	教師	君らが分別している。
0:15:13	教師	これ、分別方法、知っていますか？
0:15:15	教師	読んだことありますか？（前列の生徒を指さす）
0:15:19	教師	読んだことある？（他の生徒に聞く）
0:15:20	生徒	ないです。
0:15:21	教師	ないです、ね。
0:15:23	教師	ええと、まぁ、分別しなさい、て、しなさい、してください、てね、どこかこういうとこに張っておけば、本当は張ってあったんだと思いますけど。
0:15:34	教師	えぇ、この学校の分別方法は、一つは普通ゴミ、弁当トレイ、ね、ペットボトル、缶、紙パック、えぇ、あとはね、これ多分ないと思うんですけど、書籍類、教科書、ノート、新聞、ひもでくくってください。
0:15:47	教師	段ボール、畳んでください。
0:15:49	教師	その他の不燃物。
0:15:52	教師	これにも大事なことが一つ、ね、書いてあります。
0:15:55	教師	紙パック、ね、えぇ、紙パック（ゴミ箱の所へ行く）
0:16:00	教師	あ、ここに、掃除の後やから、一個だけ、ね、入ってます。（ゴミ箱から紙パックを取り出す）
0:16:03	教師	で、残念なんですけど、これやね。
0:16:07	教師	あのぉ、もうちょっと足りんげんな？
0:16:10	教師	本当はここにちゃんとつぶして、えぇ、空にして、つぶしてください、て、いう風にお願いがしてあります。
0:16:19	教師	ね、そういうのを、やっぱり、守っていけばな、どうなるかというのをね、しっかり理解して欲しいと思います。
0:16:26	教師	ね、ええと、簡単に捨てるだけじゃなくて、えぇ、それを、次に利用する等の、ええ、リサイクル可能なら、そういうところに気をつけて分別するというのが、非常に大切だと思います。
0:16:44	教師	例えば、ペットボトルな。
0:16:47	教師	みんなも知っているように、ペットボトル、えぇ、リサイクルして、何になっとる？
0:16:52	教師	今、よう宣伝とかしとるね。
0:16:55	教師	繊維になって、服にリサイクルされとるとかな。そういったこともあります。
0:17:00	教師	そんで、チップにして、えぇ、あと、何になっとるかな？
0:17:02	教師	うん?知らん？
0:17:05	生徒	わかりません。
0:17:06	教師	わからん？
0:17:07	教師	ね、ええと、そういうことがあります。
0:17:11	教師	で、えぇ、こうやって、いろいろと分別されてね、えぇ、やっていっている訳ですね。
0:17:20	教師	でぇ、まぁ、ここで、ええとぉ、この、分別というところで、しっかり、ここでね、あのぉ、君ら一番、今日のところで、少し、大事なところをね、えぇ、マナーを守る、人のために、とかね、そういったところをしっかり考えてほしい。
0:17:41	教師	今の、最後に言った、紙パックの話ね、例えば、でかいまま、えぇ、ボンボン放り込む。
0:17:51	教師	そしたら、すぐに、えぇ、袋がいっぱいになる。

資料４－１

時刻	話者	発話
0:17:55	教師	つぶして、こうやってしまうと、えぇ、倍、3倍ぐらいはいるかな。一つの袋にね。
0:18:03	教師	そういった事もあるし、えぇ、ここの環境部、になると、ゴミステーションで、分別の当番もいます。
0:18:12	教師	そしたら、いろいろ、君らが持って行ったものを分別してなかったら、また分別してくれたり、ね、そういった作業もしてもらってます。
0:18:20	教師	それから、心のない、心ないといったら言い方ちょっとあれやけど、君らがちょっとした気持ちで入れたゴミを、混ざっているゴミを、えぇ、その人らが一所懸命、一所懸命してくれとるわけやな。
0:18:39	教師	まぁ、係ということでやってもらってます。
0:18:40	教師	だから、そういうところを、しっかりマナーを守って、君らが、えぇ、絶対、混じらないようにとか、えぇ、分別をしっかりしていけば、そういった、その係もいらないし、えぇ、次の、えぇ、リサイクルの方にも、簡単に持って行けるということがあると思います。
0:19:02	教師	(時計を見る)ね。
0:19:05	教師	そういうところをね、えぇっとぉ、気にしながらね、やってください。
0:19:13	教師	えぇ、君らがいつも、ちょっと脱線しますけど、コンビニとかね、そういったところで買い物とかもするでしょう。
0:19:14	教師	そしたら、今、レジ袋の削減という話もよく出ています。
0:19:25	教師	ね、えっとぉ、この冬場、あったかいもん、冷たいもん、を買うと、えぇ、お店の人は、別に入れようとしてくれます。
0:19:37	教師	ね、で、そのレジ袋をね、一つ、一緒でいいよとか、レジ袋、自分で袋持っとったら、袋いりませんよと、そういうことが、ちょっとのことですけど、あのぉ、環境に優しい･･･、ね。
0:19:58	教師	先程あったエコに繋がるということですね。
0:19:59	教師	はい。
0:20:00	教師	はい、えぇーとね、じゃ、えぇと、まぁ。
0:20:02	教師	こうやってゴミを分別して、じゃ、どう処理していくか、という方に話は行きますけど、あのぉ、ゴミ処理、ね、えぇ、ゴミ処理というのは、えぇっと、････、どれぐらいお金がかかっていると思いますか。
0:20:23	生徒	一千万円。
0:20:24	教師	一千？うん？
0:20:25	教師	(板書を消す)
0:20:27	教師	(10,000,000円と板書する)
0:20:37	教師	一千万。これ。一千万て、ええと、全体で。
0:20:42	生徒	なぁん、加賀市で。
0:20:43	教師	加賀市で。(笑い)
0:20:46	教師	(黒板を消しながら)あぁぁ、難しいな。
0:20:47	教師	加賀市でやったら、次、資料ないしな。
0:20:48	教師	加賀市。
0:20:50	生徒	全体で。
0:20:51	教師	日本でどのぐらいやと思う。
0:20:58	生徒	３００億。
0:20:59	教師	300億。(板書する)
0:21:03	教師	他に？誰か、どれぐらいって、一年間にどれぐらい掛かっているかね。
0:21:07	教師	いつも、もっと、声、でるやん？声出してくれ。
0:21:13	生徒	５００億。
0:21:15	教師	500億。(板書する)
0:21:23	教師	他、ないかな？
0:21:26	生徒	８００億。
0:21:27	生徒	競りじゃない。
0:21:28	教師	競りじゃないんだから。(800億と板書する)
0:21:30	教師	競りじゃない、オークションじゃないんだから。(笑い)
0:21:33	生徒	一兆ぐらいいいと思いますよ。
0:21:34	教師	一兆。(板書する)
0:21:35	生徒	過激や。
0:21:37	生徒	落札や。
0:21:40	教師	なんか、この辺で落札ですか？

資料４－１

時刻	話者	発話
0:21:41	生徒	はい。
0:21:42	教師	はい、はい、ええと、資料がある答えを言うと、みんなビックリしますよ。
0:21:51	教師	2004年の･･･。(2004年と板書する)
0:21:51	生徒	ちょっと古いですね。
0:21:53	教師	結構、うん･･･。
0:21:54	生徒	ちょっと古いですね。
0:21:48	教師	うん、すいません。
0:21:56	教師	えぇ、総額、2兆、えぇ、2450億。(2兆2450億と板書する)
0:22:00	生徒	ほぉ。
0:22:04	教師	ゴミ処理費用に、日本、ね、国家、国家で、2兆2450億円。
0:22:13	教師	これ国家予算の3%。(3%と板書する)
0:22:14	生徒	でっかぁ。
0:22:18	教師	･･･を費やしている。
0:22:19	教師	で、これ、人口で割ったら、どんだけになると思う。
0:22:21	生徒	一億三千･･･。
0:22:27	教師	一億5千万ぐらいやとして、まぁ、これね、一人あたりにすると･･･。(一人あたりと板書する)
0:22:30	生徒	一万ぐらい。
0:22:34	教師	えぇと、12500円。(15200円と板書する)
0:22:39	教師	ね、えぇ、ゴミ処理に、まぁ、年間ですけど、一人頭、15200円。
0:22:49	教師	ね40人やと、60万。ここで(教室内の生徒を指して)、60万、ゴミ処理に、お金かかっとる。
0:22:55	教師	どう思います。
0:22:56	生徒	ちょっと、むだ。
0:22:58	教師	ゴミ処理、にやぞ。
0:23:00	教師	一人、ゴミ処理、ね、あぁ、この、税金を使わんかって、自分で全部したら、一人に15000円入れんぞ。
0:23:09	生徒	マジで。
0:23:10	教師	そういうことや。
0:23:11	教師	どう思いますか。
0:23:12	教師	使いすぎ、かかりすぎやと思いません？
0:23:15	生徒	今、自分で、ゴミ燃やせんがじゃないが。
0:23:16	教師	今はね、そうものは燃やせないですけど、まぁ、ゴミ処理に、えぇ、お金もゴミと消えている、ね。
0:23:25	生徒	ほぉー。
0:23:26	教師	そういうふうに、まぁ、無駄遣いを、無駄ね、そういうふうにいわれている。
0:23:31	教師	ええぁ、で、これを少しでも減らして、このかかったお金を、違うところへ、ね、福祉とか、ね、そういった所へ回せば、もっともっと喜ぶ人がおる。
0:23:43	教師	ね、そういうことを、えぇ、ちょっと、わかって欲しいと、いいか。
0:23:59	教師	いいね、本当に、あぁ、処理にお金がかかっとる、ね。
0:24:01	教師	そのところを今から、えぇ、教科書を読みながら、ちょっと進めていきます。いいですか。
0:24:09	教師	えぇっと、はい、えぇっと、94ページ、いいですか。
0:24:17	教師	えぇ、私たちが出したゴミは、焼却、埋立て、再資源化、飼料化、リサイクルなどによって処理されています。ね。
0:24:34	教師	えぇ、この、えぇ、大体こういうふうに処理されている。
0:24:46	教師	で、この中で、えぇ、80%、が焼却処分･･･。
0:24:47	教師	ゴミ処理の80%が、(ゴミ処理、80%、焼却と板書する)。
0:25:08	教師	80%焼却。
0:25:15	教師	これでね、何でかというと、えぇ、何でかというとね、燃やすと、重さが、まず10分の1。
0:25:16	教師	(重 1／10 と板書する)
0:25:30	教師	で、えぇ、体積。(体 と板書する)
0:25:35	教師	体積が20分の1(1／20 と板書する)
0:25:40	教師	こういうことになるので、その後、まぁ、燃やせば、灰が残るからね。
0:25:45	教師	その灰とか、後で処分せんなならん。

時刻	話者	発話
0:25:47	教師	そしたら、ただ、このまま埋立てにすると、えぇ、すごい空き地、ね、埋立て場が必要なわけで、えぇ、燃やすことによって、重さは10分の1、体積は20分の1というそういう利点があるので、まぁ、ほとんど焼却している。
0:26:06	教師	で、まぁ、なお、えぇ、病原性微生物、そういったものも焼却によって、死滅させることができる。
0:26:15	教師	という意味で、えぇ、そのゴミの内８０％を焼却処分している。
0:26:25	教師	ね、図1、ね、教科書の図1を見てください。
0:26:30	教師	７８．２％の人々が８０％位を燃やしている。
0:26:37	教師	いいこともあります。
0:26:38	教師	ただし、ここに問題点も、えぇ、あります。
0:26:40	教師	（左側から中央の板書を消す）
0:26:46	教師	燃やすことの問題点。
0:26:49	教師	（問題点 と板書する）
0:27:03	教師	えぇと、えぇ、その後読んでいきますよ。
0:27:05	教師	毎日大量に出しているゴミを減少させるには、・・・だけでなく、健康のために必要不可欠です。例えば、不適切な焼却はダイオキシンなど有害物質を発生させることになります。また不適切な埋立ては、異臭などや有毒ガスなどの発生、不衛生なハエ、ゴキブリなどの繁殖を引き起こします。
0:27:28	教師	ね、ここやね。
0:27:29	教師	まず、不適切な焼却、一つ目ね、不適切な焼却。（不適切な焼却→ と板書する）
0:27:49	教師	（ダイオキシン と書き足す）
0:27:56	教師	ダイオキシンね、問題、環境問題起こしているダイオキシン。
0:28:05	教師	えぇとぉ、大型の焼却炉、でかーい、本当の、公的な焼却炉なんかでは、結構、温度がばぁーって上がるんですけど、えぇ、小型の場合、高温にならない、生ゴミなんか、ボンボン、ボンボン、入れると、えぇ、高温にならない。
0:28:22	教師	そしたら、300度から500度の不完全燃焼の、この温度帯では、えぇ、ダイオキシンというのが、まぁ、発生しやすいっていわれています。
0:28:38	教師	でぇ、そのダイオキシンが健康問題を起こすというひとつの問題。
0:28:43	教師	でぇ、次に書いてあったのが、不適切な埋立て。（〃な埋立て→ と板書する）
0:29:00	教師	（異臭 ハエ ゴキブリ と書き足す）
0:29:14	教師	（ねずみ と書き足す）
0:29:18	教師	ね、えぇ、不適切な埋立てをすると、まぁ、そこに悪臭が漂ったり、有毒ガスが出てきたり、ハエ、ゴキブリ、そういったものが、の、繁殖を引き起こすと、そんな、えぇ、まぁ、ハエ、ゴキブリとかは、病原体をまき散らすといったとかね、そういったことにもなるんで、問題点があると。
0:29:54	教師	で、もう一つ。
0:30:00	教師	（多い排出量 と板書する）
0:30:15	教師	えぇっと、次のところ、ね、読みますよ。
0:30:16	教師	近年、日常生活から排出されるゴミの量は、ほぼ横ばい状態ですが、最終処分場の残された容量から見て、処理の限界は確実に近づいてきており、ゴミの排出量を抑えることが求められております。
0:30:30	教師	ね、最終処分場、えぇ、ニュースでも見たことがあると思います。
0:30:34	教師	無人島、ね、そこ、最終処分場にして、住民問題が起こったり、そういったこともあると聞いたことがあるともいますけど、最終処分場、えぇ、埋立てとかね、捨ててゴミの山になるとか、そういうことやな。
0:30:48	教師	そういうところが限界に来ている、ということね。
0:30:54	教師	で、ええとぉ、1日、あ、ごめんなさい、1年間、で、どれぐらいのゴミの量が出ている、これもさっきの何億、何兆じゃないけど、お金かかっとっかと一緒やけど、どれぐらいだと思います。
0:31:10	教師	想像もつかんよね。
0:31:13	教師	1年間、で、どんだけのゴミの量が出ているか。
0:31:16	教師	これ、多分数字言うても、どれぐらいの量か、多分、考えもつかないと思います。
0:31:26	教師	えぇと、これは2003年の資料ですけど、えぇと。
0:31:33	教師	（5161万t と板書する）
0:31:36	教師	５１６１万トン。
0:31:41	教師	言われても、想像つかんね？

資料４－１

時刻	話者	発話
0:31:44	生徒	例えばないけ。
0:31:45	教師	そう、例えば、例えします。
0:31:47	教師	はい、ね。
0:31:48	生徒	例え。
0:31:49	教師	例え、東京ドーム？（笑い）
0:31:50	生徒	それ、ない。
0:31:51	生徒	絶対ない。
0:31:53	教師	東京ドーム何個分？
0:31:56	教師	例えます、さぁ、５１６１万トンは、東京ドーム何個分でしょ？
0:32:00	教師	これも想像つかんよね。
0:32:02	教師	１３９杯分。
0:32:07	教師	東京ドームが１３０、１５０個近く、全部、ゴミで埋まる。
0:32:11	生徒	東京ドームみたことないもん、分からん。
0:32:13	教師	東京ドーム見たことないけ？
0:32:15	生徒	先生、もう一つ例えないけ？
0:32:16	教師	ちょっと、ダメやな。
0:32:18	教師	東京ドーム5万人入るげんし、小松ドームの･･･。
0:32:21	生徒	先生、ゴミ袋がどんだけ入るがってないが。
0:32:22		（笑い）
0:32:23	教師	暗算できません。すんません。
0:32:26	生徒	東京ドームの重さながですか。
0:32:30	教師	東京ドームの容積の１３９杯分。
0:32:34	生徒	先生、そんな、東京ドームのでかさ、どれだけですか？
0:32:35	教師	だから、小松ドームの･･･、
0:32:36	生徒	小松ドーム行ったことないです
0:32:36	教師	3倍ぐらい、じゃないかな？（笑い）
0:32:37	生徒	どんどん、分からんくなってくる。
0:32:40	教師	どんどん、分からんくなってくる？（笑い）
0:32:43	生徒	ホークスの･･･。
0:32:46	生徒	東京ドームって、ヤクルトスワローズのグランドじゃん。
0:32:54	生徒	だったら、こっちの方がわかりやすい。
0:32:56	教師	あっ、修学旅行でいったん？
0:32:57	教師	福岡、ヤフー、ヤフースタジアム？
0:32:58	生徒	あそこ、何個分や？
0:32:59	教師	東京ドームとほぼ一緒やろ、だから、１３０、何杯分じゃない。
0:33:00	生徒	ほぉー。
0:33:01	教師	たぶんね。
0:33:06	教師	ちょっと、うぅーん、確実な数字は分かりませんけど、まぁ、それ位でかいと･･･。
0:33:12	教師	だから、そういうゴミがね、1年間に貯まっていく、ね、その処分する場所が、まぁ、限界に来ていると、だから、じゃ、どうするかということやね。
0:33:20	教師	それを考えてゆかないかん。
0:33:22	教師	こう、限界に来て、もう出せんがんなってから、考えていたんじゃ、遅いんで、まぁ、そういうところをしっかり考えてゆく。ね。
0:33:32	教師	はい、えぇ、で、その下、読んでいきますけど。
0:33:36	教師	そのためには、例えば、無駄なものは買わない。繰り返し使える製品を選ぶ。製品を長く使う。などの日常生活の配慮が欠かせません。一方、製造者や生産者には、ゴミの出にくい製造法を開発したり、リサイクルしやすい製品を幅広く開発することが求められています。
0:34:00	教師	ここね、君らも、えぇ、こういうもの使っていると思います。
0:34:07	教師	まぁ、無駄なもの買わないというのはそうやね。
0:34:11	教師	で、例えば、あぁ、どうかな、今、先生がパッと思いつくのは、例えば、この、こんなボールペンな。（ボールペンを胸から取り出し、示す）
0:34:18	教師	ボールペンて、外側はそのまま使って、中側だけやろ。
0:34:26	教師	中側、替え芯とかな、そうやって使ってるね。
0:34:28	教師	だから、えぇ、無駄遣いやと思えば、空になったら、このまま、ポイと捨てれば、この外側が無駄になる。

資料４－１

時刻	話者	発話
0:34:35	教師	ね、使えるものは使う。
0:34:37	教師	そういうことやね。
0:34:38	教師	で、えぇ、ゴミの出にくい製造法、うん、これは、まぁ、製品の設計段階、そういったところから、多くの部材を再生利用できるように、えぇ、作ると。
0:34:54	教師	君らが将来、ものづくり、ね、就職して、そういうときにも、そういうこと考えていると思います。
0:35:02	教師	な、で、まぁ、あのぉ、なんていうかな、例えばこういう（筆箱を示しながら）、こういう材料があった、ね、これには鉄がどんだけ使わな強度が保てない、それをいかに、薄く、同じ強度を保つかという、そういう設計とかね、えぇ、そういう構造計算とか、そういうところを、で、結局、もの、使うものを減らしていくということが、今、企業では考えられている、ということやな。
0:35:44	教師	で、えぇとぉ、次には、回収されたゴミが有効に利用、ゴミの再利用、えぇ、資源化、ね、そういった、されるための社会システムの整備や個人の努力が必要です。空き缶、ガラスびん、プラスチックなどの分別収集を促すための容器包装リサイクル法・・・。
0:36:05	教師	これ聞いたことあるね。名前ぐらいは。容器包装リサイクル法。
0:36:09	教師	（教科書の続きを読む）制定はその一例です。
0:36:12	教師	で、今やったら、えぇと、新しいが、何やったいや、車のやつ。
0:36:20	教師	ちょっと待って。（教科書を調べる）
0:36:31	教師	あとね、えぇ、どんなもんがあるかというたら、容器包装法の他に、家電リサイクル法とかね、えぇ、そういったものもあります。
0:36:36	教師	ええっと、まぁ、車のやつやったら、もう、廃車するときのお金を、先にとっといて、さぁ、なんていう法律やったいや。（調べる）
0:36:47	教師	ごめん忘れた、今度までに、今度何曜日や、えぇ、見ときます。
0:36:55	教師	そういった法、法律も今できています。
0:36:56	教師	はい、えぇ、で、えぇと、どこまで行ったいや。
0:37:06	教師	で、まぁ、リサイクル商品を積極的に開発、流通、購入するなど、その責務を果たす必要がある。
0:37:12	教師	ね、ここまでですけど、あのぉ、リサイクル商品、例えば、古紙１００％のトイレットペーパー、な、そういったもの。
0:37:21	教師	ペットボトルでできた、えぇ、さっきも言うたけど衣料品、ね、そういったもの。
0:37:28	教師	で、あと、内なら、内、内って、この学校ならではのことあるよね。（黒板を消す）
0:37:33	教師	内もそういうことやっているよね。
0:37:36	教師	エコに関して、えぇ、君らは、えぇ、ここ違うけど、マテ科、マテリアル科で、廃油からね（廃油 → と板書する）
0:37:54	教師	廃油から何作っとるんやった？
0:37:59	教師	この間も、テレビでもやっとったやろ。
0:38:00	生徒	石けん。
0:38:00	教師	うん、石けんな、石けん（石けん と板書する）
0:38:04	教師	もう一つ？
0:38:09	生徒	ガソリン。
0:38:10	教師	うん？
0:38:11	生徒	ガソリン。
0:38:11	教師	ガソリン？おしい。
0:38:15	教師	廃油から軽油を作っている。
0:38:16	教師	BDFていう、なんか、軽油って（軽油 と板書する）
0:38:24	教師	ね、この学校、素晴らしい。
0:38:27	教師	そういう、廃油から、こういうことをしています。
0:38:29	教師	ね、まぁ、出前授業で、この間もやっとったね、中、えっ？小学生？小学生らに、油からね、石けんを作るの教えて、ね。
0:38:42	教師	ああいったことを、えぇ、まぁ、この学校でもやっているし、まぁ、えぇ、世の中で、いっぱいいろんなところで、そういうことを、今、たくさん取り入れて、原材料がね、限られているので、えぇ、そういうところを減らしていくという、そういう話になっている。
0:39:06	教師	でぇ、今日、先程、えぇ、ゴミの燃やすところでね、ダイオキシンの話が出ました、出しましたけど、えぇ、ダイオキシンというのは、発がん性物質、が含まれている、毒性の塩化化合物、有機塩化化合物という、塩素、有機塩素化合物、ね。
0:39:30	教師	で、えぇ、問題になっている。

資料４－１

時刻	話者	発話
0:39:35	教師	これは、まぁ、どんなもん言ったら、さっきも言うたけど、低温でね、300度から500度の不完全燃焼で起こる。
0:39:47	教師	食品ラップや、えぇ、消しゴム、塩化ビニルのおもちゃ、そういったものを燃やすと出やすいというふうに言われています。
0:39:56	教師	ね、なるべくそういう原材料でも使わないように、ね、代替え品を、えぇ、使っていこうとか、買おうとか、そういったことをしています。今ね。
0:40:12	教師	そしたら、えぇと今からプリント分けます。（プリントを配布する）
0:40:31	生徒	先生、先生。
0:40:32	教師	はん？
0:40:33	生徒	ビニルのおもちゃってどんなんですか？
0:40:37	教師	あのぉ･･･。
0:40:38	生徒	人形とか。
0:40:38	教師	人形、あのぉ、お前ら、ここに、前飾ってあったあれ、ビニルでないが。
0:40:48	生徒	捨てるな。
0:40:51	教師	ああいうもんやと思う。
0:40:53	生徒	ビニル袋。
0:40:55	生徒	醤油の･･･。
0:41:05	教師	はい、プリント、分けて。
0:41:10	教師	えぇっと、これ、ね、先程からちょっと話になっている、えっと、まず、･･･、まず、こっち、えっと、グリーン購入法とか書いてあるところ、が、えぇ、循環型社会というのを、イメージ、イメージした、えぇ、いろんな法律とかを定めて、今後、えぇ、いいようにして、いいようにしていこうとか、ね、環境負荷を少なくしていこうというのが、これいろんな法律がありますよ、とかが書いてあります。
0:41:43	教師	（模造紙を貼る）
0:41:49	教師	その裏はこれです。
0:41:56	教師	はい、ね、えっと、次の、裏の方は、あぁ、えっと、今話をしていた、えぇ、イメージを、えぇ、これを図にしたものですね。
0:42:08	教師	でぇ、まず、あのぉ、（黒板にはった図を指しながら）資源を投入する、ね、こっからこう流れてきて、最終的には、もういらんがんなったら、埋立てをするしかないんですけど、この他の矢印、（サイクルしている部分を指しながら）こういう矢印を通して、えぇ、少なくものを使っていこうということやね。
0:42:28	教師	で、ここに、ここに、一つ言葉が入る。
0:42:31	教師	で、ここの空白やね。
0:42:34	教師	さぁ、ここはなんや？
0:42:36	教師	今日の授業のところで、えぇ、まぁ、分かると思うんですけど。
0:42:44	教師	ここ、製造、流通をまとめて、まとめてというか、その原材料から、消費の前。
0:42:56	生徒	商売、商売。
0:42:58	教師	うふん、商売。
0:42:59	教師	商売って、何かせんな、商売できんな。
0:43:06	教師	弱ったな、はい、ここには、生産。
0:43:12	教師	生産（空欄に生産ということばを入れる）
0:43:19	教師	で、作られたものを消費、使用してきて、使用して、終わったら、（手で捨てる振りをする）
0:43:25	教師	これ、なんていう。
0:43:26	生徒	廃棄。
0:43:27	教師	おう、廃棄やね。廃棄する。（空欄に廃棄と入れる）
0:43:34	生徒	もっとない？
0:43:36	教師	ごめん、気にせんでくれ。
0:43:38	教師	で、これが、ここで処理、廃棄物をまた資源にこう戻る、リサイクル、ね。
0:43:51	教師	で、空の、例えば、ビンとかね、もう一回使う、再使用。
0:44:00	教師	で、今、こういう、発生抑制、使えるものでも、捨てない、捨てていないだろうか。
0:44:09	教師	こう、作るときに、端っこが余っている、そういったものでも、いろいろ使うことできないだろうか、大事に長く使うことが大切だ、と。
0:44:20	教師	ね、こういう循環をさせることによって、えぇ、まぁ、資源を、長持ちさせよう、というのが、こういうのが大切。

資料４－１

時刻	話者	発話
0:44:29	教師	で、一番最終的にね、さっきもいうたように、あのぉ、焼却処分しても、灰を、まぁ、埋め立てたりするわけですけど、そこまで行けば、しょうもないけども、処分するものはどうしても使えないものなのかどうか、その際に、適切な処分を行う。
0:44:47	教師	さっきもいった中途半端な処分で、次の公害問題起こしたり、そういったことのないように、てところが、今日のポイントですね。
0:45:00	教師	(前列の生徒のノートを確認する)
0:45:04	教師	(時計を確認する)
0:45:12	教師	えぇとぉ、まぁ、今日のやるところは、ここまでなんですけど、まぁ、ゴミ処理の過程ってのを、簡単に説明できるとかね、それ位になったかな。
0:45:37	教師	(前列の生徒と話をしながら、時計を確認する)
0:45:48	教師	はい、そしたら、えっと、ノートの所、えぇ、ちょっと、まだ、あと、1分2分ありますから、ノートを、の、えぇ、穴埋め等をさっとしたら、やってください。
0:45:49	生徒	(課題をこなす)
0:46:32	教師	(机間指導を行う)
0:46:46	教師	(教卓上の資料を整理する)
0:47:00	教師	(机間指導を行う)
0:48:25	教師	はい、ほしたら、まぁ、ノートまとめながら、ね、えぇっと、今日ね、まぁ、あのぉ、授業の中で、えぇ、途中で、あのぉ、ルール、マナー、ね、えぇ、ゴミ出しのルールとかね、そういったことから、なんか、あのぉ、公共心を養ってね、人のため、えぇ、人に迷惑掛けないようにとか、ね、そういったことを、一人ずつが考えれば、えぇ、よりよい、えぇ、学校、社会、等になっていくので、えぇ、今日やって、少しは、えぇ、考えたことを実践していってください。
0:49:02	教師	ね、えぇ、簡単なことやね、ほんとに自分のゴミ、ね、えぇ、捨てるときに、ちょっと考えればいいことです。
0:49:12	教師	で、それが、えぇ、だんだん広まっていけば、例えば、ゴミ落ちとらん拾ってあげる、ね、それだけとか、そういうことでも、十分です。
0:49:24	教師	まぁ、世の中にはいろんな人がいるんで、えぇ、ね、たばこをポイ捨てする人とかもね、いますけど、そういうの、悪い例は、いずれ、人のふり見て我がふり直せ、えぇ、しっかり自分にあてはめて、自分はそんなことしてないだろうか、そういうことを考えてね、えぇ、まぁ、今後、えぇ、していってください。
0:49:47	教師	このクラスの、えぇ、来週ぐらいの美化コンクール。
0:49:56	生徒	そんなんあるんですか。
0:49:57	教師	うん。
0:49:58	教師	まぁ、楽しみにしています。
0:50:05	教師	(時計を確認する)
0:50:19	教師	(机の上を整理する)
0:50:20		チャイム
0:50:24	教師	はい、来週、M1君、M2君、Y1君、頼むよ。忘れんとね。
0:50:32	教師	はい、終わろう。
0:50:32	生徒	起立。
0:50:41	教師	はい。
0:50:42	生徒	礼。

授業記録［ロングホームルーム（道徳Ⅰ）］

時刻	話者	発話
0:00:01		開始チャイム
0:00:09	教師	はい、それじゃ、始めましょう。
0:00:10	生徒	起立
0:00:11	教師	はい
0:00:16	教師	はい
0:00:17	生徒	礼
0:00:18	教師	こんちはーす。
0:00:19	生徒	こんにちはー。
0:00:22	教師	はい、今日は、このクラス、3度目の研究授業です。
0:00:23	教師	今日は、合場先生のロングホームで、道徳ですので、また工業祭の時みたいに協力してよろしくお願いします。
0:00:30	教師	えぇー、それじゃ、最初に出席とりますね。
0:00:31	教師	（呼名し、生徒の顔を確認する）
0:00:32	生徒	（手を挙げて返事する）
0:01:37	教師	はい、それじゃね、えぇと、今日はまた、この間に引き続いて変わったお話を用意してきたんやけど、今日のはいつもと違っていい話ではありません。
0:01:46	教師	はい、ちょっとウオーミングアップでね、世界でね、ちょっと事件が起こっておりますけども、世界中で今事件が起こった、何か、知っとる人？
0:01:56	教師	どうでしょうか？
0:01:57	生徒	テロ。
0:01:59	教師	テロやな。
0:02:00	教師	テロが起こっております。
0:02:02	教師	えぇ、インドやたっけ、インドとか、インドの･･･、なんちゅうとこやったっけ？
0:02:08	生徒	円安
0:02:09	教師	円安もあるね。
0:02:12	教師	円高、円高やな。
0:02:13	教師	は、は、は。（笑い）
0:02:18	教師	円高やな。
0:02:20	教師	円高のあおりで、世界不況やけど、日本は不況ちょっと遅れてきそうですけど、まぁ、インドとか、タイの方で事故が起こって、100人ぐらい何かテロで亡くなったって、恐ろしい話がニュースが出ています。
0:02:32	教師	えぇ、まぁ、身近ながでいうと、皆んな、救急車乗ったことあったり、救急車呼んだことあったりとか･･･。
0:02:38	生徒	ある。
0:02:39	教師	ある？救急車乗ったん？
0:02:40	生徒	弟。
0:02:42	教師	弟が救急車乗ったん？
0:02:44	生徒	交通事故で。
0:02:45	教師	交通事故で？
0:02:46	教師	弟さんが、交通事故で･･･。
0:02:51	生徒	あ、違う、ゆっくり走っとっただけや、時速20キロぐらい、車に、ぶつかったとき･･･。
0:02:53	教師	けど、救急車呼んだん？
0:02:54	生徒	うん。
0:02:55	教師	救急車、すぐ来たけ？
0:02:55	生徒	はい。
0:02:56	教師	救急車、乗ったことある人？（挙手するよう促す）
0:02:57	生徒	はい。
0:02:58	教師	おっ、I1君、何やったけ？
0:02:59	生徒I1	えっ、小1のころ、自転車で事故った。
0:03:02	教師	自転車事故？
0:03:04	教師	N先生は？
0:03:05	教師N	僕は、女房が、目を、バトミントンのラケットで、粉々にあたって、メガネが割れて･･･、はい。
0:03:11	教師	粉々に･･･。
0:03:14	教師	その後は、大丈夫やったんでしょうか？

時刻	話者	発話
0:03:15	教師N	お陰様で。
0:03:16	教師	生徒M1は？
0:03:17	生徒M1	事故。
0:03:19	教師	事故？交通事故？
0:03:20	教師	飛び出したん？
0:03:20	生徒M1	うん。
0:03:21	教師	先生も、あの、小学生の頃、二回ほど飛び出してね、救急車乗らんかったけどね、全部俺が飛び出して交通事故に遭いました。
0:03:27	教師	先生も救急車呼んだことあるんやけども、目の前で事故が起こって、目の前でね、本当に事故が起こって、えぇ、119押すのに、携帯で、二回失敗しました。
0:03:38	教師	119、三個の数字押せなくてね、もう、手が震えて、目の前で、大事故やったもんでね、三回目で、救急車すぐ来たんですけども、今日は救急車がすぐ来なかったお話になります。
0:03:50	教師	えぇ、それでは、えぇっと、えぇ、資料、分けますね。
0:03:53	教師	救急車がこなかったお話、ね（資料を配る）
0:03:58	教師	いつもと違って、いい話じゃありません。
0:04:01	教師	今日は、ね、さらに、いつもよりもね、なんていうかな、みんなでなんていうかな、他の人の意見聞いて、なんか、自分もね、あのぉ、他の人とちょっと意見をぶつけるような勢いで、やってくれたらなぁと思います。
0:04:43	教師	えぇ、題はね、この子のために、ということで素敵な題なんですけど、話はちょっと、ちょっと悲しい話です。
0:04:52	教師	（この子のために と板書する）
0:05:02	教師	はい、それじゃ、あの、えぇ、先生読みながら行きますが･･･、マイペースで読んでいってください。
0:05:06	教師	はい、この子のために、（生徒の様子を確認する）えぇ、（以下、資料を読む）、この話は、傷害事件を起こしたジョーンズ氏の裁判の記録に基づいている。下町の裏通りに向かい合って古びた5階建てのアパートが並んでいる。日曜の朝は表通りと違って、裏通りには車の影もほとんどなく、ときおり、遠くの方で子どもたちの声が聞こえてくる。突然、その静けさを突き破るかのように、ただならぬ悲鳴がこだました。「ぎゃー！痛いよー！」息子のマイクが、部屋を走り回って遊んでいるうち、足をとられて、暖房のさくで胸に大けがをしたのである。
0:05:53	教師	ストーブの何か柵かね、鉄製かなんか細い鉄の棒が組み合わさっているんですかね。
0:06:00	教師	えぇ、胸に大怪我をしたのである。（以下、続けて資料を読む）、流れ出る血のため、着ている服もズボンも靴もみるみる真っ赤に染まった。マイクは泣き叫んで、ついに気を失ってしまった。両親は驚き、とりわけ母親はマイクが死んだものと思い、取り乱し、おろおろと泣きだした。父親のジョーンズはマイクに息があることを確かめると、･･･。
0:06:30	教師	すぐ、救急車を呼ぼうと電話をした。119番。
0:06:32	教師	（以下、続けて資料を読む）、すぐ救急車を呼ぼうと電話した。しかし、あいにく救急車は交通事散の処理のために出はらっており、少なくとも30分は待たされると告げられた。救急車を待つよりタクシーの方が病院に早く連れて行けると考えた彼は、マイクを抱きかかえ急いで階段をかけおり、表へ出てタクシーをひろおうとした。しかし、運悪くタクシーは走っておらず、マイクの出血はますますひどくなるばかりだ。
0:07:10	教師	そのとき、父親は、とおりの向う側の路肩で止まっている。路肩、道路の端っこの方ね。
0:07:12	教師	（以下、続けて資料を読む）そのとき、父親は通りの向こう側の路かたで止まっている車に気が付いた。彼はマイクを抱いたまま、その車にかけより、運転手の男に病院に連れて行ってくれるように頼んだ。しかし、「大切な仕事の打ち合せで人を待っているところだから、助けたいがそれはできない」と、その男らも断わった。そこで、「それなら車を貸してもらえないか」と言うと、その運転手は「見ず知らずのあなたに大事な車を貸すわけにはいかない」と答えた。
0:07:47	教師	（以下、続けて資料を読む）迷ったあげく、ジョーンズは、妻にマイクを引き渡すと、いきなりその男を車から引きずり出し、抵抗する男をおもいきりなぐりつけた。そして、キーを取り上げると、車を運転して病院に息子をかつぎ込んだ。なぐられた男は、その後、警官を連れて病院まで追いかけてきた。警官は、ジョーンズを車の窃盗と暴行の罪で逮捕したのである。
0:08:20	教師	ということで、救急車がね、来なかった話。
0:08:23	教師	ね、あのぉ、ニュースにもなっています。

資料４－２

時刻	話者	発話
0:08:27	教師	救急車、救急車ね、あのぉ、簡単ながで呼んで、救急車が本当に欲しいときに来ないことね。
0:08:33	教師	あとぉ、救急車乗ったけど、病院側で、断られるという事件もね、最近よくあります。
0:08:39	教師	消防車も、何分に一台が出ているそうですけど･･･。
0:08:43	教師	あの、知り合いで、知り合いでというか、学校の関係者の、ね、消防車が来るのに時間かかってね、お家、全焼してしまった、先生もおります。
0:08:52	教師	はい、今、立派な家、建ってますけどね。
0:08:56	教師	はい、えぇ、ということで、お父さんは、マイク救けるために、救急車呼んで、タクシー拾おうとしてんけども、えぇ、あいにくのあいにくで、で、一台だけね、近くに止っとる車見つけて、乗せてってーとお願いしたんやけども、残念ながらね、えぇ、断られてしまった。
0:09:16	教師	で、迷って、迷って、迷っててい いうかね、えぇ、結局、その車を奪ってね、乗せてった、という。
0:09:27	教師	この子のためにというタイトルなんやけども、こんな話でね、えぇ、もし、自分がそんな場面に遭うたら、いったいどうするかなぁて、先生も、すごい悩んでしまうような話なんですけども、今日は、皆に、自分がそんな立場になってしまったら、一体どういう行動とれるかな･･･。
0:09:50	教師	本当にね、周りに、他の車おったり、他の人おりゃ、一番いいんやけども、どうしようもない状況かもしれない。
0:09:55	教師	なんか、いいアイデアあったら欲しいけども、もう、この文章読むかぎりね、本当にどうしようもなかった状況なんかなと、というような話なんです。
0:10:04	教師	なんか、話について、質問ないかな？
0:10:06	教師	どんな状況か、わかったかな？
0:10:08	教師	(生徒の間に入る)
0:10:18	教師	えぇ、じゃ、一応、確認のためにね、状況を把握してみたいと思います。
0:10:21	教師	えぇ、それでは、あのぉ、ランダムで当てますね。
0:10:25	教師	はい、えぇーと、では、K1君。
0:10:32	教師	えぇー、ジョーンズさん、お父さんね、お父さんはいったいどんな悪いことをしてしまったでしょうか？
0:10:39	教師	一応、立って。
0:10:40	生徒K1	車を奪った。
0:10:45	教師	車を奪った、どうやって奪った？
0:10:50	生徒K1	殴って･･･。
0:10:51	教師	はい、ありがとう。
0:10:52	教師	ね、ジョーンズさんは、殴って、傷害やな、えぇ、暴行、そして、車盗った、窃盗やな。
0:11:03	教師	(ジョーンズ と板書する)
0:11:09	教師	えぇ、最後ね、これ裁判の話、裁判、ね。
0:11:13	教師	(さん(父) と書き足す)
0:11:17	教師	えぇと、･･･、暴行と、えぇ、窃盗(暴行･窃盗 と板書する)
0:11:41	教師	えぇ、でも、まぁ、ジョーンズさん迷った、迷ったあげくって書いてあるげんけども、えぇ、どういったことを、迷ったと思いますか？
0:11:49	教師	一応、話のね、確認な、どんなことを迷ったでしょうか？
0:11:53	教師	えぇー、あてていいか、はい、えぇ、それでは、えぇ、S1さん。
0:12:02	教師	お父さん、どんなこと迷ったかね？
0:12:05	教師	どうぞ。(起立を促す)
0:12:09	教師	うん、お父さんね、迷ったあげく、暴力ふるってしまったって書いてあるけど、どんなこと迷ったと思いますか？
0:12:14	生徒S1	･･･、車を･･･。
0:12:22	教師	うん、車を奪う？ね
0:12:23	生徒S1	･･･、
0:12:25	教師	なんでや、車を奪うか、なんで迷ってんろ？
0:12:30	生徒S1	･･･(首を傾げる)
0:12:34	教師	普通･･･。
0:12:35	生徒S1	救急車来ん･･･。
0:12:36	教師	救急車来んだしな。
0:12:39	教師	でも、車、奪うか、迷うわな、奪ったらダメやわな、基本的にな。

資料４－２

時刻	話者	発話
0:12:42	教師	はい、ありがとう。
0:12:44	教師	迷うわね、車、奪うということには、かなりのためらい、ね、それも、殴ってやからね。
0:12:48	教師	えぇ、かなりのためらいがあったと思います。
0:12:51	教師	非常に迷ったと思います。
0:12:54	教師	(非常に迷った と板書する)
0:13:04	教師	迷ったと、普通、普通、車、盗れんよな。
0:13:06	教師	ほんな、盗れんけど、子どもが今にもね、ほんとに出血が、ということで、迷って、迷って、こんな行動に出たんでないかなと。
0:13:18	教師	えぇ、ほしたら、一応、運転手さん、あのぉ、そこにたまたまおった、運転手さんについて、ちょっとね、えぇ。
0:13:27	教師	少し、運転手さんの身にもなって考えてみよう。(運転手さん と板書する)
0:13:37	教師	はい、じゃ、あのぉ、今日、あのぉ、最後、ジョーンズさんになってもらうがんやけど、ちょっと一瞬、運転手さんの立場になってね、皆運転手さんでね、あのぉ、そのぉ、子どもを抱えて(子どもを抱えて振りをしながら)、連れてってくれーて言われたら、運転手さん、自分が運転手さんやったら、どうしそうですか？
0:13:53	教師	どうしそうですか？ね。
0:13:55	教師	えぇ、ちょっと、聞いていいか？
0:13:57	教師	はい、えぇ、そしたら、ええとぉ、じゃ、T1さん。
0:14:00	教師	どうでしょうか？はい(回答を促す)
0:14:03	教師	あなたが運転手さんやったら、どうしたかね？
0:14:06	生徒T1	車を貸す。
0:14:10	教師	車を貸す、やぁ、やさしいね。
0:14:13	教師	ね、全く知らん、怖い、合場先生みたいな(背広の襟を立てて)怪しい人が来ても、貸してくれる？
0:14:16	教師	車を貸してくれる。
0:14:21	教師	車を貸したほうがいいがんないか。(車を貸すべき と板書する)
0:14:26	教師	(板書しながら)やさしい、すばらしい、ね、はい。
0:14:31	教師	他、どうでしょうか？運転手さん、運転手さん、なんか、悪いことしたかね？
0:14:34	教師	車、貸さん、貸さんかってんけど、運転手さん、なんか、悪いことしたかね？
0:14:41	教師	どんなもんでしょう？
0:14:44	教師	ぜひ、貸してほしいとこねんけどな、えぇ、貸さんかったからといって、悪いことしたわけにはね、罪には問われんかもしれんな。
0:14:50	教師	ね、えぇーっと、運転手さん、なんていったかな、運転手さん、なんていううんやったっけ？
0:14:58	教師	えぇと、(声高に)大切な仕事のうちあわせで、人を待っているところだから、えっ、大切な仕事、ね、あったそうねんけど、ええ、どんな仕事しとったんでしょう、ね。
0:15:11	教師	えぇ、簡単な仕事やったら、ね、ただ本当に暇つぶしでね、えぇ、誰かこんかなぁ、ぐらいやったらね、一緒に送ってった、と思いますけど、大切な仕事やちゅうから、よっぽどね、なんか、ひょっとしたら会社の命運を担いでおったんかもしれんしな(荷物を背負うしぐさをする)。
0:15:25	教師	実は、その、人の、ね、この仕事がうまくいくかいかんかでね、自分の家族がね、あのぉ、生きて、あのぉ、生活できるかね、できんか、生活がかかっとっかもしれん。
0:15:36	教師	運転手さん、実は、生活がかかったね(生活がかかっているかも と板書する)、かかっているかもてね、ような仕事やったんかもしれん。
0:15:50	教師	この文章からいくとね、なんかね、それほど重要でもないような、気するんやけど、ひょっとしたらね、まぁ、ほんとに･･･。
0:15:58	教師	あと、お父さん、ね、強面やったりしてね。
0:15:59	教師	わぁ、こんな人に、貸したくないなぁ、とかね。
0:16:02	教師	えぇ、なんか巻き込まれたくないなぁ、て気持ちがあったんかもしれません。
0:16:06	教師	はい、えぇ、それじゃ、誰かなんか、質問というか、意見というか、ジョーンズさん、運転手さん、でね、今出た話以外に何か、こんなこともあるんじゃないかということがあったら、教えてください。
0:16:16	教師	いいかな？(手をあげて意見を言うよう促す)
0:16:22	教師	はい、それじゃね、えぇっと、こんな状況で、えぇ、いいか？ね、しちゃいけんことねんけど、迷ったあげくにやちゃった、という話やな。

資料４－２

時刻	話者	発話
0:16:31	教師	えぇ、それを、もしも、えぇ、自分がジョーンズさんの立場になったら、いったい、どんな行動をとるやろ、とれるやろう、ていうのを今日は頑張って、考えて欲しいなていうことで、えぇ、お願いします。
0:16:45	教師	はい、それじゃ、ちょっとね、まず、自分の意見を、文章にしてくれますか？（プリントを配布する）
0:17:05	教師	なんか、この文読んで、何か思ったことあったら、なんか、言うていいぞ。
0:17:11	教師	皆にちょっというておきたいこと有ったら、･･･。
0:17:24	教師	じゃ、今日は、いつもよりね、じっくり時間をとってね、書いてもらいましょう。
0:17:30	教師	（机間指導する）
0:18:43	教師	（ジョーンズさんはどうすべきか と板書する）
0:19:10	教師	あのぉ、ほんとに、意見が分かれるとこやと思いますので、えぇ、自分やったら･･･。
0:19:30	教師	ジョーンズさん、主人公やけど、運転手さんの立場もあるし、マイク、息子のマイクの気持ちもあるわな。
0:19:39	教師	お母さんの気持ち･･･。
0:20:13	教師	（机間指導する）
0:23:20	教師	はい、出来た人、ちょっと待っとってね、まだ、書いている人ありますんで･･･。
0:23:24	教師	いろんな、ほんとに、すてきな意見がいっぱい、ほんとに、いろいろ、非常に個性が･･･。
0:24:10	教師	（机間指導を続ける）
0:24:52	教師	では、もうちょっと待ってね。
0:26:15	教師	よし、それじゃ、えぇ、発表、全部で行きますか。
0:26:20	教師	はい、えぇ、それでは、誰から行きましょう？
0:26:22	教師	えっと、まぁ、あのぉ、先程の順番の続きで行きますね。
0:26:28	教師	えぇ、それじゃ、えっと、あとでまたランダムになりますんでね、じゃ、T2君から行きましょう。
0:26:33	教師	はい、えぇ、もしも、あなたがジョーンズさんやったら、どうしたでしょう？
0:26:38	教師	お願いします。
0:26:39	教師	おっと、立って、皆に。
0:26:42	教師	えぇっと、今日はね、えぇ、発表者の意見をよーく聞いてね、また、自分の意見に、比べてみましょう。
0:26:56	生徒T2	親にとって子どもは宝です。その子どもが目の前で苦しんでいるのに、早く病院に連れて行けないなんて、これほど辛いことはないと思います。だから、自分も同じ立場だったら、ジョーンズさんと同じように行くと思います。
0:27:13	教師	普段、おとなしいT2君が、意外な、ね。
0:27:18	教師	えぇ、同じ、（同 と書き、それを消して、子どもは宝 と板書する）
0:27:34	教師	子どもは宝、ね。
0:27:39	教師	同じことをしたと思う。（同じことをしたと思う と板書する）
0:27:49	教師	はい、えぇ、ね、何人かその意見の人もおりました。
0:27:56	教師	じゃ、ちょっと、聞いてみますね、はい、N1君はどうでしょうか。
0:27:59	生徒N1	自分だったら、他の手段を考えると思います。相手の事情とかも、あるんで、いろいろ考えて、一番手段をとります。
0:28:11	教師	はい、ありがとう。
0:28:13	教師	他の手段がないかを冷静に考えるということやな。（他の手段を考える と板書する）
0:28:26	教師	N1、なんかあのぉ、パッとしたん、ちょっと、考えたんあらんけ？
0:28:28	教師	他の人に譲っていいけ？
0:28:29	教師	ね、えぇ、他の手段でて書いてくれた人、何人かおったかな、あと。
0:28:35	教師	ちょっと、あのぉ、まだ、順番でいきますね。
0:28:37	教師	はい、ジャ、N2君、どうでしょうか？
0:28:38	生徒N2	えっと、自分は、えっと、命が危険にもかかわっとるし、やっぱ、同じ行動をすると思います。
0:28:52	教師	あぁ、N2君も同じになるんじゃないかでした。
0:28:57	教師	えぇ、どうでしょうか？
0:28:59	教師	はい、じゃ、N3君。
0:29:09	生徒N3	自分だったら、タクシー会社に電話して、タクシー呼びます。
0:29:13	教師	タクシー会社に電話を･･･、さっきタクシーおらんかったよな（資料プリントを確認する）

資料４－２

時刻	話者	発話
0:29:16	教師	タクシー会社に電話や、タクシーならおるかもしれん。
0:29:19	教師	そういう文書なかったな（資料プリントを確認する）
0:29:21	教師	（タクシー会社 と板書する）
0:29:34	教師	なるほどな、タクシー、そこに、おらんちゅうけど、すぐ近くにおっかもしれんな。
0:29:38	教師	ああ、なるほど、気が付かんかってん、読んで。
0:29:42	教師	もう、全然、ダメかと思った。
0:29:43	教師	（タクシー会社の下に、に電話 と付け加える）
0:29:45	教師	そんなん、ありかぁ、て、人も、おりそうな意見ですけども、あと、何人かおったような気するな。
0:29:48	教師	えぇ、僕が読んどったときには、そんな、そこ、気がつかなかった、タクシー、おらんと、もう、思ってしまって、ね。
0:29:56	教師	なるほどな、タクシーの会社にね、電話したら、近くにおる、すぐ来れる、タクシー、おっかもしれんな。
0:29:58	教師	または、知り合いおっかもしれんね。電話でね、友だち、友だちおる人かな、友だちおらん人かな。
0:30:04	教師	ね、近所、隣近所ね。
0:30:08	教師	はい、えぇ、ということで、知り合いに電話とかね、タクシー会社。
0:30:13	教師	よし、じゃ、N4君、どうでしょうか。
0:30:16	生徒N4	ジョーンズさんと同じ行動を取るかもしれません。
0:30:23	教師	かもしれない。
0:30:24	教師	同じ行動を取るかもしれない。（同じ行動を取るかも と板書する）
0:30:38	教師	実際、その場面なってみんとわからんよね。
0:30:41	教師	そんな、ほんとに、究極の選択の場面なんてね、なかなか、訪れんこと、祈っとるけども。（しれない と付け加える）
0:30:48	教師	かもしれない。
0:30:51	教師	（小声で）わからんけどな。
0:30:52	教師	よし、じゃ、あのぉ、他の意見、なんかあるかな。
0:30:55	教師	せっかく、あのぉ、今日は、たくさんね、お客さんも、おいでているので、恩師に、晴れ姿を･･･。
0:31:01	教師	えぇ、じゃ、A1君、いってみようか。
0:31:06	教師	A1君はどんな意見でした。
0:31:10	生徒A1	えぇ、まず、一度状態を説明して、それでもダメなら、同じことをしていたかもしれない。
0:31:15	教師	あぁ。
0:31:17	生徒A1	人の命より大事なものはないと思うから、人としては、してはいけないことだけど、やっぱり助けるためにはしかたないと思います。
0:31:30	教師	はい、ありがとう、ね、人の命より大切なものはない、そのとおりや。（人の命より大切なものはない と板書する）
0:31:53	教師	まぁ、運転手さんを説得、ということやろね。
0:31:57	教師	（運転手さんを説得 と板書する）
0:32:10	教師	ほんとに、でも、ね、子ども抱いてね（子どもを抱く振りをしながら）、見て、ね、見せて、こういう状況やしね。
0:32:15	教師	それで、断られるって、どんな仕事の、待ち合わせやったんかね。
0:32:18	教師	はい、ということで、ひょっとしたら、同じ行動、とるかもしれない。ね。
0:32:24	教師	えぇ、それじゃ、N5さん。
0:32:39	生徒N5	他の人に頼む。
0:32:40	教師	他の人？近所の人とかね、周りの人とか、その後に書いてあったのがもぜひ。
0:32:47	教師	えぇっと、タクシー会社に電話。
0:32:48	教師	他に人に、あっ、他の人を探して、頼む。（他に人 と板書する）
0:32:56	教師	えぇ、頼む（を探して頼む と板書する）
0:33:09	教師	あっ、その次の。
0:33:12	生徒N5	えっ？
0:33:13	生徒N5	その次？
0:33:14	教師	うん。
0:33:15	教師	もうちょっと、書いてあったような気がしてんけど。
0:33:16	教師	うん？
0:33:18	生徒N5	（笑い）

時刻	話者	発話
0:33:19	教師	よろしいですか？
0:33:21	教師	じゃ、先生が代弁しますね。
0:33:22	教師	病院まで走っていく、気合い入ってましたね。
0:33:24	教師	ね、もう、ダメなら、走っていくんやな。
0:33:38	教師	抱えて走っていく。(病院までかかえて走る と板書する)
0:33:44	教師	命の続く限りやな。ね。続く限りやな。
0:33:48	教師	素敵な意見、ありがとう。
0:33:49	教師	はい、じゃ、あの、他に、何か、違う意見やーて人(挙手するよう促す)
0:33:54	教師	何人かおるような、気するんやけどぉ。
0:33:56	教師	どうですかね？
0:34:00	教師	それか、あのぉ、他の人の意見聞いてね、自分はこう思う、とか、あったら、お願いしまーす。
0:34:06	教師	(机間指導する)
0:34:11	教師	さぁ、そんなら。
0:34:13	教師	えぇ、順番、戻そうかな？
0:34:14	教師	はい、えぇ、じゃ、ね、もう何人かのね、意見を聞いてみたいと思います。
0:34:18	教師	はい、えぇ、そしたら、よぉーし、H1君、はい。
0:34:23	生徒H1	えっとぉ、同じことをしたと思います。
0:34:27	教師	えぇ、いろいろ書いてあったし、全部よんでくれ。
0:34:31	生徒H1	自分の子どもの命がかかっているのに、仕事の打合せがあるから無理などといわれたら、たぶん腹が立つし、それに、自分の子どもの命のことを思ったら、仕方がないと思うから･･･。
0:34:44	教師	ね、自分の子どもの命、ね。
0:34:49	教師	自分の子ども、ですね。(自分の子供 と板書する)
0:34:57	教師	ね、まぁ、先生も、あのぉ、子どもが二人おりますけど、女の子が二人、ね、N先生のとこ、女の子四人ですけども、えぇ、女の子二人、はじめて生まれた子ね、僕にそっくりねん、おっ、分身や、て、本当に、そっくりな顔でね、僕のちっちゃい頃、今じゃないぞ、僕の小さい頃そっくりでね、おぉ、同じ顔しとるーと思ってね、本当に分身ができたみたいに思いましたけど･･･。
0:35:20	教師	ほんとで、ね、この子のためなら、なんでもできるぞって感じですけど･･･。
0:35:23	教師	ひょっ、ひょっとする、その、運転手さんも、同じ状況やったりすると、ぉー、ね、どんな状況やったんかなと･･･。
0:35:32	教師	ひょっとすると、運転手さんも、ね、自分の子どもの命がかかるような仕事中やったりすると、な、同じ、立場になってしまうげんけど･･･。
0:35:41	教師	ね、ほんとに、自分のこと思うと、先生もね、ほんと、迷うと思います。
0:35:45	教師	はい、まず、聞いてみよう。
0:35:47	教師	えぇ、じゃ、M2さん。どうでしょうか？
0:35:49	生徒M2	同じことします。
0:35:52	教師	おぉ、同じこと？
0:35:55	教師	母親でも？えぇ、あぁ。
0:35:57	生徒M2	あのぉ、連絡先、教えます。
0:35:59	教師	連絡先？ああ、ほんで、えぇ、とりあえず車乗ってくし、ここ連絡してくれって、あぁ、はい、なるほど。
0:36:03	生徒M2	はい。
0:36:05	教師	車奪うけども、連絡先を教えると･･･。(車を奪う、連絡先を教える と板書する)
0:36:32	教師	はい、えぇーと、そしたら、じゃ、次は、M3君、どうでしょうか？
0:36:36	生徒M3	やっぱり、運転手さんも、仕事があるんで、やっぱり、金銭的交渉を、運転手さんとします。
0:36:46	教師	あぁーぁ、なんとリアリズム、ね、金銭的･･･、あとで、いくらいくら。
0:36:56	教師	なるほど。
0:37:01	教師	そやな、えぇー。
0:37:07	教師	(金銭的交渉 と板書する)
0:37:08	教師	ね、とにかく後で、どんだけでも、お礼すっし、と、そういうことやな。
0:37:14	教師	はい、えぇ、それじゃ、えぇっと、意表を突いて、順番を狂わして、○○○○君はどうやろ、K2君。
0:37:19	教師	いかがでしょうか？

資料４－２

時刻	話者	発話
0:37:21	教師	皆の意見も聞いたところで、どうぞ。
0:37:29	生徒K2	同じことします。
0:37:30	教師	おぉ、スー、ストレートやったね。
0:37:32	教師	はい、同じ行動取ったと思う、ね、自分の･･･。
0:37:39	教師	えぇと、それでは、どうかな、えぇ、なら、戻しますか、じゃ、M4君。
0:37:50	生徒M4	えっと、ほんとは、暴行も、窃盗も、ダメだけど、大事な息子の命を守るためなら、殴ってしまう。
0:37:56	生徒M4	もし、息子も、息子を死なせたら、一生後悔してしまうけど、今に場合で助かるなら、例え刑務所に入ったとしても、息子を守ることができたので、後悔はしないと思います。
0:38:07	教師	ほぉ、例え、刑務所に入っても、そういうことやな。
0:38:13	教師	はい、息子の命にかわっとる、ということやね、この子のために･･･。
0:38:21	教師	はい、ということで、今、ちょっと、話、聞いてきたね、あぁ、ジョーンズさんと同じ、感じ、同じ行動っていった人が多いけども、そんだけの覚悟があるということやな。
0:38:29	教師	はい、それじゃ、もう一人だけ、はい、Y1さん、お願いします。
0:38:35	教師	はい。
0:38:37	生徒Y1	近所の人たちの助けを呼ぶ。
0:38:41	教師	はい、ね、それこそ、人間社会やわな、な、近所の･･･。
0:38:46	教師	近所の人。
0:38:47	教師	(他の人を探す の上に、近所 と付け加える)
0:38:52	教師	ということで、えぇー、いろんな、ほんとに、意見、ね、書いて、発表してくれて、ありがとうございます。
0:39:00	教師	あのぉー、なんかね、みんながお互いの意見、尊重してる空気が流れとってね、あのぉ、いい空気もらえて、あのぉ、ありがとうございます。
0:39:11	教師	先生も、ね、これ、読んで、ね、ほんとに、この、最初読んだときは、運転手さん、なんて冷たい人やと、ね、僕が運転手やったら、どうぞ、一緒につれていきますよーってくらいの気持ち、あるんやけども･･･。
0:39:22	教師	ひょっとすると、まぁ、本当に、大事な用事、あったんかもしれん。
0:39:26	教師	で、僕も、このような立場なったら、どうしたかなぁ、まぁ、あのぉ、さっき、〇〇〇君が言うてくれたように、状況説明ね、とにかく、あのぉ、助けてくださいってすがる。
0:39:37	教師	見せてね、助けてくださいって、その運転手さんに、すがっていると思います。
0:39:42	教師	それでもダメなら、ひょっとしたらって、自分もね、あの、これ、あの、一応準備があったもんで、何日間か、読む機会をもったんやけども、ある日はね、俺も同じ殴っとるなと思った。
0:39:54	教師	ある日は、あのぉ、でも、絶対、殴れんわー、て思ったりね。
0:39:59	教師	そんなふうに、迷ったままでございます。
0:40:01	教師	まぁ、とにかく、あのぉ、子どもを見せて、命、命乞いてかね、助けてくれー、て、そんなことしか、できんかなぁって･･･。
0:40:11	教師	僕やったら、これかな。(他の人を探して頼む を指す)
0:40:12	教師	あのぉ、僕は、病院に走るタイプかもしれません。
0:40:16	教師	ほほっ、絶対、あのぉ、ね、無理、無理やけどね。
0:40:22	教師	えぇっと、(時計を確認する) そしたら、えぇー、ね、ちょっと、お互いに意見を戦わせるという雰囲気でもないので、こうやって、いろんな人の意見聞いて、最後にもう一回、もう一枠ありますので、他の人の意見を参考に、ちょっと、感想を書いてみてください。
0:40:43	教師	実は、さっきの、先生の、話違うけど、先生の救急車呼んだ話。
0:40:47	教師	救急車呼んで、すぐ来てん、救急車、ね、えぇ、ほれで、もうつぶれた車から、けが人を、その、周りの車の人と一緒に、こう、出して、あのぉ、救急車乗せました。ね。
0:41:00	教師	手に血がいっぱい付きました。
0:41:01	教師	そん時は生きとったんやけど、夕方、ニュースで、ね、亡くなった、という、すごい、あのぉ、体験しとった。
0:41:08	教師	救急車呼ぶ、119かけるのに、手が震えた。
0:41:12	教師	ね、三回、二回も、三回も押し間違えた。
0:41:15	教師	ほんとに、あのぉ、いま、僕ら、こうやって生きとるのはね、不思議なくらいで、ね、あのぉ、ほんとに、お家のご飯、たくさん食べて、ね、元気に、学校通って下さいね。
0:41:30	教師	はい、それじゃ、えぇ、もう一、ね、コメント、感想、書いてみましょう、いっぱい、ちょんちょん、皆の意見を参考に、何か、感想をお願いします。

資料４－２

時刻	話者	発話
0:41:38	教師	誰の意見が良かったでもいいし、えぇ、自分はね、こんな見方に気づいたとかね、･･･、なんか新しい自分を発見できた･･･。
0:41:56	教師	(机間指導する)
0:44:54	教師	もうちょっと、待っとってね。
0:45:07	教師	さぁ、そんなら。
0:46:03	教師	よし、じゃ、あのぉ、ちょっと、時間ありますんで、えぇ、何人かにね、えぇ、感想、発表してほしいなと思うげんけども･･･。
0:46:09	教師	えぇ、ここ、2、3回の授業で、まだ、当っとらん人、おるんかな。
0:46:13	教師	運悪く、その日、お休みやった人、おらんか？
0:46:16	教師	まだ、喋っとらん人、誰、おる？
0:46:26	教師	(生徒H2さんに)おった？
0:46:28	教師	それじゃ、H2さん、はい、どうぞ。
0:46:31	教師	すてきな感想やと思いますので、はい、どうぞ。
0:46:38	生徒H2	あのぉ･･･、久しぶりに、こんなんなったらどうすんやとか、真剣に考えれてよかったです。
0:46:46	教師	ね、ほんとね、自分も、ほんとに、こんな、今度、授業があるのでね、ほんと、自分やったら、どうするんやてね、自分やったらどうするか、結局ね、迷ったまま、でね、ほんとにその場面なってみなわからんですけど、ほんとにね、でも、考えさせられました。
0:47:01	教師	他まだ、ここ、何回かで、喋っとらん人、おらんかな？
0:47:04	教師	お、M1、手、挙げたな。
0:47:06	生徒M1	ちょ、待って、ちょ、待って。
0:47:10	教師	はい、えぇ、そしたら、ランダムで、ね、一応。
0:47:13	教師	えぇ、じゃ、K3さん。
0:47:18	教師	どうぞ。(起立を促す)
0:47:27	生徒K3	みんな、ちゃんと、考えて意見持っていて、すごいなと思いました。
0:47:30	教師	はい、ありがとう。
0:47:32	教師	皆が、ちゃんと自分の意見持ってて、すごい、なって。
0:47:35	教師	ほんとに、今日は、感心、いろんな意見ね、皆、それぞれ、意見があって、僕も、ほんとに同感です。
0:47:40	教師	はい、えぇ、最後に、喋りたい人、どうでしょう？
0:47:46	教師	だれで、閉めますか？
0:47:56	教師	じゃ、･･･、だれかな、K4君でいきますか、はい、K4君。
0:48:03	教師	どうぞ。
0:48:04	教師	○○先生が見守ってます。
0:48:15	生徒K4	親になったら、なんか、そんなん、子どものために、いろんなことできるように、親になりたいです。
0:48:21	教師	はい、親になったら、えぇ、子どものために、ね、えぇ、いろいろできるように、そやね、こんな状況にならんように、そやな、これもね、怪我したけど、怪我せんように、最初は、工夫せんなんということやな。
0:48:32	教師	あのぉ、ね、でも、これはちょっと大事やけどね、怪我しながら学ぶというのも大事やしな。
0:48:39	教師	ね、ちょっと、たまにはね、ぶつかって成長することもありますしね。
0:48:44	教師	えぇ、ほんとにいつも、みんな、仲良しで、ありがたいですけど。
0:48:49	教師	はい、ええ、それじゃね、えぇ、いい時間になりました。
0:48:54	教師	今日は、じゃあ、あのぉ、今日も、みんなのメモ回収してね、あの、あとで、ゆっくり、読ませてもらいたいと思います。
0:49:02	教師	じゃ、後ろの人、ね、えぇ、集めてきてください。
0:49:37	教師	はい、じゃ、ありがとうございました。
0:49:38	教師	また、ね、あのぉ、3学期、また、すてきな話を、用意できたら、用意したいと思います。
0:49:42	教師	また、いい話、あったら、教えてください。
0:49:43	教師	えぇ、それじゃ、終礼ということで、えぇ、えっと、いよいよ、試験一週間前でね･･･。
0:49:44		(終了チャイム)
0:49:45	教師	朝、成績を渡しましたけどもね、土日も頑張って、非常事態宣言がね、このクラス発令されていますけど、非常事態ですので、頑張りましょう。

授業記録［ロングホームルーム（道徳Ⅱ）］

時刻	話者	発話
0:00:01		開始チャイム
0:00:02	教師	じゃ、始めます。
0:00:02	生徒	起立
0:00:10	教師	はい
0:00:10	生徒	礼
0:00:18	教師	じゃ、あのぉ、今日はですね、あのぉ、人の生き方について、えぇ、授業します。
0:00:27	教師	これを、ちょっと、見てください。（紙帯を黒板にはる）
0:00:34	生徒	なんや、はるだけやがい。
0:00:37	生徒	見ても、おもしろくねーげんぞ。
0:00:40	生徒	あれ、どうせ、長いがはるだけやぞ。
0:00:42	生徒	おもしろくねーぞ。
0:00:46	生徒	あんなん、ほとんど、見んぞいや。
0:00:51	教師	えっと、ここに、紙の帯で、えぇ、はってあるんですけど･･･。
0:00:55	生徒	蛇やぞいや、蛇。
0:00:56	教師	これはなんですか？なんだと思いますか？
0:00:59	生徒	K1。
0:01:00	生徒	K1。
0:01:01	教師	K1君。
0:01:03	生徒	（笑い）
0:01:07	教師	これ？
0:01:08	生徒K1	実際、90って、生きられませんよ、そんなに。
0:01:10	教師	まぁ、ようは、人、あなたは、いきなり90と言ったんですけど･･･。
0:01:13	生徒K1	はい。
0:01:14	教師	これは？何？何だと思いますか？
0:01:15	生徒K1	ずばり、（笑い）、寿命ですよ。
0:01:19	教師	寿命、はい、人の寿命です。
0:01:22	教師	で、ええっと、まぁ、0歳に始まって、90歳まで、えぇ、長生きする人は100歳超えてますけど･･･。
0:01:32	生徒K1	それ、90までいったら、生きとるだけやし。（笑い）
0:01:32	生徒	めんどくせー。
0:01:33	教師	平均寿命って、日本人、平均寿命、いくつぐらいですか？
0:01:37	生徒K1	男が78で、女が85。
0:01:41	教師	はい、よく調べてあります。
0:01:43	教師	えぇと･･･。
0:01:46	生徒K1	ほんとに？やった。
0:01:49	教師	あのぉ、女性の場合85歳ぐらいで、えぇ、男性の場合80ぐらいです。
0:01:53	生徒K1	伸びてん？な。
0:01:56	生徒K1	男、ようぇーな。
0:01:57	教師	ここが、だいたい、日本人の平均寿命といわれているところです。（平均寿命 と書かれた札をはる）
0:02:03	教師	で、今日のですね、あのぉ、登場する、今から、講演会のCD、聴いていただくんですけど、その人は、えぇ、60歳、ここですね。
0:02:16	教師	えぇ、平均寿命に対して、20歳、若いです。
0:02:19	教師	まぁ、君らが生まれる、て今までの時間よりも、まだ、あぁ、長い時間。
0:02:27	教師	ここのところで、ようは60歳のところで、えぇ、癌による余命宣告を受けます。（余命宣告と書かれた札をはる）
0:02:34	教師	で、そこでは、ここでね、えぇ、余命1年半、というふうに言われたんですね。
0:02:39	教師	で、えぇ、まぁ、余命1年半と言われたら、まぁ、61.5歳、61歳と半年で、えぇ、亡くなると、こう、言われたんですが、えぇ、現在62歳までご存命、という人のお話です。
0:02:55	教師	（現在の主人公 という札をはる）
0:03:00	教師	で、えっと、今の、この、主人公の状況は、ここにはっておきますけど、･･･（やっと少し先が見えた矢先余命1年半を超えて、毎日死の淵を見つめながら暮らしている と書かれた札をはる）

時刻	話者	発話
0:03:19	教師	まぁ、ようやく、うぅ、生活の先が見えた、矢先に、余命1年半という宣告を受けてしまったという、その、状態、状況にある主人公の方が、あぁ、講演をした、あぁ、CD、今から聴いてもらいます。
0:03:36	教師	（スイッチを入れる）
0:03:40	CD	こんにちは、よろしくお願いします。
0:03:44	CD	私は、新堀から来ました、渡部成俊です。
0:03:50	CD	私は今満六十二歳です。
0:03:51	CD	今年の一月、その誕生日を迎えることができました。私はこの六十二歳という誕生日は、今までの人生の中で味わったこともない大事な重い六十二歳の誕生日でした。
0:04:23	CD	なぜかと言いますと、その二年前に私は余命宣告をされて、その余命宣告が去年いっぱいの命だと言われていたからです。去年の十二月三十一日で私の命はつきる。そう言われて私は生きてきました。
0:04:53	CD	今、毎日の生活の中では、明日も知れない、あと一時間後かも知れない、そんな中で、死の淵を見つめながら私は毎日暮らしています。
0:05:13	CD	私は小学校五年の時に親父を病気で亡くしています。一生懸命お袋は働いて、私たちを育ててくれました。私と兄貴はそんなお袋を見て、何とかしなければいけないと思って、小学校五年の私と中学校一年の兄貴は、一番下の二歳の弟をおしめと着替えを持って毎日預かってくれるおばさんの家へ行きました。私は朝五時に起きて兄貴と新聞配達を始めました。どんなつらいときでも、どんな苦しいときでも、その新聞配達を続けました。新聞配達をして帰ってくると、その弟の着替えを持って、おばさんに預けて、そして、その足で学校へ行き、そしてまた午後になると、みんなと遊ばないで、新聞夕刊を配り、そして、その一番下の弟を迎えに行き、汚れたおしめと着替えを持って家に帰りました。そして、家で役割を持ち、お袋が喜んでくれるように、私の弟は家事をやり、洗濯をやり、そして、私は弟の面倒を見、みんなで分担しながら、お袋の帰りを待っていました。お袋は仕事から疲れて帰ってきても、いくらにもならない内職をして、そして、頑張っていました。私は夏休みといえばアルバイト、冬休みといえばアルバイト、小学校五年のときから、五年、六年、中学一年、中学二年、中学三年、この五年間、一回も休むことなく、そうして働き続けました。その間に、私はあめ玉一つ自分のためにも買いませんでした。全て、お袋に、その働きは返しました。
0:07:14	CD	中学の後半になると、それだけでは満足できませんでした。こんなつらい思いしながら、こんな苦しい思いをしながら、毎日生活してるのはうんざりだ。自分の好きなようにお金も欲しい。貧乏はたくさんだ。いつか金持ちになりたい。そして、お袋にも楽をさせてやりたい。自分自身も豊かな生活をしたい。私は、中学を出る頃には、強くそう思いました。半端な思いじゃなかった。絶対、社長になってやる。社長になって、この貧乏から抜け出そう。そう強く思い、やがて中学が終わりました。友だちはみんな高校へ行きました。私は、迷いもなく働き始めました。そして一円でも高いところを働きました。
0:08:10	CD	ところが社会は甘くなかった。十五歳、十六歳の、中学しか出てこない、そんな子どもを社会がどう受け入れてくれるか。自分自身何も学んでいないと、学ぶべき時に学んでいない。そして、世の中で、渡り歩いて社長になるなんていうことは、夢の夢の、そんな感じがしました。よおく社会のつらさ、厳しさが、私は骨身にしみました。学ぶときは学ばなければいけない。知識を得るときには知識を得なきゃいけない。そして、人間は確実に一つ一つ、積み重ねによってそれを獲得していくのだ。一足飛びには行かない。そう思い、二年遅れで私は高校に行きました。迷いもなく、商業高校だった。私は、昼間働いて、そして夜、定時制高校に行き、そして定時制高校を夜九時三十分で終わると、そこから朝の五時まで働き、五時から三時間仮眠して、そしてまた働きました。そうして、私は四年間、定時制高校を通いました。
0:09:34	CD	高校を卒業したときは二十歳でした。それでも今でも、その高校へ通ってきてよかったと思っています。人間は、身に付けるときに身に付けなきゃいけない。

資料４－３

時刻	話者	発話
0:09:48	CD	私は、卒業と同時に今の仕事を覚え、そして、東京で一生懸命働きました。私はどんなに苦しくてもつらくても、厳しくても、社長になる夢は忘れませんでした。私は二十六歳で、一生懸命働き、そして、「株式会社わたべ」を立ち上げました。私は社長になりました。そのときに、はっきりと私は自分自身に力がつきました。信念を持てました。努力は必ず報われるのです。原因のない結果はありません。努力もせずに、棚からぼた餅が落ちるような話はないのです。一つ一つの積み重ね、それがやがてその人の人生を作っていくのです。大きな借金をし、そして、私はその大きな借金を次から次へと返していき、私の我慢できるところは我慢してきた。子どもも成長してきた。働きながら、女房も一生懸命子どもを育ててくれた。
0:11:08	CD	五十六歳になって、五十七歳になって、やっと少し先が見えて、これから女房と旅行の一つもできる、とそんな矢先に、何で、後一年半！　。「こんなくそったれの人生ありますか。」六十年間の人生の中で、五十年間生活のために働き続けて働いて、後一年半だなんて･･･。私はたまらなかった。
0:11:47	CD	女房に、私はその晩こう言いました。「これじゃあんまりじゃないか。俺が何をしたと言うんだ。こんな後一年半しかない人生なんて、俺が今まで全部我慢して生きてきたけれど、その分は、後一年半は好きなように生かしてもらいたい。俺の思う存分、心置きないような人生を送らしてもらいたい。」そう女房に言いました。
0:12:22	CD	女房は、下を向いてぽとぽとと涙を落としていました。ぐしゃぐしゃになった顔を私に向けてこう言いました。
0:12:36	CD	「お父さん、お父さんの気持ちはよくわかる。つらいし悔しいだろう。だけど、お父さん。お母さんもいる。また、私も子どももいるじゃない。あの中学のときの友だちだって、どんなにお父さんのことを思ってくれているかわかりゃしない。お父さんは多くの人に見守られているんだよ。お父さんの命はお父さんだけのものじゃないじゃないか。」こう言ったのです。
0:13:13	CD	私はそのことばにハッとしました。あまりのつらさに、あまりの自分の悲しさに、私のことだけしか目に入らなかった。こんなに小さな周りのことしか頭になかったのです。女房のそのひと言で私は反省しました。そうだ、俺は俺だけじゃないんだ。俺にはあの友だちもいるし、あの同級生も心配してくれている。この家族もいる。自分だけの命ではないんだ。俺が頑張らないでどうするんだ。そう思って、私は生きる決意をしました。
0:14:00	CD	どうせ、残りのない後一年半の命なら、思う存分使い切って、人のために世のために尽くし、今まで多くの関わりのあった人たちに助けてもらった分を、今お返しをして行かなくてはいけない。そう思って、今私は次から次へと、講演を若い人たちに、この命の大切さを伝えて歩いているのです。命の有る限り続けるつもりです。
0:14:38	CD	人は、悲しみ、つらさ。苦しさを背負って生きています。ぜひ、苦しさ、寂しさを見たら、人に温かい手を差しのべてやってください。そして、自分が苦しくなったときには、素直にその人の手を借りてください。いつか自分が、そして返していくのです。
0:15:07	CD	それでも、どうしても、つらくなったら、私を思い出してください。
0:15:13	教師	はい、という、あのぉ、ま、あぁ、･･･です。
0:15:23	教師	えぇ、どうやった？T1君。
0:15:24	生徒T1	はい。
0:15:27	教師	はい、立って、どう思いました？
0:15:31	生徒T1	うん、まぁ、渡部さんは小学校から、あのぉ、小学生らしいことしてなかったような、印象です。
0:15:38	教師	うん、はい、非常に苦労されたと･･･。
0:15:42	教師	まぁ、我々の、そのぉ、小学校のイメージとは、まぁ、到底およびもつかないような、仕事、いろんな状況でも仕事をしておいでだという状況です。
0:15:52	教師	T2君はどう思った？
0:16:01	生徒T2	小いときから、自分のためじゃなくて、家族のために働いて･･･、それで、今になって、余命宣告を受けて･･･、大変な人生なのに･･･。
0:16:30	教師	小さいときから、もう働きづめで、一生懸命、ずっと働いて、ようやく、というところで、余命宣告を受けてと、まぁ、大変つらい人生送られた方やな、というふうに思います。
0:16:43	教師	で、えっと、この講演会の中で、ええっと、非常に、こう、語気をこう荒げて、ね、あのぉ、渡部さんが、主人公が、発した言葉があります。
0:16:56	教師	（こんなくそったれな人生ってありますか と書かれたフリップをはる）
0:17:08	教師	で、えぇ、こんなくそったれな人生ありますか、と･･･。

資料４－３

時刻	話者	発話
0:17:13	教師	渡部さん、主人公は、どんな気持ちで、えぇ、こういう言葉を、言ったのか、自分の、考えを、思いを、プリントに書いてください。
0:17:26	教師	(机間指導する)
0:20:01	教師	大体･･･。
0:20:06	教師	(教卓付近で) 書けとるね。
0:20:11	教師	(時計を確認する)
0:20:22	教師	(机間指導を続ける)
0:21:56	教師	大体、書けたかな？
0:22:01	教師	えぇっ、K2君、どうですか。
0:22:09	生徒K2	なんか、辛くて、悲しかったんだろうと思います。
0:22:12	教師	うん、辛くて･･･(辛くて と板書する)
0:22:22	教師	悲しい (悲しい と板書を付け加える)
0:22:30	教師	うん、どうして？
0:22:34	生徒K2	長い間、自分の夢のために頑張ってきたのに、えっと、余命1年半といわれると、今までの苦労が水の泡になってしまったので･･･。
0:22:45	教師	はい、自分も悔しい、今まで、何のために頑張ってきたんや、ということやな。
0:22:56	教師	K1君は、どうですか？
0:22:57	生徒K1	はい、めちゃめちゃ一緒ねんけど、それに、なんか、どうしようもない気持ち。
0:23:02	教師	どうしようもない？
0:23:06	生徒K1	実際、なんか、ぜったい、こいつより、絶対苦労しとる人、おると思うし･･･。
0:23:09	生徒M1	うふっふ(笑い)。
0:23:11	生徒K1	あの人は、自分ばっか、ていう感じするんですけど。
0:23:15	教師	あっ、この主人公の、が、あの、自分だけが、この、おぉー、辛いという･･･。
0:23:25	生徒K1	実際、この人より、絶対、苦労しとる人、いっぱいおるし。
0:23:26	生徒M1	周りの、周りの人の人生、考えてねぇし。
0:23:30	生徒K1	自分ばっか考えとる。
0:23:31	生徒M1	自分の人生ばっか考えとるし。
0:23:32	生徒K1	僕だったら、絶対嫌や。
0:23:32	生徒	(笑い)
0:23:33	教師	ううん。
0:23:34	生徒M1	声荒げて。
0:23:35	生徒	(笑い)
0:23:38	生徒K1	どんなん、そんな。
0:23:38	生徒	(笑い)
0:23:40	生徒M1	もっと、悲しい人、おるって。
0:23:42	生徒K1	絶対おるな。
0:23:43	生徒M1	そうや。
0:23:46	生徒M1	余命宣告、言われて、動けんくなる人だっておるのに、講演会できとるだけ、ましや、思え。
0:23:49	生徒K1	ははは。
0:23:54	生徒K1	おかしいよ。
0:23:55	生徒	あはははは。
0:23:59	教師	(周囲の人のことを考えていない と板書する)
0:24:01	生徒K1	何や、自分だけ、辛い、苦しいって。
0:24:02	教師	厳しいですね。
0:24:09	教師	はい、そういう思いも、そう思っておいでるんやから、君らがね。
0:24:12	教師	それも、あれなんですけど･･･。
0:24:13	生徒K1	はい。
0:24:16	教師	えっと、○○○君、Y1○○○君は、どうですか。
0:24:21	生徒Y1	余命宣告されて、たぶん、残念。
0:24:26	教師	残念。悔しい、残念。
0:24:30	教師	(残念な気持ち と板書する)
0:24:39	教師	本当は、もっと、やりたいことがいっぱいある、まだまだ今から、楽しみたい、仕事をしたい、というときに、余命1年半、残念である。

資料４－３

時刻	話者	発話
0:24:55	教師	まぁ、あのぉ、厳しい、自分だけが、あぁ、悲劇じゃないんだ、悲劇のヒーローじゃないんだ、という厳しいご意見もありましたし、えぇ、非常に、残念、こんなあと1年半、今までこんだけ頑張ってきたのに、残念、悔しい、ね、という思いと、二つ、うぅ、聞かせていただきました。
0:25:20	教師	そしたらですね、つぎ、えぇ、君たちは、まぁ、えぇ、若いので、あんまりそんなこと考えたことないかもしれんけども、今のこのお話を踏まえてですね、えぇ、もしも、君らが、君らが余命宣告を受けたと、ね、余命1年半の命です、もしそういう状況、余命宣告を受けたら、君らはどうしますか？
0:25:51	教師	どのように生きていきますか？
0:25:53	教師	それをちょっと考えてもらって、書いてみてください。
0:26:04	教師	(あなたが余命宣告を受けたらどうしますか？ と書かれたフラッシュボードをはる)
0:26:30	教師	(机間指導をする)
0:27:11	教師	(机間指導しながら) できるだけ詳しく、何で･･･とか、･･･。
0:30:13	教師	(机間指導しながら) ううん、なるほど。
0:30:19	教師	よし、ほんなら、終わったっけ。
0:30:28	教師	えぇ、もう、終わったかな。
0:30:31	教師	ほなら･･･。
0:30:38	教師	K3君は、どう書きましたか？
0:30:42	生徒K3	えっと、疲れた人生を、自由に生きたい、遊びたいな、と感じます。
0:30:49	教師	ほぉ、遊びまくりたい。
0:30:50	生徒K3	はい。
0:30:52	教師	ふん、自由に遊びまくる。
0:30:56	教師	思う存分･･･。(思う存分遊びたい と板書する)
0:31:08	教師	あのぉ, 好き放題したい。
0:31:17	教師	M1君は、さっき、過激な、発言だったですけど、どう、書きました？
0:31:23	生徒M1	えっ、今まで通り、自由に、遊びまくりたい。
0:31:27	教師	うん、今まで通りの生活。(今まで通りの生活 と板書する)
0:31:43	教師	この、今まで通りの生活というのは、どこから、来とるん？
0:31:49	生徒M1	どこから？
0:31:50	教師	うん。
0:31:51	教師	例えば、そのぉ、･･･、いつも通りの生活やね、今の、学校来て、授業受けて、そういうの、やっぱ、最後、残された1年半、そのまま過ごしたい、ていうことやね。
0:32:07	生徒M1	今まで通りでないとおかしいと思う。
0:32:09	教師	今まで通り？
0:32:11	生徒M1	何か、変に、何か、あと、余命どんだけやからって、どっか、連れてってあたったり･･･。
0:32:20	教師	あぁ、余命どんだけやていわれて、連れってってあたるとか･･･。
0:32:21	生徒M1	そうやって、連れてってあたったら、逆に悲しい。
0:32:22	教師	逆に、悲しい、うん。
0:32:24	教師	好きなとこ、連れて行ってもらったりするほうが、逆に、悲しい。
0:32:29	教師	だから、今まで通り、の生活、日々の生活、これが、あなたにとって、一番幸せ？
0:32:36	生徒M1	うん。
0:32:37	教師	そういうことやね。
0:32:41	生徒M1	･･･。
0:32:42	教師	う、うん。
0:32:47	教師	T3君はどおや？
0:32:54	生徒T3	うぅん、好きなことをして過ごしたい。
0:33:05	教師	好きなように過ごす？うん。
0:33:13	教師	(好きなように過ごす と板書する)
0:33:34	教師	○○○君は？N1 ○○○君。
0:33:36	生徒N1	はい、えっと、命のあるかぎり、今までにお世話になってきた人に、感謝の気持ちを伝えていきたいし。
0:33:45	教師	おお。
0:33:46	生徒N1	それと、両親に迷惑掛けてきたことを謝りたいです。
0:33:49	教師	ほんな、迷惑掛けたか？
0:33:50	生徒	(笑い)
0:33:51	生徒N1	今、それは秘密です。

時刻	話者	発話
0:33:52	教師	ええ？
0:33:53	生徒N1	まぁ、内容は秘密です。
0:33:55	教師	内容は秘密なんや。
0:33:55	生徒N1	はい。
0:33:57	教師	だけど、やっぱ、いろいろ、迷惑は掛けてきたんや。
0:33:58	生徒N1	掛けてきました。
0:33:59	教師	はぁーん、おわびをしたい？
0:34:01	生徒N1	やぁー、そうですね、はい。
0:34:03	教師	感謝とお礼？
0:34:06	生徒N1	はい。
0:34:19	教師	感謝しとるけど、日頃はどうなんや、表に出してないが？
0:34:22	生徒N1	逆ですね。
0:34:24	教師	(感謝する と板書する)
0:34:26	教師	え？
0:34:27	生徒N1	日頃は、ちょっと、逆ですね。
0:34:31	教師	日頃は、なんや？
0:34:33	生徒N1	なんか、まぁ･･･。
0:34:35	教師	感謝、こういうときには、ね、気持ちとして出てくれんけど･･･。
0:34:37	生徒N1	はい。
0:34:38	教師	決して、普段の態度には出てこんげんろ。
0:34:40	生徒N1	はい。
0:34:41	教師	でも、実は、感謝しとれんぞと･･･。
0:34:43	生徒N1	まぁ、そうです。
0:34:44	教師	うぅん。
0:34:46	教師	余命宣告受けたら、真っ先に、ご両親に、申し訳なかったと、ありがとう、と、ふん。
0:34:58	教師	まぁ、もしもね、自分も、自分も同じ、この質問、受けたとしたらば、まぁ、N1ほど、俺、人間できとらんから、ここやな。
0:35:15	教師	俺は、やっぱり、ここやわ。(板書した 好きなように過ごす と 今まで通りの生活 に○をつける)
0:35:18	教師	やっぱ、ここでした。(思う存分遊びたい に○をつける)
0:35:22	教師	ここらへん、の発想、うぅん、同感です。
0:35:29	教師	ところが、えっとね、まぁ、このぉ、授業するときに、あのぉ、この、ね、渡部さんのこのCD、聴いたり、それから、渡部さんの本、こう、いろいろ、読ませてもらってですね、あのぉ、自分も実は生きてきた中で、こんな体験、実際にね、あのぉ、ほんとによく似た体験をしとれんね、俺は。
0:35:56	教師	この本読んだときに、まさしく、ピーンと、こう、あぁ、俺、実際、こういう体験しとるなぁって、思ったんですよ。
0:36:05	教師	その話をね、紹介したいな、というふうに思います。
0:36:12	教師	あのぉ、前の学校でね、前に勤めとった学校で、ええぇ、まぁ、工業科目の先生、48歳、7年前です。
0:36:21	教師	えぇ、バレー部の顧問、非常に、えぇ、穏やかな、やさしい先生だったんですけど、このぉ、癌を、おぉ、患いました。
0:36:33	教師	えぇ、当然、その、自分は、そういうことを知りませんで、その先生が、まぁ、突然、お休みになって、まぁ、非常に体調が悪い状況である、ということまではわかってました。
0:36:46	教師	で、えぇ、ある朝ですね、職員朝礼で、校長先生からですね、まぁ、こんな話を、皆、あのぉ、お聞きしました。
0:36:58	教師	どんな話かというたら、先生は、まぁ、癌であると、その、奥さん、ね、だんなさんが癌であるということで、校長先生のところへお願いに来ました。
0:37:11	教師	どういうことかというたら、どうしても、本人、ね、先生が、仕事したい、て仰っるんです、もちろん、そのぉ、体は、もう、ね、非常に大変な状況で、学校来るがも、やっとやっとかもしれん。
0:37:27	教師	だけど、非常に、そのぉ、足手まといになる、仕事に対しても遅いし、ほんとに足手まといになるかもしれんけど、私のだんな、つまり先生が、どうしても、働かしてくれと、いうことで、奥様が校長先生の所へお願いに行かれたんですね。
0:37:44	教師	それを、おぉ、われわれ職員が聞いた。

時刻	話者	発話
0:37:50	教師	で、それを、聞いたときに、俺の思いは、あんどき、やっぱり、ちょっと、そのぉ、まだ、浅はかやったもんで、まず、その先生が癌であるということの、まず、ショック、ついこの間まで、あんだけ元気にしておいでた先生が、ほんとになくなるんか、と、いうこと。
0:38:13	教師	それと、もう一つは、なんで、この、もう残された人生が少ないのに、なんで仕事なんやと。
0:38:23	教師	もっと、遊べばいいんじゃないかと、それから、子どもさんもですね、君らぐらいのお子さん、おいでたんで、もっと家族といっしょにおる時間とっていいんじゃないかと、そういうふうに思いました。
0:38:37	教師	どうして仕事するのと。
0:38:43	教師	で、自分もそのときにはやっぱり、わからんかったですね、先生の思いが。
0:38:48	教師	何で、仕事なんかて。
0:38:51	教師	ようやく、今、わかってきたんですけど。
0:38:52	教師	やっぱり、そのぉ、渡部さん、この、今回のCDの、おぉ、講演されとる渡部さんと同じ思いやったんねぇかなと、いうふうに、思うようになってきた。
0:39:04	教師	どういうことかというたら、その先生がなんで仕事したか、たぶん、最後まで、ね、人生の最後まで、全力で、頑張る姿を、自分の子ども、ね、息子たち、ほれから、生徒、学校の生徒、ほれから、我々教職員、に見せたかったんでないかと、いう思いがあったんないかと。
0:39:31	教師	だから、お世話になったぶんを、今まで、いろんな方々にお世話になったということで、それを、こう、一生懸命やることで、お返ししたい、いう思いがあったんないかと。
0:39:44	教師	ほれから、まぁ、思う存分、人のために世のために、最後の最後まで、えぇ、生きたかった、やり遂げたかったと、いったような思いから、仕事、最後までさせてくれと、いわれたんないかと、今は思います。
0:40:02	教師	前は、俺は、まったく、そういうこと、思わんかった。
0:40:04	教師	それから、奥さんの気持ちも、最近、俺、考えるようになった。
0:40:12	教師	奥さんにとって旦那さんですから、旦那さんが、もう、余命宣告されて、もう、人生が、もう、幾ばくもない状況のなかで、少しでも家におっていただいて、ね、少しでも家族団らんの時間とか、夫婦水入らずの時間ちゅうのを、設けたかったんないかなと、おってほしかったんないかなと、思ったんですけど、でも、その奥さんの思いとすれば、旦那さんの思い、一所懸命働いて、最後の最後まで頑張りたいという、ということを、奥さんは応援してあげたかったんないかなと、それが、最大の、旦那さんに対する支え、であったんかなと。
0:40:58	教師	本当は腹の中では、気持ちの中では、やっぱり、少しでも、家に、おってもらって、たぶん、思とったんないかと思うけど。
0:41:03	教師	でも、旦那さんのこと考えたときには、それが一番ベストなんやと、そういうふうに、思ったんじゃないかと、俺、最近、思うようになりましたね。
0:41:11	教師	この、CDを聴いてから、うん。
0:41:17	教師	で、自分がですね、あのぉ、死の淵に立ったときに、人のために尽くすとか、ね、恩返し、したいと、思う、いったような気持ちが生まれるちゅうのは、まぁ、最近、自分も、これくらいの歳になって、はじめて、ちょっと、わかるようになってきました。
0:41:39	教師	も、もしかしたら、君たちは、まだ、その、ピンと、まぁ、そんな、若いさかいに、ピーンとこんかもしれんけど、なんとなく、俺も、最近になってわかってきた。
0:41:49	教師	で、もしも、前は、こうやったてか、前は、こう、黄色で書いたのは、前は、俺は、そうでした。
0:41:58	教師	だけど、これ、渡部さんの、講演CDとか、その先生の体験？経験を通してですね、やっぱり、俺がもし、この立場に立ったら、たぶん、最後までやると思うね。
0:42:13	教師	たぶん、うん。
0:42:16	教師	それ、実際、俺、余命宣告受け取らんから、そんな甘いもんじゃない、といわれるかもしれん。
0:42:20	教師	うん、もしかしたら、俺、あのぉ、車で医者へ、余命宣告されて帰るときに、どっか車運転しとって、そのまま、どっかで、自殺すっかもしれん。
0:42:31	教師	そのプレッシャーに押しつぶされてね。
0:42:35	教師	そんな気持ちもない、もしかしたら、俺、あるかもしれん。
0:42:36	教師	うん、だけど、今までのその、二人の方々の生き方を、見とったら、やっぱり、余命宣告受けても、最後の最後まで、頑張ると思います。
0:42:51	教師	俺は、うん。

時刻	話者	発話
0:42:55	教師	まぁ、そう、今は、そういう気持ちでいます。
0:43:00	教師	ということで、まぁ、あのぉ、二つ、CDの話と、まぁ、実際に自分が経験した話をしたわけですけど、やっぱり、あのぉ、君ら、これからね、あのぉ、社会に出て行くので、えぇ、まぁ、ちょっとでも、頭の片隅にでも覚えていて欲しいなと思うんですけど。
0:43:20	教師	やっぱり、それ、人間というのはですね、あのぉ、決して、一人では生きていけん、ということ。
0:43:26	教師	たぶん今までも、自分今まで、一人でここまで来れたか？
0:43:31	生徒	いいえ。
0:43:33	教師	うん、誰に、助けてもらった？
0:43:35	生徒	周りの人、自分の
0:43:37	教師	周りの人、誰や？
0:43:40	生徒	家族、友だち、先生。
0:43:41	教師	家族、友だち、先生、うん、などなど？
0:43:44	生徒	はい。
0:43:45	教師	うん、ね、わかっとるね。
0:43:48	教師	いろんな先生に支えられて生きて来たんや？な。
0:43:51	教師	で、えぇ、決してですね、一人では、やっぱり、生きていけない。
0:43:53	教師	で、君らはですね、これから、数ヶ月後には、このクラスの7割の人が就職する、会社へ
0:44:00	教師	そん時に、また、いろんな人に、支えてもらわないかん。
0:44:06	教師	ね、どっかの工場へ勤めました、ね、機械の使い方の一つから、名前まで、最初に、まず、覚えなんし。
0:44:13	教師	ね、朝、何時に来りゃいいがんから、全部、教えてもらわないかん、そういう立場やね。
0:44:18	教師	支えられて、これから、生きていく。
0:44:22	教師	で、もう、そろそろ考えて欲しいのは、これからは、今度は、周りを支えていく立場になってもらいたいなと、支える立場、いいか、いつまでも、支えてもらう立場でなくて、これからは、支える立場になる。
0:44:41	教師	弱い、困っとる人おったら、助けてやる。
0:44:44	教師	もしも、困ったら、助けてくださいと言える。
0:44:48	教師	お互いに、そうやって、持ちつ持たれつというかな、支え合って、生きていく関係を、作っていかないかんげんね。
0:44:57	教師	そういう人間になってもらいたいと。
0:45:02	教師	ほれから、社会出れば、辛いことばっかやぞ。
0:45:04	教師	ものすごい、嫌なことばっかりや。
0:45:08	教師	学校は、まだ、楽や。
0:45:11	教師	社会出たら、もう、本当に辛い。
0:45:14	教師	だけども、逃げたら、ダメやぞ。
0:45:15	教師	う、うん、もう当然、お前、今日、残業せい。
0:45:19	教師	いやです、いやや、ほんなん絶対ダメや。
0:45:24	教師	な、どんな状況におかれても、辛い状況なっても、今のこの人ら、死ぬ間際でも、一生懸命頑張っとる。
0:45:33	教師	ね、K1君。
0:45:35	生徒K1	はい。
0:45:36	教師	頑張っとるでしょ。
0:45:37	生徒K1	･･･。（返事なし）
0:45:38	教師	そんだから、君らがもし、就職したり、世の中出たときに、辛い状況なるかもしれん。
0:45:43	教師	だけども、全力で、頑張って、世のため、人のために、活躍してもらいたいな、ということを、まぁ、思います。
0:45:53	教師	皆に伝えたい。
0:45:56	教師	だって、社会出たら、これから、こんなことを、いってくれる人おらんもん。
0:45:59	教師	ほやろ。
0:46:03	教師	はい、ほんなら、えっと、最後にですね、えっ、感想を、おぉ、ちょっと書いてもらいたいなと、今日、振り返って、どんなこと感じたかな、これから、俺、どうしていこうかな、という、思った、感じたことを、書いてみてください。
0:47:00	教師	（机間指導を行う）
0:47:07	教師	（時計を確認する）
0:50:00		終了チャイム

資料４－３

時刻	話者	発話
0:50:05	教師	よし。
0:50:10	教師	まぁ、ちょっと、皆、一生懸命、書いとるみたいやから･･･。
0:50:26	教師	ちょっと、一人だけでも、感想、終っとる人で、T4君、お願いします。
0:50:32	生徒T4	はい。
0:50:35	教師	どう思ったか？
0:50:36	生徒T4	じゃ、もう終わっていい？
0:50:37	教師	はい、どうぞ。
0:50:36	生徒T4	起立。
0:50:39	教師	あっ、いや、ちゃう、ちゃう、ちゃう、言って、感想。
0:50:40	教師	君の書いた感想、うん。
0:50:43	生徒T4	僕ですか、あっ、僕の書いた感想言えばいいんですか？
0:50:45	教師	うん、仕上がっとるから。
0:50:46	生徒T4	はい。
0:50:47	教師	うん。
0:50:48	生徒T4	もし、自分が余命宣告されたとしても、今までのような、生活を最後までしたいと思う。
0:50:56	生徒T4	逆に、このような体験をプラスに考え、人を助けられるようになりたいし、今、いつ死んでも後悔しないような、楽しくて充実した日々を過ごすことが、私たち生きている人間にできることだと思う。
0:51:10	生徒T4	私も死ぬまで全力という姿を、親や友人たちに見て欲しいと思います。
0:51:16	教師	はい。（頷く）
0:51:17	教師	最大限、今も、今後も？
0:51:20	生徒T4	今後もです。
0:51:23	教師	はい、一生懸命、やっていただきたい。
0:51:24	教師	はい、そな、ちょっと、時間が来ましたので、また、それ、後で回収しますので、書いておいてください。
0:51:31	教師	ちょっと、感想の時間がなくなって、申し訳ないですけど、これで、終わります。
0:51:36	教師	はい。
0:51:37	生徒T4	起立。
0:51:49	教師	はい。
0:51:50	生徒T4	礼。

資料５

研究発表会講演

演題　「人間形成教育の展開」

講師　金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所長　教授 札野 順 氏

今日は、①なぜ、いま、技術者倫理教育なのか、②技術者倫理教育の新しい流れ、③金沢工業大学における取り組み、この３つのポイントについて説明します。

なぜ、いま、技術者倫理教育なのか

最初に、なぜ、今、技術者倫理教育なのかということですが、我々が技術者倫理とはどういうものであると理解しているかということは後で説明しますが、なぜ技術者の倫理つまり技術者が倫理的に判断をするということが求められているのかを少し大きな視点で考えてみたいと思います。では、ちょっと歴史クイズを出してみます。

以下の 4 つの日付でそれぞれ何が起こったでしょうか。2001 年 9 月 11 日。これは皆さんよくご存知のナイン・イレブン、つまり同時多発テロがあった日です。1942 年 12 月 2 日。これは我々人類の歴史の中で非常に重要な日です。私たち歴史家の中には、キリスト誕生を１つの機会とした西暦というのをやめて、1942 年以前、1942 年以降という年号の付け方をした方がいいんじゃないかと称える人たちがいます。この日何が起こったのかと言いますと、シカゴ大学の秘密研究所で初めて非常に原始的な原子炉をつくり、核分裂の連鎖反応を初めて制御した日です。つまり、「原子の炎」「原子力の炎」「原子力の力」を人類が手に入れた日です。

ここまでは単に科学の歴史についてのお話ですが、これがいったい倫理とどう関係するのでしょうか。道徳教育をやっていらっしゃる方を前にこういうことを言ってはいけないのかもしれませんが、倫理というのは「行為・行動の科学である」と考えます。ですから、できない行為や行動に関しては倫理的な問題は発生しません。例えば、我々が「ドラえもん」のように時間旅行をすること、つまり過去に戻ったり未来に行ったり、タイムトラベルをすることは倫理的に良いことなのかあるいは悪いことなのでしょうか。タイムトラベルは不可能な行為ですので倫理的な問題にはなりません。しかし、1942 年 12 月 2 日を境にして一つの行為が人間にとって可能になりました。それは何かと言いますと、自分で自分の首を絞めるということです。この日以前は、頭のおかしな狂った指導者が現れて人類を滅亡させようと思ったとしても、我々人類にと

って物理的な方法はありませんでした。人類を滅亡させるという行為や行動は不可能でした。ですから、人類を滅亡させるという行為は倫理的な問題にはなり得ませんでした。ところが、この日を境にして非常に高いエネルギー密度の物質を解放することによって、我々は地球全体を人間が住めないように変えるという行為が可能になりました。この日を境に人類を滅亡させることが、倫理的に正しいのか正しくないのかを考えなければいけない時代になりました。

同じようなことがいろいろ起こっています。例えば、2000 年 6 月 26 日。この日はホワイトハウスで当時のクリントン大統領が世界に向かって、ヒトゲノム、塩基（ATGC）の並びに関するマッピングの初期段階が終わったということを報告した日です。それまでは人間の遺伝とは神の摂理の世界での問題でしたが、少なくともヒトゲノムの物理的なマッピングが人類の手に入ったということになります。

ナイン・イレブンや同時多発テロが我々に何を教えてくれたのか。それは我々がそれ以前から知っていたことです。科学技術の成果の使い方によっては良い目的のためにつくられたものも、その目的や使い方を変えれば兵器として使うことができるということです。頭の中では、このことを我々は分かっていましたし、知っていました。旅客機という科学技術は、できるだけ快適に、できるだけ遠くへ、できるだけ速く、ということを目的に、技術者が英知を傾けてつくり上げた科学技術の成果です。これをちょっと目的を違えて使えば、個人あるいは少数の人間のグループが、アメリカという超大国、あるいは世界を相手に戦争を仕掛けることができるということが分かった訳です。いわゆる技術の Dual Use ということが、我々の目の前ではっきりと見えたということになります。

同じ 2000 年の 11 月 25 日にアドバンスド・セル・テクノロジーというアメリカの会社が、ヒトクローン胚の作成に成功したということを発表いたしました。ヒトクローン胚を女性の子宮に着床させるとクローン人間が誕生します。ヒトクローン胚の作成に成功したことによって、クローン人間をつくって良いのか悪いのかということが、倫理的な問題として我々の目の前に現れてきたことになります。

こういった例を幾らでも挙げることができます。私のように百年、二百年、あるいは千年、二千年という単位で科学技術と人間社会を考えるトレーニングを受けた人間にとって（これは歴史家ではなくても分かると思いますけれども）、過去において科学技術というものが、人間社会に大きくて、深くて、そして広い影響を与える時代はなかったということは断言できると思います。今まで私は科学技術という一般的な言葉を使ってきましたが、科学技術は人間なしでは存在しません。一人一人の

科学者や技術者の意思決定の連鎖が、原子爆弾をつくり、ヒトゲノムを解読し、旅客機をつくり、クローン人間をつくる可能性をつくりあげました。一人一人の科学者や技術者の意思決定がこれほど大きな影響を与える可能性を持っている時代はこれまでなかったと思います。

ちょっと視点を変えてみますと、科学技術とはいかほどのものなのでしょうか。今年は 3 人の日本人物理学者がノーベル賞を授賞し大変めでたい年です。その彼らの研究にも関係することですが、宇宙の歴史というものは 150 億年あるいは 160 億年と言われています。その宇宙の歴史の中で我々人間が生きている時代とはどんな時代でしょうか。なかなか考えにくいので、それを分かりやすい形にしてくれるものに、コズミック・カレンダーというものがあります。150 億年の歴史を 1 年に例えてみます。ビッグ・バンが元旦で、今現在が次の新しい年の 0 時 0 分 0 秒というふうに考えてみます。そうすると我々が住んでいる太陽系ができたのは 9 月 9 日になります。もう 9 か月もたっているんですね。次に、地球ができたのは 9 月 14 日です。地球上に生命が誕生したのは、9 月 25 日になります。では、人類はいつ誕生したのかと言いますと、もう大晦日、紅白歌合戦が終わりかかっている夜の 10 時 30 分になって初めて人間が誕生します。文明の発端の 1 つであるギリシア文明が誕生するのが大晦日 11 時 59 分 56 秒です。我々が考えております近代科学技術が誕生したのが 16 世紀から 17 世紀ですので、コズミック・カレンダーで言えばわずか 1 秒前の午後 11 時 59 分 59 秒ということになります。

このコズミック・カレンダーの 1 秒の間にいったい何が起こったのかということを考えてみます。今我々人間は世界中で 60 億人以上おりますが、コズミック・カレンダーでの 0.5 秒前、つまり 200 年前には、人口はわずか 10 億人くらいしかいませんでした。それから 1000 年前は大体 3 億人です。3 億人から 10 億人になるのに 1000 年かかっています。ところがコズミック・カレンダーの 0.25 秒、20 世紀の間にいったい何が起きているのかと言いますと、人口が約 5 倍から 6 倍に増えています。更に、エネルギー使用量が 17 倍ぐらいに増えています。つまり、我々は、今、化石燃料がそろそろ枯渇するかもしれないということでいろいろ悩んでおりますけれども、この 0.25 秒の間にエネルギー使用量が飛躍的に伸びた訳です。しかし、世界中の人たちがこれを均等に使っている訳ではありません。日本をはじめとする先進諸国（世界の人口の約 20 %）の人たちが、この 10 数倍に増えたエネルギーを使っている訳です。コズミック・カレンダーで考えてみますと、9 月 24 日、地球上に初めて生命が誕生してから連綿と地球が蓄えてきた化石燃料を、人類はわずか 0.25 秒で使い切ろうとしている訳です。こういう時代に我々は生きているということです。

よく私は学生諸君に、「人類はちょうど免許取りたてのドライバーのようなものだ」と言っています。たまたま試験場から出てきて、免許をもらって「ああうれしい」と思って出てきたら、目の前に科学技術という名のレーシングカーがあった。普通は、クラッチなんか繋がらないのですけれど、たまたまコズミック・カレンダーの 1 秒前にクラッチが繋がりました。ガソリンタンクもガソリンが満タンです。道は非常に広かった。クラッチが

繋がったので、アクセルを踏んでみたら、F1 レーシングカーが走り始めました。前に前に走り始めたんです。アクセルを踏むとどんどん加速をしていきました。それで、わずか 1 キロの間に我々が持っている科学技術を達成しました。ところが先ほど申し上げましたように、我々人類が直面している状況というのは、もう道は広くありません。ガソリンタンクのガソリンがなくなるかもしれません。これからヘアピンカーブがあるかもしれません。もしかしたら、車を止めなければいけないかもしれません。しかしながら、人類というのは科学技術を進めることに関しては、ここ 400 年ずっとやってきましたけれど、科学技術をどうコントロールするか、状況によっては止めなければいけない、方向を変えなければいけない、そういうテクニック、そういう議論に関してはほとんど今まで配慮してきませんでした。こういう時代だからこそ、科学技術を担っている科学者や技術者の一人一人が適切な意思決定、任意的な意思決定ができなければいけない訳です。

鳥取環境大学学長であった加藤尚武さんは、今まで述べてきたことを適切に表現されています。科学技術は人間に可能な行為を拡大します。新しくできることをどんどん増やしていきます。でも、できる行為は何をやってもいいのでしょうか。私は人を殴ることもできますし、人を傷つけることもできますし、他の人から物を盗むという行為が可能です。でもそういう行為をしていいんでしょうか。我々は今クローン人間をつくることができます。ナノ領域で原子や分子を動かして新しい素材をつくることができます。宇宙の彼方に探査船を送るとこができます。できる行為は何をやってもいいのでしょうか。

ここで原理の問題が出てきます。もう一つ、我々が直面している世界の重要な問題があります。ご承知のように 1989 年にベルリンの壁が壊れて、世界が一つの経済圏になりました。いわゆるグローバル化がどんどん進んでいった時代です。1990 年代、世界の技術者教育や工学教育に関わっている人たちが熱心に議論していました。このグローバル化の時代にいったいどんな能力を持ったエンジニアを、我々はこれから造っていかなければならないのか。そういう議論が盛んに行われました。国際的に通用するエンジニアとはいったいどんなエンジニアなのか。ご承知のように 1990 年代、先ほど述べたような様々な環境問題、エネルギー問題、人口問題、こういうものも含めて新しい時代になっています。その時代にインターネットをはじめとする IT 技術が急激に発展しました。技術者が仕事をする環境は大きく変わった訳です。しかも、先ほど述べたように、技術がグローバル化する中で、例えば、高校を卒業した人たちは、すぐに社会の場に出て仕事をしています。皆さんの学校を卒業した人たちがつくる製品は、世界中に流れています。こんな中で、「いった

い 21 世紀のエンジニアはどんなエンジニアになければいけないのか」という議論が盛んに行われました。その中で新しいエンジニア像というのが生まれて、新しいエンジニアをつくるためにいったいどんな技術者教育が必要なのかということが盛んに議論されました。

いろんな動きがあるのですけれども、一番大きな動きとしまして ABET（エイベット）という組織の活動を少し紹介したいと思います。ABET というのは、Accreditation Board for Engineering and Technology といいまして、アメリカにおける非営利団体がやっている工学系の技術者教育の質を認定する組織です。会員はアメリカの主要な科学協会です。彼らはアメリカで 180 万人とも 190 万人とも言われているエンジニアの代表的組織です。1930 年代から、短大・大学・大学院における技術者教育の質の強化、質の認定ということをやってきています。この ABET が約 5 ～ 6 年かけて、1990 年代に１つの基準をつくりました。「21 世紀のアメリカ、少なくともアメリカの技術者教育の中で、こういうことが必要です」「技術者教育であるためにはこういうことを満たしていなければなりません」という基準を作りました。この中で様々なことが言われています。後ほど少し紹介しますが、専門的な能力や知識、これを持っているのは当たり前（でなければ専門家ではないということ）で、それ以外に、専門に関わらず、例えばコミュニケーション（例えばチームのメンバーとして仕事ができるということ）、あるいは幅広い教養（自分たちが行う技術的な解決が、世界あるいは環境にどんなインパクトを与えるかということが理解できる）、そして倫理的な責任、プロフェッショナルとしての責任、これらを身に着けていることを実証しなさいということです。

それまでは、仮説として、「これとこれとこれとこれとを教えていけば、これだけ教えていけば、こういうエンジニアが出てくるでしょう。できるでしょう。育てることができるでしょう」という前提の下に認定を行っていました。しかし、これによって何が変わるかと言いますと、「どんな教え方をしてもいいです。何をやってもいいです。でも卒業生が少なくともこういう能力を持っているということを、それぞれの教育プログラムで実証しなさい」と言い始めたんです。これは、我々技術者教育に関わっている者としては、本当に大きな衝撃でした。

同じころ、文部省が大学基準の設置基準の大綱化ということを行いました。日本における大学改革が始まった訳ですけれども、同時に国際的なエンジニアとはいったいどんな能力を持っていなければいけないのかということがいろんなところから入ってくるようになりました。1997 年には「国際的に通用するエンジニア教育検討委員会」というものができました。また、8 大学・旧帝国大学、プラス東工大それに本学でありますとか大阪府立大学、慶応、早稲田、こういう大学が加わりまして、これからの大学教育カリキュラムはどうあるべきかをということについて検討しました。その結果、その選択肢の一つとして 1999 年 11 月に JABEE（日本技術者教育認定機構）が設立されました。

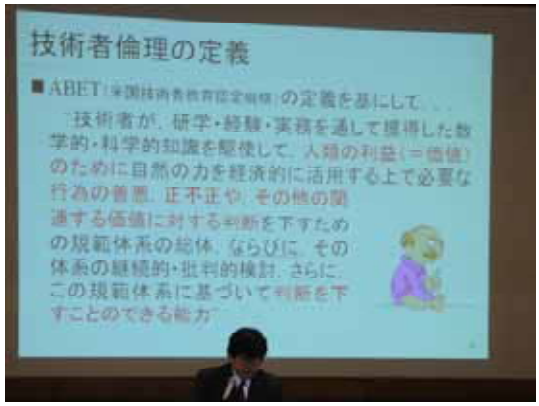
この JABEE は 2001 年から大学教育の認定を始めましたが、認定基準の一番初めにつくったのは、工学教育を行っている大学は必ずその教育目標の中に「人類の幸福とは何か？福祉とは何か？について考える能力と素養（教養教育を含む）」を掲げて、そのための努力をしなさいということです。そしてもう一つ「工学的解決法の社会および自然環境に及ぼす効果、価値に関する理解力や責任など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）」を育む教育を年間的に実施しなさいということです。これは我々にと

っても大きな衝撃でした。

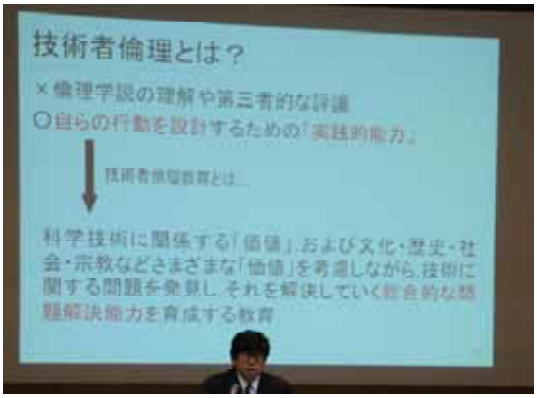
同じころ 2000 年には技術士法が変わり、2001 年の試験から、1 次試験にも 2 次試験にも倫理問題が入ってくるようになりました。こういう制度の問題、資格の問題に加えて、1995 年オウム真理教のサリンの事件、また「もんじゅ」の事故その後の事故隠し、1999 年には日本には起こるはずがないと言われた JCO の臨界事故、こういうことが毎年新聞を賑わし、技術者の顔が見える、技術系組織が見えるという事件が日本で頻発しました。主要な大きな事件を挙げましたが、マクロな問題から、我々社会における現実的な問題、こういった問題から技術者教育が求められるようになってきた訳です。

技術者倫理教育の新しい流れ

では、技術者教育とは、日本ではどのような考え方かを説明しようと思います。技術者教育とはどのようなものかということに関して、ABET では「プロフェッショナルとしての責任や倫理的責任の理解」と言っていますし、「工学的解決が社会や環境に与える影響を理解できる幅広い教養」と言っております。また、JABEE は「技術が社会及び自然に及ぼす影響・効果及び技術者の社会に対して負っている責任の理解（技術者倫理）」といった表現を現在は使っています。一番新しい JABEE の解説としては、「技術史についての理解を含めるのも良い」「技術と自然や社会との係わりを特定分野について理解するのでも良い」、でもとにかく「自立した技術者として必要な責任ある判断と行動の準備が重要」であるとされています。そのためには「自ら考える機会を持つことにより実践的な倫理に関する理解」が必要だと言っています。これは JABEE なりの考え方ですが、私自身としては技術者の倫理としてはこういうことを考えています。技術者の人たちというのは意志決定をするときに様々な価値のバランスを取ることが迫られます。もちろん安全という何事にも代えられない価値がありますが、例えば、コストや濃度あるいはデザイン、安心性、顧客の要求、そういった様々な価値の間の直接的なバランスを取る意志決定を援ける。それが私は技術者教育であると考えています。



私なりに技術者倫理を定義すると「技術者が、研学・経験・実務を通して獲得した数学的・科学的知識を駆使して人類の利益（＝価値）のために、自然の力を経済的に活用する上で必要な行為の善悪・正不正やその他の関連する価値に対する判断を下すための規範体系の総体。並びにその体系の継続的・批判的検討さらにこの規範体系に基づいて判断を下すことのできる能力」。こういうふうに定義しておきたいと思います。この定義を紹介しますと、”おかしいよ”という人がいます。私の定義がまずいことはわかっています。それは



一つの定義の中に「規範体系の総体」あるいは「継続的・批判的検討」あるいは「能力」と 3 つの違った範疇のものが放り込まれており、余り格好の良い定義ではありません。ではなぜそのような格好の悪い定義を紹介しているのかと言いますと、規範体系の総体で終わってしまうと意味がないのです。技術者が規範体系の総体を知っていても意味がありません。しかも技術はどんどん変わっていきます。一つの規範体系がいつまでも通用する訳ではありません。ですから常に継続的な検討というのは必要なんです。更に、それをその規範体系について適切な意志決定をして行動できなければ駄目なんです。そういう実践知でなければ技術者倫理は意味がありません。

最近は倫理学者やいろんな人たちが教え始めましたが、もちろんそういう知識は必要だと思いますが、必要なのは「自らの行動を設計するための実践的能力」をこれから技術者になろうとしている人たちに培ってもらうということが必要だと思います。技術者教育というものは、「科学技術に関する『価値』及び文化・歴史・宗教など様々な『価値』を考慮しながら技術に関する問題を発見し、それを解決していく総合的な問題解決能力を育成する」ことだと考えております。

日本における技術者倫理教育がどう展開されているかと言いますと、振り返ってみますと、1995 年以前は日立の技術研修所において「技道」という名前をつけてずっとやってきました。あるいは大学時代に聞いたことがあると思いますが、「工学概論」であるとか「工学基礎論」あるいは「科学技術史」など、こういう形で技術者がどうやって意志決定をすべきかということについてはそれなりの取組が行われていました。しかしながら本格的な技術者倫理の教育というものが始まったのは 1995 年だと思います。この年はオーム真理教事件やもんじゅの事故が起こった年でありますし、WTO が設立した年でもあります。この年、恐らく日本で初めて「Engineering　Ethics」というタイトルの科目を金沢工業大学で開講しています。

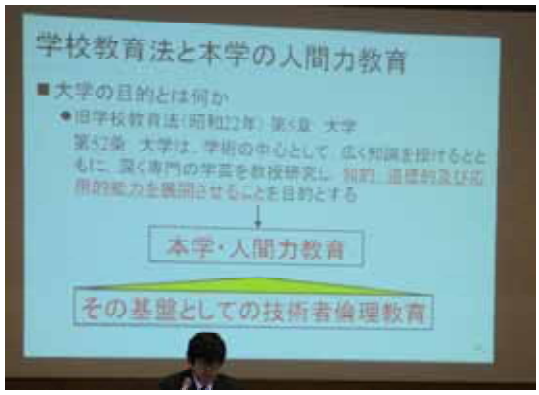
1996 年に情報処理学会が今日的な倫理綱領を作っております。実は 1938 年に土木学会が倫理綱領を作っているんですが、日本が戦争に突入する中で忘れ去られてしまいました。その後 1997 年に日本学術会議が工学部の学部教育に倫理教育を取り入れるべきだという報告書を出しております。この年 1997 年には APEC 地域で技術指導を行う、実践するための資格、APEC Engineer 制度が生まれています。そのあと、日本技術士会がいろんな形で教科書を翻訳するという作業を行いましたけれども、1999 年に JABEE が成立しています。1990 年代後半から 2000 年代初頭においては私も米国流の技術者倫理を教えておりました。2002 年くらいから、技術士や技術者だった人たちが教科書を書きましたが、千差万別でして、いろんな形の教科書が出ています。

私は、技術者の倫理を考えるときに、少なくとも 4 つのレベルを考えておいた方が良いと、いろんな人たちに申し上げております。いろんな人たちと技術者倫理について議論しますと、例えば耐震偽装の姉歯元 1 級建築士の話をしておりますと、なぜ姉歯という人が事件を起こしたかというミクロな話をしていたかと思うと、日本の建築士制度の話になっ

たり、建築と社会はどうあるべきかという話になったり、そもそも建築とは何なのかというメタあるいはマクロな話になったりいろんなレベルの話が出てきます。しかし、アメリカ人の技術者倫理のレベルは等レベルで、個人としてどう意志決定するかというミクロな技術者倫理が中心です。それに対してヨーロッパでは、STS（科学・技術・社会）に関する考えが発達していまして、マクロな観点からの技術者倫理が主です。でもこれはどちらか一方では駄目で、私は日本では両者を融合していく必要があると考えています。何のために技術者倫理教育を行っているかと言いますと、「自立した技術者」の育成の一環であるという認識が必要であると思います。

JABEE をはじめとして、中教審でも、「自立した技術者」とはいったいどんな能力や資格を持つべきかということが研究されています。中教審の報告書では「学士力」とは、知識・技能・態度・創造的思考力のことを言います。こういったものをすべて大学として指導した人間が、専門とは関係なく、持つべきだと認識している訳です。JABEE では学生にかかわらず、多面的思考能力、技術者倫理、コミュニケーション能力、プロジェクトマネジメント能力、こういうものが必要であると言われています。私がこれからの技術者倫理の教育というのは、単に１つの科目、技術者倫理という科目を立ててそれを教えるというものではなくて、いろんな技術者として教育を受けている中で総合的にやっていくことだと思っています。そういったものが 21 世紀の新教養教育であると思っています。

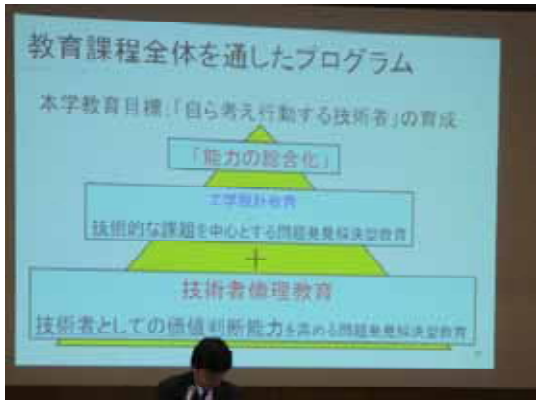
金沢工業大学における取り組み



そういう背景の中で、金沢工業大学ではどのような取組をしているかを紹介します。「特色ある大学教育支援プログラム」というものを昨年選定していただきました。我々はこれに「価値の共有による技術者倫理教育」というタイトルをつけ、サブタイトルとして「行動を設計する新教養教育」としました。意志決定をして行動ができるように技術者をどう育てるかという教育を展開していこうということです。そのエッセンスというのは教育課程全体を通した技術者倫理教育の試みということです。単に一つの科目、一人の教員が教えるというものでなく、大学という環境全体を使ってやっていくということです。

本学は 1965 年に開学した比較的新しい大学です。大学の建学綱領の中に「人間形成」が一番初めに謳われています。あと「技術革新」「産学協同」、この 3 つが建学綱領です。開学当時の第 1 回の教授会で、技術を使う悪魔をつくってはならないということについて話し合われています。すべての知識や能力を誤ったことに使ってはならないということを明確にしました。1965 年の開学以来、その倫理を強調しております。

実際にどういうことをやってきたかと申しますと、1968 年には「人間と自然」という必修科目を設定し、2 泊 3 日の研修を通して人間形成の教育をしております。1980 年からは全員に「科学史」を必修科目として課しました。1992 年には大学の技術者教育はどうあるべきかということを教員に考えてもらうために、アメリカのトップの大学へ延べ 170 人の



教職員が視察しています。

その時の視察の中で、当時、日本の教育の中にはなくてアメリカの技術者教育の中にあるものが 2 つありました。1 つは設計教育です。実際にものを設計する教育です。アメリカの大学では非常に具体的なものを設計させていました。例えば、スペースシャトルの制御部のアームを設計させるとか、あるいは実際に病院にインタビューに行かせて身障者に必要な器具をデザインさせ作らせていました。土木の学生だったら、環境アセスメントを含めて 3 階建てあるいは 4 階建ての駐車場ビルを実際に設計させています。そういったことを学部からやっているんですね。これは本学でも取り入れなければならないということで、「工学設計教育」という科目を恐らく日本の大学では一番初めに取り入れさせていただきました。お陰様で、その領域では優れた取組をしている大学ということで評価を頂いております。もう 1 つアメリカのトップだと言われている大学の技術者教育の中にあって、日本の教育にないものが技術者倫理教育です。私は 1994 年あたりから、もっとこの技術者倫理を日本の中に取り入れなければならないということで、いろんな形で努力をしてきました。1995 年からは「人間と科学技術の歴史」を開講しましたし、同じ年から「技術者入門」という科目を開講いたしました。1997 年には「科学技術応用倫理研究所」をつくらせていただきました。恐らく日本ではこういうことをやっている大学は余りないと思います。

何を申し上げたいかと言いますと、今、日本の多くの工学系大学で一緒に協議が行われています。でも、そのほとんどはいわゆる JABEE 対応です。JABEE が、技術者倫理が必要だと言っているから我々も教えるということが本分なのです。それが 1999 年です。でも本学の場合は、もう既に開学当時から技術者倫理というものを重視しておりますし、1994 年から職業倫理の育成に関する総合的な研究でありますとか、実際に技術者の倫理教育を開始しあるいは技術者倫理の教育を研究する科学技術応用倫理研究所を設立してやってきた訳です。

最近、学校教育法が変わりましたけれども、旧の学校教育法の中でも、大学の目的はこういうふうに書かれていました。「大学というのは学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、そのあと知的、道徳的及び応用的な能力を展開させること、これを目的とする」というふうに謳われていました。皆さんの大学時代を思い出してみてください。知的、道徳的及び応用する能力これを展開することがあったでしょうか。少なくとも私がいた大学では余りありませんでした。私どもの学校では愚直に文科省がやれといった事をやるといった大学でございますので、この後者のこれをちゃんとやりましょうということで人間力教育ということを開学当時からいろいろ形を変えてやってきています。その人間力の基盤として、現在、我々は技術者倫理教育を考えております。

私どもの取り組みの特色は幾つかありますが、そのうちの一つが大学全体が掲げている理念や教育目標というものと直結して教育課程全体を通して組織的に技術者教育を教えようとしているところです。本学は 4 学部 14 学科がありますが、この 4 学部全体を通して自ら考え行動する技術者の育成という事を教育目標に掲げています。自ら考えるというこ

と、それは知識を学生諸君に持ってもらってあるいはそのスキルを身につけてもらってということで、専門教育の中で行う事ができる訳ですが、行動するといったときに先ほど述べました倫理の問題が出てくる訳です。どんな行為や行動がいいのかを考えなくてはなりません。これはもっと全体的に早く展開するべきだったんですが、まず初めに我々は工学設計教育にて実施します。この科目で技術的な課題を中心とする問題発見解決型教育を行います。オープンエンディングの解は多様です。いろんな解があるような設計問題に学生諸君がグループで取り組みます。

1 年生で工学設計Ⅰを、2 年生で工学設計Ⅱそして 4 年生で工学設計Ⅲということで、今までの研究という観点ではなく、技術者としてどう問題を解決するのだという事をグループ活動を通して学んでもらうという教育です。そういうことがあって、最近では教育課程全体としてどういうふうに行動すればいいのかという意味を理解し、価値判断の能力を高めるための問題発見型の教育を展開しています。基本的には 3 つの必修科目がありまして、1 年生の段階で「技術者入門」という科目があります。企業で長く経験を積んだ技術者の方たちが自分の経験を通して技術者とはいったいどのような者なのか、技術者として優れた仕事をするためにどういうことが必要なのかというのを語ってもらいます。2 年次では「日本と日本人」ということで日本人が持っている価値観、世界の人たちが日本人をどう見ているのか等を含めて日本人としての価値観を見直してもらうという科目を必修科目で持っています。3 年次、我々の学校では技術者としていったいどんな価値、何を大事にすべきなのかを教える教育をやっております。そして、専門教育・専門科目の中にも少しずつ倫理の問題を取り入れて、すべての科目の中に最終的には倫理的な問題を考えていくという試みをやっております。

また工学設計教育の中では、工学設計Ⅰ、Ⅱ又はⅢでは、自分が行った設計が社会にどんな影響を与えるのかということを必ず考察してもらうということをやっています。とにかく、我々がやっていることは教育課程全体を通じて各科単独の教科でやるのではなく、技術者の立場や技術者としての価値判断力が必要だということを教えようとしています。Across the Curriculum モデルとは Across の前に何を付けても構いません。Communication でも構わないし、どの教育課程でも構いません。本校が最も大事だと思っていることをすべての科目を通じて教えるということです。これは他の教育機関でも展開していただけるんじゃないかと思います。

カリキュラム全体を通してどうやって倫理を教えていくのかということですが、技術工学の専門の先生方・教員に聞きますと、倫理の教え方なんて倫理の専門家じゃないのでそんなものは教えられませんという方が多いんです。でも我々のようないわゆるエンジニアではないんですが、「倫理が大事だ大事だ」と言っても、将来エンジニアになろうとしている学生諸君には通じないんです。通じることもありますが、インパクトとしてはそれほど強くありません。それよりも自分が将来こうなりたいと思っている専門の教員が「倫理は大事なんだ」「倫理的に考えるというのはこんなことなんだよ」と自分の専攻科目の中で展開していただければ、これほど教育らしいことはありません。それをどういうふうにやっていくかというと、我々は通常専門の先生方に何時間もかけて倫理や社会について教えてくれという要求は当然いたしません。もう既にカリキュラムは一杯だし、そんなことはできません。そうではなくて、自分が教えている専門科目のほんの一部に倫理的な要素

を取り入れる、あるいは社会的な文脈を与える、そうすることによって通常の専門倫理の問題がそういうことを繰り返すことによって、技術者が重視すべき価値、例えば安全第一だという価値を理解できることになるのです。

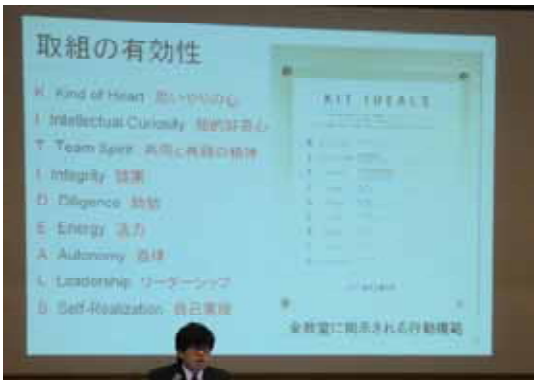
具体的にどういう事なのかと言いますと、例えば熱力学でこういう計算をしなさい 2 種類のフロンでどちらのフロンを使った方がいいのかという単なる計算問題の場合でも、例えばどちらが環境問題によいのか、影響は大きいのか少ないのか、コストはどれくらいなのか等、こういう要素を加える事によって、その技術がいったい社会に使われるときにはどうやって使われているのか、専門の学習を通して学生が学んでくれることになります。これを我々はマイクロインサーションと呼んでおりまして、自分の専門科目の中にほんのちょっとだけでいいですから取り入れてくださいとお願いしています。そのために様々な取組をしている訳です。

そういう取組の中核として存在する組織は普通こういうことをやろうとした時に、特に本学のように 14 学科もある場合は、全学的な展開をする時にいったいどんな役目を、どこがそのような教育の設計や開発を行うのかと言われますけど、その取組の中核として段取りの中核組織としての科学技術応用倫理研究所を1997年に作っております。4 つのミッションがありますけれども、その中でも最も重要なものは技術者養成における教育課程の在り方に関する研究や技術者倫理教育の手法や教材・測定・評価方法の開発などが挙げられます。それ以外にも技術者倫理教育に関する人材をどう育てるか、教えることができる人材をどう育てるか、こういった研究をしておりまして、日本の国内外、日本の中の組織、外国の様々な組織と共同しながら準備をしております。準備したものを専門の先生方と一緒に検討しながら、各学科から約 2 名ずつ鋭意に出てきていただいて、技術者倫理教育方針というものを作っています。これは全学的な組織であり、実質的な実働部隊となっています。ですから我々がシンクタンクとしての役割を果たして、実働部隊としては各科の 2 名の先生方が学科の教育をしながら行うということをやっております。大学の研究所のホームページにもありますので、興味のある方は是非見ていただければと思います。

いろんなところで教育課程全体を通じた教育というものを行っております。先ほど紹介しました必修科目の3つ目 3 年生の科学技術者Ⅱあるいは 1 年生の技術者Ⅱを教えている教員は科学技術応用倫理の研究員でもあります。

私どもは 1500 人の学生を毎年 3 年次に必修科目として科学技術者倫理を教えております。現在は 5 名ですが、来年度から 6 名の専任の教員が教えることになります。そのために 6 人の教員で共同してパワーポイントのスライドを作っています。誰でもやる気がある人がすぐにでも教えることができるように、試験や課題の内容、評価の仕方などといったものをすべて一つのパッケージにしたものを作り上げています。

取組の有効性はどうかと言いますと、まだまだ定量的な評価というものはありませんが、定性的になると肯定的なものがほとんどであります。私たちは価値の共有ということを言っていますが、大学としてどんな価値を重視していくかということで、KIT IDEALS を 2000 年のもう少し前から定めました。今までの歴代の学長が大学教育の中でこういうことが大事なんだと言ってきたことを簡単な標語にまとめたものです。KIT　IDEALS と金沢工業大学の理念・理想ということで、「思いやりの心をもって他の人のために仕事をす



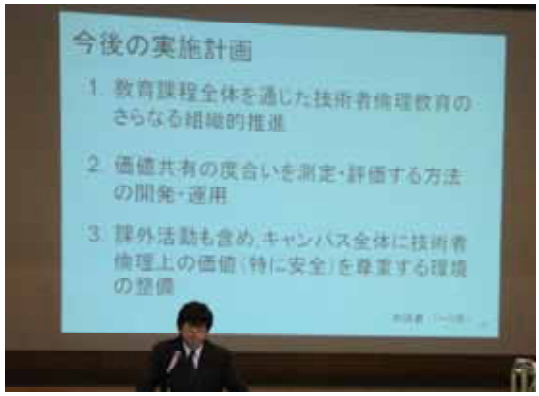
る、これが技術者だ」と初代学長が言っておりましたので、これを Kindness of Heart で表しました。あと、知的な好奇心（Intellectual Curiosity）、共同と共創の精神（Team Spirit）、誠実（Integrity）であれ、勤勉（Diligence）であれ、そして活力（Energy）を持って自律（Autonomy）したリーダーシップ（Leadership）を取って、更に自分自身が持っている可能性を最大限に活かすこと（Self-Realization）の頭文字を取って表記したものが KIT IDEALS です。これをすべての教室に掲示しています。実は我々の給料明細の後ろにも KIT IDEALS と書かれていますし、とにかくホームページも見ていただけると KIT IDEALS が出ています。更に、学生諸君がやってくれたのですが、本学に入学した日に学生宣言を全員が署名いたしました。学生宣言には KIT IDEALA に書かれている価値観の精神を重視しますということを大学に入った段階で宣言してくれました。

オランダでは1992年にすべての専門教育に倫理教育をとりあげる法律ができまして、技術者倫理を教えています。でも、世界中どこでも一緒でして、少ない教員でたくさんの人数を教えなきゃいけないということですから、我々はオランダで言いますとｅラーニングで倫理的な問題を解決するためにシステムを作りました。Agora と言われていますがこの Agora を我々金沢工業大学で日本語化をいたしまして、今年度から全員に課題を課しています。かなり複雑な事例やケースを学生が一人ずつ自分で考えていくという過程をコンピュータ上でやってもらう、それを我々がチェックするというシステムを全面的に取り入れております。

毎年 1500 人教えますので、一人あたり 300 人の学生を教えなければなりません。そうしますとなかなかコミュニケーションがとれませんから、毎回紹介文からいろいろ書かせる課題を出したり考えてもらう課題を出したりあるいは質問したりあるいは一言コメントと言って何でもいいから言いたいことを書けと言って書かせています。書いてもらったことには、全部コメントをつけて印刷して次の授業に返します。別の授業では授業が終わった次の日にコメント付けてホームページで掲載しています。そうすることで 1 対 1 のコミュニケーションの薄さをできるだけ補完することをしています。

更に、今ピッツバーグ大学と一緒にやっておりますけども、迅速な判断能力をどうやって付けさせるか、通常の授業がありますけども、そこで最後の課題として一つの事例を出してそれを自分らがどうやって行動し再現するのか、大変難しい問題です。それを再現するためにルーブリックというものを開発しました。60 人の教員で同じ答案を採点した時に、ほとんどブレがない採点ができるような形になるようにしています。まだこれからも進めていかなくてはならないと思っております。

こういう取組を始めたんですけどもなかなかまだ専門の先生方に理解していただくことが難しいもので、わかってくださる方は本当にわかっていただいて協力してくださるんですが、特に、まだ若い先生方や、自分の研究が忙しいという先生方には技術者倫理教育になかなか本当の理解を頂いていません。これをもっと組織的に推進していく必要があると



考えています。先ほど申し上げたKIT IDEALの中の価値、あるいは技術者として重視する価値、これはいろんな中に重視すべきだと書かれているんですけど、そういう感じの教育環境が大事だと考えています。今、我々はシステムを作りまして大学に入った段階から卒業する段階まで学生たちの価値共有の具合がどう変わってきていくのかが測定できるシステムの開発を続けています。また正規の授業の中だけではなくて様々な課外活動の中に技術者としての価値観が反映されるようにしたいと考えています。

実は、もう一つ反映されているものがありまして、本学はソーラーカーのプロジェクトが有名でかつてはかなり成績が優秀だったんですが、最近なかなかいい成績が出ません。よくよく聞いてみたら、学生たちは「高い出力の太陽電池は地球の環境に悪いんですよ。重金属を使った太陽電池を使うのではなくて環境に優しい太陽パネルを使って我々は勝ちたい」と言ってくれるんです。またロボットコンテストも、「他の動きを邪魔したり、攻撃をしたりして勝つ方法だけは絶対とらない」ということを学生諸君が言ってくれます。そういう考え方が少しずつ彼らの中に根ざしていけば私としては大変喜ばしいことだと考えております。

この後いろんな形で教育活動を展開していきたいと思っているんですが、そのことに関してはまた数年後機会がありましたら、関係の先生方に紹介させていただきたいと思います。今日は時間がそろそろなくなってきましたので、私の話はこれくらいにさせていただきたいと思っております。

どうも、ご静聴ありがとうございました。

資料6

平成２０年度 道徳教育年間指導計画

石川県立小松工業高等学校

			1 自分自身					～とのかかわり																				
								2 他の人					3 自然や崇高なもの			4 集団や社会												
			(1) 基本的生活習慣 節度・節制	(2) 強い意志と態度	(3) 自主自立 誠実・責任感	(4) 真理愛 理想の実現	(5) 個性の伸長	(1) 礼儀	(2) 感謝と思いやり	(3) 友情・信頼	(4) 異性理解	(5) 寛容と謙虚な心	(1) 自然愛護 畏敬の念	(2) 生命の尊重	(3) 弱さの自覚と克服 生きる希望	(1) 役割と責任 協力	(2) 遵法精神	(3) 公徳心 社会連帯	(4) 正義の実現	(5) 勤労 奉仕の精神	(6) 家族愛	(7) 愛校心	(8) 郷土愛	(9) 国家の発展 文化の継承・創造	(10) 国際理解と貢献 人類愛		
月	学年	主題名																								他との関係	備考
４月	全学年	ボランティア遠足							○	○			○					○		◎			○			俳句短歌大会	
５月～７月	３年一部	デュアルシステム	○		○			○								○		○		◎						生き方を考える	
６月	２年	外部講師事業（工業科）	○		○			○								○				◎						働くってどういうこと	
６月	２年一部	学校開放講座			○			○							◎					○			○	○		パソコン初級講座	
７月	全学年	工場見学						○												◎			◎			生き方を考える	
７月	１年	外部講師事業（いのちと心の教育）							○		○			◎		○	○				○				○	若者の性の健康を守るために	
７月	２年								○		○			◎		○	○				○				○	生と性の学習会	
７月	３年								○		○			◎		○	○				○				○	こころ・からだ・性	
７月	３年	外部講師事業（工業科）	○		○			○								○				◎						自らの進路決定に向けて	
７月	部活動	ボランティア清掃							○				○							◎			○			学校版環境ＩＳＯ	
８月～10月	２年	インターンシップ学習	○	○	○			○								○		○		◎						生き方を考える	３日間
10月	３年一部	中学生への出前授業			○				○							○		◎				○		○		みんなでアイデアを生み出そう	選択科目
11月	３年一部	小学生への出前授業			○				○				○			○		◎				○				環境に配慮したものづくり	課題研究
11月	全学年	朝読書	○				○								○									○		いしかわ教育ウィーク	
11月	代表生徒	ＰＴＡ･生徒の本音で語る会										○					○	○		◎	○	○	○			学校公開事業	
11月	全学年	ＬＨＲを活用した「道徳の時間」				○						○		○	◎		○		○						○	道徳性育成の視点を盛り込んだ授業	
11月	全学年	「道徳性育成の視点」を盛り込んだ授業	◎				○	○																		向上心	
12月	２年	インターンシップ発表会	○		○			○								○		○		◎						生き方を考える	
	１年		○		○			○								○		○		◎						生き方を考える	
12月	部活動	ボランティア清掃							○				○							◎			○			学校版環境ＩＳＯ	

【内容項目記入例】　◎：中心となる内容項目　○：関係する内容項目

文部科学省委嘱
平成19年度高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業
平成20年度道徳教育実践研究事業
研究報告書

発 行 日　平成21年3月24日
発　　行　石川県立小松工業高等学校　発行人　村上　哲夫
編　　集　石川県立小松工業高等学校　道徳教育実践研究委員会
〒923-8567 石川県小松市打越町丙67番地
TEL:0761-22-5481　／　FAX:0761-22-8491
印刷製本　鵜川印刷株式会社
〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地
TEL:0761-47-0188　／　FAX:0761-47-0077

Copyright(C) 2009 KOMATSU TECHNICAL HIGH SCHOOL all rights reserved.